SHARP®

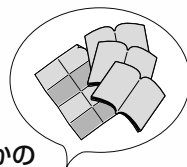
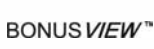
1. 接続・準備編

取扱説明書

ブルーレイディスクレコーダー

形名 BD-T2100（ビーディーティー）
BD-T1100
BD-T510

はじめにお読みください。

• 操作については別冊の取扱説明書 2. 操作編 をご覧ください。
• 録画や再生など基本的な操作は「かんたん!!ガイド」でも説明しています。

BONUSVIEW™
お買いあげいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

• ご使用の前に、「安全にお使いいただくために」(→**6**ページ)を必ずお読みください。
• この取扱説明書および別冊の取扱説明書は、保証書とともに、いつでも見ることができる所に必ず保存してください。
• 製造番号は、品質管理上重要なものですから、商品本体に表示されている製造番号と保証書に記入されている製造番号とが一致しているか、お確かめください。

本書のほかの取扱説明書
• 「接続・設定ガイド」
• 2. 操作編
• 「かんたん!!ガイド」

最初にお読みください

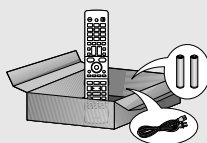
取扱説明書は 4 冊あります。

- 1. 接続・準備編 ……………本書を指します。本機の接続方法と、最初に必要な設定を説明しています。
- 2. 操作編 …………………別冊の取扱説明書「2. 操作編」を指します。操作を詳しく説明しています。
- 「接続・設定ガイド」……基本的な接続を説明しています。（詳しい接続や設定は本書をお読みください。）
- 「かんたん !! ガイド」……基本的な操作「録画や再生」について説明しています。

※ 取扱説明書では、「ブルーレイディスクレコーダー BD-T2100 ／ BD-T1100 ／ BD-T510」を「本機」と表現しています。

※ 取扱説明書では、本機に内蔵の HDD（ハードディスク）を「内蔵 HDD」と、スロットインハードディスクを「SHDD」と、外付けの HDD を「外付け HDD」と表現しています。

※ 取扱説明書に掲載しているイラストは、BD-T2100 を例にしています。また、説明のため簡略化していますので、実際のものとは多少異なる場合があります。

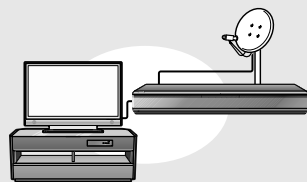
1 箱に入っているものを確認する

3 ページ

2 テレビや他の機器を接続する

- アンテナ、テレビ、ビデオ機器、CATVのデジタルセットトップボックス、オーディオ機器などと接続する

▼

■BDビデオの「BD-LIVE機能」を楽しむとき、デジタル放送の双方向通信を行うとき、ホームネットワークを楽しむとき
⇨ LANに接続する（**40**ページ）
⇨ LAN設定をする（**74**ページ）

■B-CASカードを本機に挿入する（**42**ページ）

20～42ページ

3 リモコンに乾電池を入れる

電源コードを接続する

コンセントに電源プラグを差し込む・電源を入れる

19、43ページ

4 初期設定／接続設定を行う

接続（**20**～**40**ページ）とリモコンの準備、本機の準備（**19**、**41**～**43**ページ）が終わったら、必ず先に「初期設定」（**45**ページ）を行ってください。

45～52ページ

5 その他の設定をする

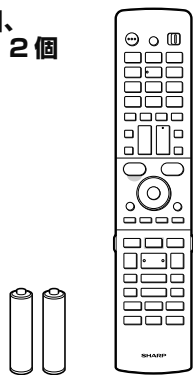
- リモコンの設定をする
- BS・110度CSデジタル放送／地上デジタル放送のチャンネルを設定する

55～73ページ

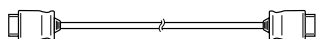
付属品

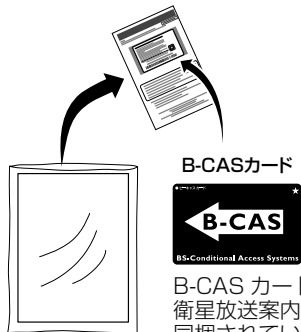
- 箱を開けて、本機とつぎの付属品がそろっているか確認してください。
- B-CAS カードは開封すると添付されている契約約款に同意したとみなされます。開封前に必ず契約約款をよくお読みください。

付属品

リモコン× 1 個、単 3 形乾電池× 2 個

使いかたは **19**、2. 操作編 **18** ～ **20** ページ

- 電池を交換する際は、アルカリ乾電池のご使用をおすすめします。

HDMI ケーブル（HIGH SPEED（カテゴリー 2）／約 2m）× 1 本

使いかたは **26**、**32**、**38** ～ **39** ページ

B-CAS（ビーキャス）カード× 1 枚

B-CAS カードは、デジタル衛星放送案内チラシと一緒に同梱されています。

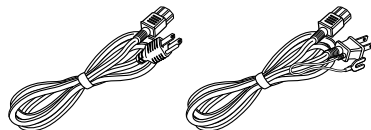
（B-CAS カード使用許諾契約約款付き）

地上デジタル、BS デジタル、110 度 CS デジタルの各放送を見るには、B-CAS カードを本機に挿入してください。

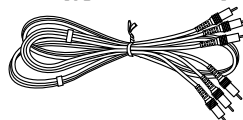
使いかたは **41** ～ **42** ページ

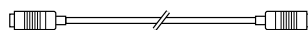
電源コード（約 2m）

注意：付属の電源コードは本機専用です。他の機器に使用しないでください。

BD-T2100/BD-T1100（× 2 本）

BD-T510（× 1 本）

使いかたは **43** ページ

映像・音声コード（約 1m20cm）× 1 本

使いかたは **23**、**27**、**28**、**31** ページ

アンテナケーブル（約 2m）× 1 本（両側 F 接栓ケーブル）

使いかたは **22** ～ **24** ページ

取扱説明書

- 1. 接続・準備編（本書）※
- 2. 操作編※
- 接続・設定ガイド※
- かんたん !! ガイド※

※ 当商品は日本国内向けであり、日本語以外の説明書はございません。
This model is designed exclusively for Japan, with manuals in Japanese only.

保証書

本機の保証書は、本機の梱包箱に貼り付けています。

別売品

■ AQUOS ブルーレイ専用 SHDD（スロットインハードディスク）

- 別売の SHDD（スロットインハードディスク）「VR-SHD50」を本機に挿入し、番組を録画することができます。

使いかたは **35** ページ

■ネットワークアダプター

- 別売のネットワークアダプター「VR-NP1」をご使用になりますと、DLNA（ホームネットワーク）に対応していない HDMI 端子付きテレビでもホームネットワーク機能が楽しめます。

確認 接続・準備 初期設定 設定 困ったときは

まずは 別冊「接続・設定ガイド」、
本書 1. 接続・準備編 で基本的な接続
別冊「かんたん!!ガイド」で基本的な操作

もくじ

確認する

接続・準備する ご自分で接続するときはここからお読みください。

初期設定する

デジタル放送などの設定をする

困ったときは

安全にお使いいただくために

●「安全にお使いいただくために」はお使いになる前に必ず読み、正しく安全にご使用ください。
●この取扱説明書には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。その表示を無視して誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

⚠ **警告** 人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。
⚠ **注意** 人がけがをしたり財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています。

図記号の意味

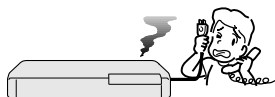
気をつける必要があることを表しています。

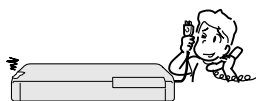
してはいけないことを表しています。

しなければならないことを表しています。

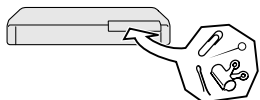
⚠ 警告

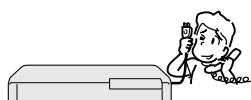
本機やSHDD（スロットインハードディスク）から煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のときは電源プラグを抜く

・ 異常状態のまま使用すると、火災·感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

電源プラグを抜く

・ 本機を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
・ SHDD（スロットインハードディスク）を落としたり、振動や衝撃を与えないでください。データの消失や故障の原因となります。

電源プラグを抜く

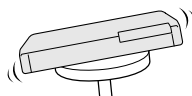
本機やSHDD（スロットインハードディスク）内部に物や水などを入れない

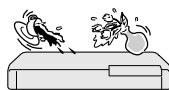
・ 本機の開口部（通風孔やディスクトレイ開閉口など）やSHDD（スロットインハードディスク）の内部、コネクター部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

禁止

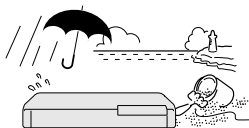
・ 異物や水が本機の内部に入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源プラグを抜く

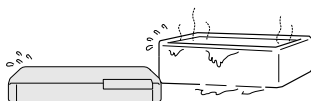
不安定な場所に置かない

・ ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

禁止

本機やSHDD（スロットインハードディスク）の上には花びん、水などの入った容器を置かない

・ 水がこぼれたり中に入った場合、火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

・ 水を入れたり、ぬらしたりしないでください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

水ぬれ禁止

・ 風呂、シャワー室では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

風呂、シャワー室での使用禁止

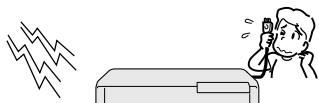
警告

表示された電源電圧で使用する

- 表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

100V 使用

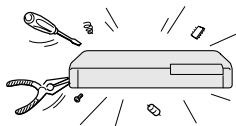
雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れない

- 感電の原因となります。

接触禁止

キャビネットは絶対に開けない

- 感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

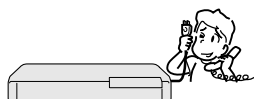
分解禁止

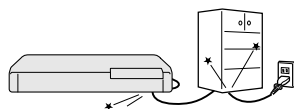
- 本機や SHDD（スロットインハードディスク）を分解したり改造したりしないでください。発熱・発火・感電・けがの原因となります。またレーザー光が目に当たると視力障害を起こす原因となります。

分解禁止
禁止

電源コードを破損するようなことはしない

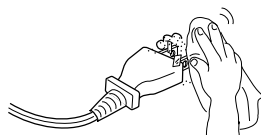
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。電源コードが破損して火災・感電の原因となります。

禁止

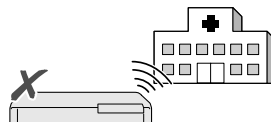
- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

交換を依頼する

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

禁止

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は乾いた布で取り除く

- そのままで使用すると火災・感電の原因となります。

ほこりを取る

無線 LAN 機能は病院内で使用しない

- 医療機器の誤動作の原因となることがあります。

禁止

無線LANを使用するときは心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離して使用する

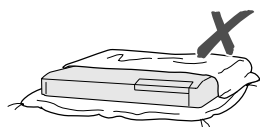
- 電波によりペースメーカーの動作に影響を与える恐れがあります。

距離に注意する

次ページへつづく

⚠ 注意

本機の通風孔をふさがない

- 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使いかたはしないでください。
  - 本機を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。
  - テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置く。

  - あお向けや横倒し、逆さまにする。（動作姿勢水平）

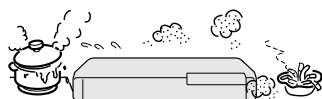
本機や SHDD（スロットインハードディスク）の上に重いものを置かない

- 本機に乗らないでください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 上に重い物を置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

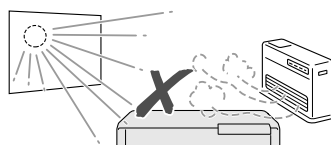
- ディスクトレイの上にものを置かないでください。

本機や SHDD（スロットインハードディスク）を油煙、湯気、湿気、ほこりなどが多い場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

本機や SHDD（スロットインハードディスク）を冷気が直接吹き付ける所や極端に寒い所には置かない

- つゆがつき、漏電、焼損、故障や事故の原因となることがあります。

本機や SHDD（スロットインハードディスク）を直射日光の当たる場所や温度の高い場所に置かない

- 内部の温度が上がり、火災・感電の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近づけない

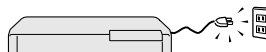
- コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

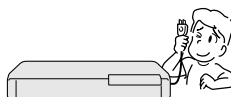
移動させるときは必ず接続コードを外す

- 移動させる場合は電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線や機器間の接続コードなど外部の接続コードを外したことを確認の上、行ってください。接続したまま持ち運ぶとコードが傷つき、火災･感電の原因となることがあります。またディスクは取り出しておいてください。

- 移動させるときは、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。けがや故障の原因となることがあります。

お手入れのときは電源プラグを抜く

- 安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

テレビ、オーディオ機器などに接続するときは、本機の電源プラグをコンセントから抜く

- 電源を入れたまま接続すると、感電やけがの原因となることがあります。

⚠ 注意

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

- コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず電源プラグを持って抜いてください。

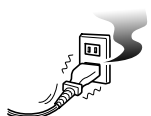
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

- 感電の原因となることがあります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

- 差し込みが不完全なときは、発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。
- 金属の部分にふれると感電の原因となることがあります。

電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるときはコンセントに接続しない

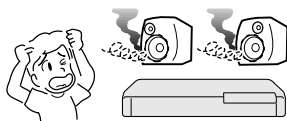
- 発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

ディスクトレイ開閉口や SHDD（スロットインハードディスク）挿入口に手を入れない

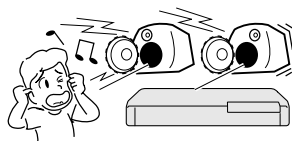
- 小さなお子さまがディスクトレイ開閉口やSHDD（スロットインハードディスク）挿入口に、手を入れないようご注意ください。けがの原因となることがあります。

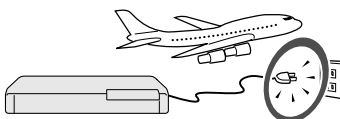
ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない

- 飛び散ってけがの原因となることがあります。

長時間、音が歪んだ状態で使わない

- スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

電源を入れる前にはテレビやアンプの音量を最小にする

- 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

旅行などで長時間ご使用にならないときは電源プラグを抜く

- 安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

３年に一度くらいは本機内部の清掃を販売店に依頼する

- 本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、内部掃除費用については、販売店などにご相談ください。

タコ足配線をしない

- 感電・火災の原因となることがあります。

アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、電気工事店などにご相談ください

- 送配電線から離れたところに設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

アンテナは強風の影響を受けやすいので、堅固に取り付け設置してください。

次ページへつづく

⚠ 注意

電池についての安全上のご注意

液もれ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

電池は幼児の手の届く所に置かない

- 電池は飲み込むと、窒息の原因や胃などに止まると大変危険です。飲み込んだ恐れがあるときは、ただちに医師と相談してください。

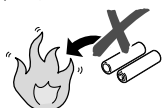
禁止

電池の液が漏れたときは素手でさわらない

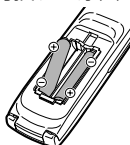
- 電池の液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類に付着した場合は皮膚に障害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚の炎症など障害の症状があるときは、医師に相談してください。

禁止

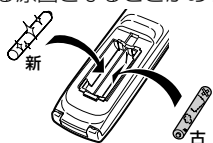
電池は火や水の中に投入したり、加熱・分解・改造・ショートしない。乾電池は充電しない

- 電池の破れつ・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

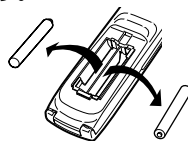
電池はプラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、機器の表示どおり正しく入れる

- 間違えると電池の破れつ・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

表示どおりに入れる

指定以外の電池を使わない。新しい電池と古い電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

- 電池の破れつ・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

電池を使い切ったときや、長時間使わないときは、電池を取り出す

- 電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ故障、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池を取り出す

3D 映像を視聴される場合のご注意

光過敏の既往症がある人、心臓に疾患がある人、および体調不良の人は視聴しない

- 病状が悪化する原因となることがあります。

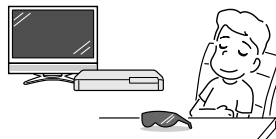
禁止

3D 映像の視聴年齢は、およそ 5 ～ 6 歳以上を目安にする

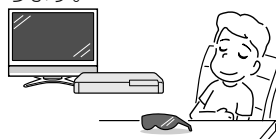
- お子様の場合は、疲労や不快感などに対する反応がわかりにくいため、突然体調が悪くなる場合があります。お子様がご視聴になる際は、目の疲れがないかを保護者の方が、ご注意ください。

お子様の視聴に注意する

視聴中に疲労感、および不快感など異常を感じた場合には、視聴を止め適度な休憩をとる

- 視聴を続けると体調不良の原因となることがあります。

視聴を中止する

3D 映画などを視聴する場合は、1 時間程度を目安に適度な休憩をとる

- 長時間の視聴にともなう視聴疲労の原因になることがあります。

休憩をとる

登録商標

商標・登録商標など

- 本製品は、ロヴィコーポレーションが保有する米国特許およびその他の知的財産権で保護された著作権保護技術を採用しています。リバースエンジニアリングまたは逆アセンブルは禁止されています。
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
- Dolby、ドルビーおよびダブル D（）記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
- Manufactured under license under U.S. Patent #'s: 5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,392,195; 7,272,567; 7,333,929; 7,212,872 & other U.S. and worldwide patents issued & pending. DTS and the Symbol are registered trademarks, & DTS-HD, DTS-HD Master Audio | Essential and the DTS logos are trademarks of DTS, Inc. Product includes software. © DTS, Inc. All Rights Reserved.
- Blu-ray Disc は商標です。
- "Blu-ray 3D™" および Blu-ray 3D は、Blu-ray Disc Association の商標です。
- BDXL™ は、Blu-ray Disc Association の商標です。
- BD LIVE™ は、Blu-ray Disc Association の商標です。
- BONUSVIEW™は、Blu-ray Disc Association の商標です。
- Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- DVD は DVD フォーマットロゴライセンシング（株）の商標です。
- AVCHD および AVCHD ロゴは、パナソニック株式会社、ソニー株式会社の商標です。
- 「スカパー！HD 録画」ロゴは、スカパーＪＳＡＴ株式会社の商標です。
- マーク、 および「ａｃＴＶｉｌａ」、「アクトビラ」は、（株）アクトビラの商標です。
- HDMI、HDMI ロゴおよび高品位マルチメディアインターフェイスは、米国及びその他の国における HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認証マークです。
- DLNA®, the DLNA Logo and DLNA CERTIFIED™ are trademarks, service marks, or certification marks of the Digital Living Network Alliance.
- Cinavia の通告
  この製品は Cinavia 技術を利用して、商用制作された映画や動画およびそのサウンドトラックのうちいくつかの無許可コピーの利用を制限しています。無許可コピーの無断利用が検知されると、メッセージが表示され再生あるいはコピーが中断されます。
  Cinavia 技術に関する詳細情報は、http://www.cinavia.com の Cinavia オンラインお客様情報センターで提供されています。Cinavia についての追加情報を郵送でお求めの場合、Cinavia Consumer Information Center, P.O. Box 86851, San Diego, CA, 92138, USA まではがきを郵送してください。
  この製品は Verance Corporation（ベランス・コーポレーション）のライセンス下にある占有技術を含んでおり、その技術の一部の特徴は米国特許第 7,369,677 号など、取得済みあるいは申請中の米国および全世界の特許や、著作権および企業秘密保護により保護されています。Cinavia は Verance Corporation の商標です。
  Copyright 2004-2010 Verance Corporation.
  すべての権利は Verance が保有しています。リバース・エンジニアリングあるいは逆アセンブルは禁じられています。

本機で使用しているソフトウェアのライセンス情報

ソフトウェア構成

本機に組み込まれているソフトウェアは、それぞれ当社または第三者の著作権が存在する、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成されています。

当社開発ソフトウェアとフリーソフトウェア

本機のソフトウェアコンポーネントのうち、当社が開発または作成したソフトウェアおよび付帯するドキュメント類には当社の著作権が存在し、著作権法、国際条約およびその他の関連する法律によって保護されています。
また本機は、第三者が著作権を所有しフリーソフトウェアとして配布されているソフトウェアコンポーネントを使用しています。それらの一部には、GNU General Public License（以下、GPL）、GNU Lesser General Public License（以下、LGPL）またはその他のライセンス契約の適用を受けるソフトウェアコンポーネントが含まれています。

ソースコードの入手方法

フリーソフトウェアには、実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、そのコンポーネントのソースコードの入手を可能にすることを求めるものがあります。GPL および LGPL も、同様の条件を定めています。こうしたフリーソフトウェアのソースコードの入手方法ならびに GPL、LGPL およびその他のライセンス契約の確認方法については、以下の WEB サイトをご覧ください。
http://www.sharp.co.jp/support/av/dvd/source/download/index.html
（シャープ GPL 情報公開サイト）
なお、フリーソフトウェアのソースコードの内容に関するお問合わせはご遠慮ください。
また当社が所有権を持つソフトウェアコンポーネントについては、ソースコードの提供対象ではありません。

謝辞

本機には以下のフリーソフトウェアコンポーネントが組み込まれています。

- linux kernel
- uClibc
- OpenSSL
- modutils
- DirectFB
- zlib
- busybox
- bash
- freetype
- libjpeg
- libmpeg2
- libxml2
- libpng
- libsysfs
- mtd/jffs2
- ncurses
- Webkit
- cairo
- icu
- fltk
- curl
- giflib
- NanoXML (zlib/libpng licence)
- libav
- glib
- pango
- libsoup
- libiconv
- Fontconfig
- liboil
- swfdec
- Jpeg
- pixman
- org.apache.oro.text.regex (Apache licence v2.0)
- Droid Sans Japanese font (Apache licence v2.0)
- Droid Sans Fallback font (Apache licence v2.0)
- Droid Sans font (Apache licence v1.0)
- LibPThread, Libstdc++, Librt (GPL)

本機で使用しているソフトウェアのライセンス表示

ライセンス表示の義務

本機に組み込まれているソフトウェアコンポーネントには、その著作権者がライセンス表示を義務付けているものがあります。そうしたソフトウェアコンポーネントのライセンス表示を、以下に掲示します。

OpenSSL License

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org)
この製品には OpenSSL Toolkit における使用のために OpenSSL プロジェクトによって開発されたソフトウェアが含まれています。

Original SSLeay License

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
この製品には Eric Young によって作成された暗号化ソフトウェアが含まれています。

BSD License

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
この製品にはカリフォルニア大学バークレイ校と、その寄与者によって開発されたソフトウェアが含まれています。

この製品では、シャープ株式会社が表示画面で見やすく、読みやすくなるように設計した LC フォント（複製禁止）が搭載されております。LC フォント、LCFONT、エルシーフォント及び LC ロゴマークはシャープ株式会社の登録商標です。なお、一部 LC フォントでないものも使用しています。

使用上のご注意

重要 必ずお読みください

■ **大切な録画の場合は** ……… 事前に試し録りをするなど、機器が正常に働くことを確認してから行ってください。大切な映像は BD（BD-RE/-R）や DVD（DVD-RW/-R）ディスクにダビング保存（バックアップ）しておくことをおすすめします。

■ **録画（録音）内容の補償はできません** ……… 万一何らかの原因で本機が故障し、データが消失した場合、または不具合により録画・録音されなかった場合の録画・録音内容の補償はできません。ご容赦ください。

■ **著作権について** ……… 本機で録画・録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。私的目的で録画したものでも、著作権者等に無断で販売したり、インターネット上で公衆に送信したり、営利目的で放映すると著作権侵害となります。

■ **録画防止機能について** …… 本機は、複製防止機能（コピーガード）を搭載しており、著作権などによって複製を制限する旨の信号が記録されているソフトおよび放送番組は録画・録音することができません。

■ **保証について** ……… 本機を分解しますと、保証が無効になります。

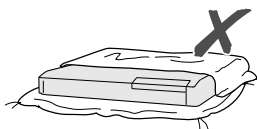
■ **再生の制限について** ……… 本機は、無許諾のディスク（海賊版など）の再生を制限する機能を搭載しており、このようなディスクを再生することはできません。

免責事項

- お客様もしくは第三者がこの製品の使用を誤ったことにより生じた故障、不具合、またはそれらに基づく損害については、法令上の責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

設置時のお願い

本体後面のファンや通風孔をふさがないでください

- 本体を設置する際は、本体後面のファンや通風孔をふさがないでください。放熱を妨げ、故障の原因となります。特にテレビ台や AV ラック等に収納して設置するときはご注意ください。
- 毛足の長い敷物やベッド、ソファーの上などで使用したり本機を布などでくるんで使用しないでください。放熱を妨げ、故障の原因となります。

設置するときは水平に置いてください

- 立てて置いたり、逆さまにする、不安定な場所や振動の多い場所などに設置したときは故障の原因となります。

本機の上には物を乗せないでください

- 本機の上に十分なスペースがとれる場所に、設置してください。
- 本機の上に、物を置かないでください。画面にノイズが出たり、キャビネットに傷がつく、キャビネットが変形するなど故障の原因となります。
- ディスクトレイの上に物を置かないでください。

ほこりや煙を避けてください

- ほこり・タバコの煙の多い場所には置かないでください。故障や事故の原因になります。

接続機器について

- 本機に接続して使用する機器の取扱説明書に記載されている「使用上のご注意」もよくご覧ください。

取扱いはていねいに

- 落下させたり、強い衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。持ち運びや移動の際にもご注意ください。

引っ越しや輸送のときは

- ディスクを取り出してから梱包してください。
  また、ふだんご使用にならないときも、ディスクを取り出してから、電源を切ってください。

重 要

本機を移動させるときは次の点にご注意ください。故障の原因になります。

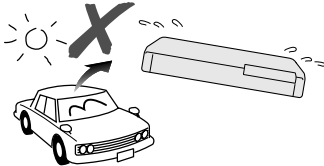
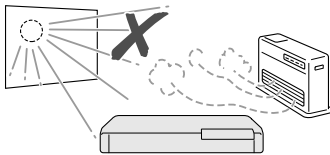
- 移動などで電源プラグを抜く場合は、HDD（ハードディスク）保護のため、「クイック起動設定」（→ 2. 操作編 **211** ページ）を「しない」、地上デジタル放送の「番組表取得設定」（→ **67** ページ）を「しない」に設定してから電源を切った状態（**本体の電源ランプが赤色点灯後、約 2 分程度待ってから**）で行ってください。

使用前に必ず設定をしてください

- 接続（→ **21** ～ **40** ページ）と準備（→ **41** ～ **43** ページ）が終わったら、必ず初期設定（→ **45** ～ **52** ページ）を行ってください。設定を行わないと、本機の操作が行えません。

使用時のお願い

高温の場所で使用しないでください

- 窓を閉めきった自動車の中など異常に温度が高くなる場所に放置すると、キャビネットが変形したり、故障の原因となることがあります。本機およびディスクの周囲が高温状態にならないよう十分ご注意ください。

- 発熱する機器の上には本機を置かないでください。
- 直射日光が当たる場所や熱器具の近くに置かないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与えますのでご注意ください。

電源が入っているときは次の点にご注意ください

- 電源プラグをコンセントから抜かない
- 本機を設置してある場所のブレーカーを落とさない
- 本機を移動させない

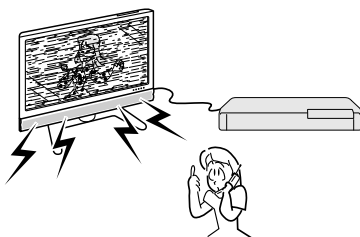
HDD（ハードディスク）の故障の原因となります。

残像現象（画像の焼きつき）のご注意

- 静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象（画像の焼きつき）を起こす場合があります。特にプロジェクションテレビでは残像現象（画像の焼きつき）が起こりやすいのでご注意ください。

磁気や電磁波妨害について

- 本機に磁石、電気時計、磁石を使用した機器やおもちゃなど磁気を持っているものを近づけないでください。
- 本機の近くで、携帯電話などの電子機器を使わないでください。

磁気の影響を受けたり、電磁波妨害などにより、再生時や録画時に映像が乱れたり、雑音が発生することがあります。また、画面の色が乱れたり、ゆれたり、大切な記録が損なわれたりすることがあります。

B-CAS カードは必要なときだけ抜き差しする

- B-CAS カードの中にはIC（集積回路）が内蔵されています。折り曲げたり、大きな衝撃を加えたり、端子部に触れないようご注意ください。また必要以外に抜き差しすると故障の原因となることがあります。
- 本機に差し込むときは「逆差し込み」や「裏差し込み」とならないよう、方向に注意して確実に差し込んでください。

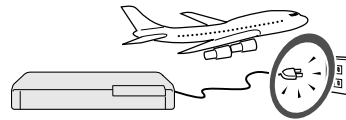
国外では使用できません

- 本機が使用できるのは日本国内だけです。外国では放送方式、電源電圧が異なりますので使用できません。

This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

長時間ご使用にならないときは

節電について

- 使い終わった後は電源を切り、節電に心掛けましょう。また旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いておきましょう。

長期間ご使用にならないとき

- 長期間使用しないと機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて作動させてください。

使用温度について

- 室温が 5℃～ 35℃の状態でご使用ください。室温の温度変化は、1 時間あたりの温度変化を 10℃以内に保つことをおすすめします。
- 湿度の高いところでは使用しない
- 温度差の激しいところでは使用しない

つゆつき（結露）について

- 以下のような温度差の激しいところに設置すると、本機内部やピックアップレンズやディスクに「つゆつき（結露）」が起こる場合があります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。そのままご使用になると故障の原因になります。
  - ・暖房をつけた直後。
  - ・湯気や湿気が立ちこめている部屋に置いてあるとき。
  - ・冷えた場所（部屋）から急に暖かい部屋に移動したとき。

  寒冷地区でのご使用の場合は、特につゆつき（結露）にご注意ください。

つゆがつくと

信号が読み取れず、この製品が正常な動作をしないことがあります。

つゆをとるには

ディスクを取り出して、電源を切り、つゆがなくなるまで放置してください。そのままご使用になると、故障の原因になります。

次ページへつづく

キャビネットについて

- 本機をご使用中、使用環境によっては本体（キャビネット）の温度が若干高くなりますが故障ではありません。安心してお使いください。
- 「ホーム」－「設定」－「視聴準備」－「アンテナ設定」の「BS・CS デジタル」にある「アンテナ電源設定」を「オート」または「入」に設定している場合は、本機の電源を切っても本体やキャビネットが多少温かくなります。

お手入れについて

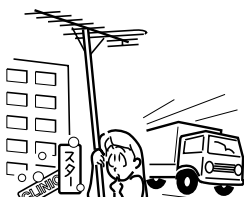
キャビネットのお手入れについて

- キャビネットの表面はプラスチックが多く使われています。ベンジン、シンナーなどでふいたりしますと変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。

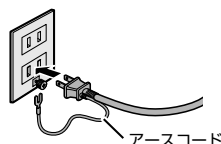
- 殺虫剤など揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品・合成皮革などを長時間接触させたままにしないでください。塗料がはげるなどの原因となります。
- ステッカーやテープなどを貼らないでください。キャビネットの変色や傷の原因となることがあります。
- キャビネットや操作パネル部分の汚れは柔らかい布（綿・ネル等）で軽くふき取ってください。化学ぞうきん（シートタイプのウェット、ドライのものを含む）を使用されますと、本体キャビネットの成分が変質したり、ひび割れなどの原因となる場合があります。汚れがひどいときは水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布でからぶきしてください。
  強力な洗剤を使用した場合、変色、変質、塗料がはげる場合があります。目立たない場所で試してから、お手入れすることをおすすめします。

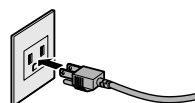
アンテナについて

- 妨害電波の影響を避けるため、交通のひんぱんな自動車道路や電車の架線、送配電線、ネオンサインなどから離れた場所に立ててください。
  万一アンテナが倒れた場合の感電事故などを防ぐためにも有効です。

- アンテナ線を不必要に長くしたり、束ねたりしないでください。映像が不安定になる原因となりますのでご注意ください。
- BS・CS アンテナ用のケーブルは、必ず専用品を使用してください。
- アンテナは風雨にさらされるため、定期的に点検、交換することを心がけてください。美しい映像でご覧になれます。特にばい煙の多いところや潮風にさらされるところでは、アンテナが傷みやすくなります。映りが悪くなったときは、電気工事店などにご相談ください。

電源コードの接続について（BD-T2100/BD-T1100）

アース端子付きコンセントに接続するときは

- 電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアースコードを取り付けてください。
- アースコードを取り外すときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後で行ってください。

3極対応コンセントに接続するときは

- 機能アース付き電源コードを使用します。

本機の電源について

- 電源プラグをコンセントに差し込んだ直後や、停電からの復帰後は、電源を「入」にしても、システム調整のため数 10 秒～ 10 分程度、動作しない場合があります。また、テレビ画面にディスク確認中を示す表示が出たときは、ディスクの状態の確認に 10 分以上かかる場合があります。
- 電源を入れると、冷却のため本体内部の冷却ファンが回転します。
- 電源を切っていても次のような場合は内部の電源が入っているため、本体内部の冷却ファンが回転します。
  電源を切った後、数分間は本体の電源が入った状態となります。
  - 地上デジタル放送の「番組表取得設定」（➞ **67** ページ）を「する」に設定したときは、電源「切」にしていても、番組表データが取得できていないときや番組表データ取得時刻になると、番組表データを取得するため約 1 時間本体内部の電源が入った状態となります。（受信できる放送局が多いほど、番組表データの取得に時間がかかります。番組表のデータを取得中は、本体表示部に「EPG」と表示されます。）
  - 「クイック起動設定」（➞ 2. 操作編 **211** ページ）が「する（設定 1）」または「する（設定 2）」に設定されているときは、電源「切」の状態からすばやく起動できるようにするため、クイック起動待機状態となります。そのため、本体内部の冷却ファンが回転します。
  - 本機が B-CAS カードの内容を確認しているときは、本体内部の電源が入った状態となります。

ダウンロードサービスについて

- ダウンロードサービスとは、地上デジタル放送および BS デジタル放送の電波を利用して、ソフトウェアの更新を行うサービスのことです。
- ダウンロードサービスによりソフトウェアの更新が行われるときは、本機の電源が自動的に入ります。
  ソフトウェアの更新中は、本機前面の HDD ランプと BD/DVD ランプが点滅（点灯）します。
  本体表示部には「DL」の表示が出ます。
- ダウンロードサービス中は、電源コードを抜いたりリセット操作を行わないでください。

無線 LAN 使用時のご注意

• 本機を無線で LAN に接続するには、本機の内蔵無線 LAN と無線 LAN 対応のブロードバンドルーター（市販品）とで通信を行います。

無線 LAN を使用する場合は、次の点にご注意ください

• 以下の機器、または無線局と同じ周波数帯を使用しますので、近くで使用しないでください。
電波の干渉が発生する可能性があるので、通信ができなくなったり、通信速度が下がったりする場合があります。
○ ペースメーカー、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器
○ 工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
○ 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）
• 携帯電話、PHS、ラジオの近くではできるだけ使用しないでください。
携帯電話、PHS、ラジオなどは、無線 LAN とは異なる電波の周波数帯を使用していますので、これらの機器を近くで使用しても、無線 LAN の通信およびこれらの機器の通信には影響しません。
ただし、これらの機器を無線 LAN 製品に近づけた場合は、無線 LAN 製品が発する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。
• 間に鉄筋や金属、コンクリートがあると通信できません。
本機で使用している電波は、一般の住宅で使用されている木材やガラスなどは通過しますが、鉄筋、金属、コンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。それらが部屋の壁やフロア間に使用されている場合は、通信ができません。
• 5GHz 帯（IEEE802.11a）の電波を使って、屋外で通信をしないでください
法令により、5 GHz 無線機器を屋外で使用することは禁止されています。屋外で使用する場合は、5GHz 帯の電波を無効にしてください。

無線 LAN 対応ブロードバンドルーター・アクセスポイントについて

• 無線 LAN ルーター・アクセスポイントの電源を入れ直す場合は、電源を切った後、5 秒以上待ってから電源を入れ直してください。詳しくは、お使いの製品の取扱説明書をご覧ください。
• 5.2/5.3 GHz 帯無線 LAN の使用は、電波法により、屋内に限定されます。

2.4 GHz 帯使用の無線機器について

• 本機の使用周波数帯では、ペースメーカー、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および、特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
・本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局や、特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。
・万一本機から移動体識別用の構内無線局に対する電波干渉が発生した場合は、すぐに使用している周波数帯を変更するか、電波の発信を停止して有線 LAN 接続をしてください。

2.4 GHz 無線 LAN 表記の意味について

2.4DS/OF4

「2.4」　：2.4 GHz 帯を使用する無線設備を示す
「DS/OF」：変調方式 DS-SS 方式 /OFDM 方式を示す
「4」　：想定干渉距離が 40 m以下であること
「---」　：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する

本機が対応する無線 LAN 規格について

• 本機は、下記の記号に記載された規格で採用された無線通信チャンネルに対応した製品であることを意味します。無線アクセスポイントについても、この記号がある製品でご使用いただくことをおすすめします。

IEEE802.11b/g/n
IEEE802.11a/n
J52 W52 W53 W56

タイプ	チャネル	周波数帯域
W52	36,40,44,48ch	5.2 GHz 帯 (5150-5250 MHz)
W53	52,56,60,64ch	5.3 GHz 帯 (5250-5350 MHz)
W56	100,104,108, 112,116,120, 124,128,132, 136,140ch	5.6GHz 帯 (5470-5725 MHz)

無線 LAN の性能表示等の記載について

• 本機の通信速度（300/54/11 Mbps）についての記載は、IEEE802.11 の無線 LAN 規格による理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度（実効値）を示すものではありません。
• 実際のデータ転送速度は、周囲の環境条件（通信距離、障害物、電子レンジ等の電波環境要素、ネットワークの使用状況など）に影響します。
• [IEEE802.11n] 規格に準拠した製品のため、他社のドラフト準拠製品との通信を保証するものではありません。

確認
接続・準備
初期設定
設定
困ったときは

次ページへつづく

HDD（ハードディスク）の取り扱いに関するご注意とお知らせ

取り扱い上のご注意

本機の設置場所や取り扱いに十分な配慮が不足しますと、次のような症状が発生します。

- HDD（ハードディスク）が故障する
- HDD（ハードディスク）に録画した内容が損なわれる
- 動作が中断する
- ノイズが記録される

上記のようなことを避けるため、以下のことを守ってください。

次のような場所には置かないでください。

- 本体後面の冷却用ファンや通風口をふさぐような狭いところ
- 本体前面の扉が開けられないようなところ
- 傾いたところ（水平に置いてください）
- 振動の激しいところ（振動や衝撃は与えないでください）
- 湿度の高いところ
- 温度差の激しいところ
  以下のような温度差の激しいところに設置すると､「つゆつき（結露）」が起こる場合があります。
  - 暖房をつけた直後。
  - 湯気や湿気が立ちこめている部屋に置いてあるとき。
  - 冷えた場所（部屋）から急に暖かい部屋に移動したとき。

  本機の内部につゆつき（結露）が起こったままお使いになると、HDD（ハードディスク）に傷が付いて故障の原因になります。室内の温度変化は、毎時 10℃以下に保つことをおすすめします。

  つゆがつくと
  信号が読み取れず、この製品が正常な動作をしないことがあります。

  つゆをとるには
  電源を切り、つゆがなくなるまで放置してください。そのままご使用になると、故障の原因になります。

電源が入っているときは次の点にご注意ください。

- 電源プラグをコンセントから抜かない
- 本機を設置してある場所のブレーカーを落とさない
- 本機を移動させない

本機を移動させるときは次の点にご注意ください。故障の原因になります。

- BD（ブルーレイディスク）や DVD ディスクを取り出してください。
- 「クイック起動設定」（→ 2. 操作編 **211** ページ）と地上デジタル放送の「番組表取得設定」（→ **67** ページ）をそれぞれ「しない」に設定し、電源を切った状態で（本体の電源ランプが赤色点灯後、約 2 分程度待ってから）、接続や電源プラグを抜いてください。
- 振動や衝撃は与えないでください。

エラーメッセージが表示されたら

- 「ハードディスクにエラーが発生しました。放送視聴のみ可能です。」などのエラーメッセージが表示されたときは、HDD（ハードディスク）が故障していることがあります。
  HDD（ハードディスク）が故障した場合、ご自身でHDD(ハードディスク)を交換することはできません。HDD（ハードディスク）が故障しても再生が可能であれば、録画内容を BD-RE/-R や DVD-RW/-R ディスクに保存してください。その上で、お買いあげの販売店、またはシャープお客様相談センター（→ 2. 操作編 **272** ページ）にご連絡ください。
  ※ 本機をご自身で分解すると、保証が無効になります。
  ※ 録画した内容の修復はできません。
- エラーメッセージが表示されたとき、症状によっては HDD（ハードディスク）を「初期化」することで改善されることがあります。初期化のしかたについては 2. 操作編 **27** ページをご覧ください。
  ※ 初期化をすると、録画した内容は全て消去されます。大切な録画内容は、初期化をする前に BD-RE/-R や DVD-RW/-R ディスクに保存してから初期化をしてください。

停電になったら

- 録画中、または予約録画中に停電になると、録画中の内容が損なわれることがあります。
- 録画中、停電などにより録画停止した番組は、編集やダビングができません。録画リストに「停電などが起きた可能性があります。」のメッセージが表示されます。
- 再生中に停電になると、再生中の内容が損なわれることがあります。

アンテナ受信が弱いときは

- 録画の際、アンテナが抜けたり、アンテナ受信が不良になった場合、録画を停止することがあります。その場合、録画リストには「アンテナ受信不良の可能性があります。」と表示されます。

大切な録画内容は

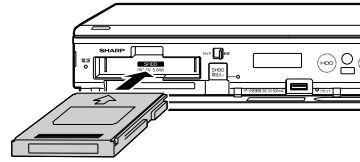
- パソコンと同様に、HDD（ハードディスク）は、壊れやすい要因を多分に含んだ特殊な部品です。録画（録音）内容の長期的な保管場所ではありません。大切な番組、残しておきたい映像は、BD-RE/-R や DVD-RW/-R ディスクにダビングして保存（バックアップ）しておくことをおすすめします。

本機では HDD（ハードディスク）の容量の一部を、システム管理領域として使用しています。

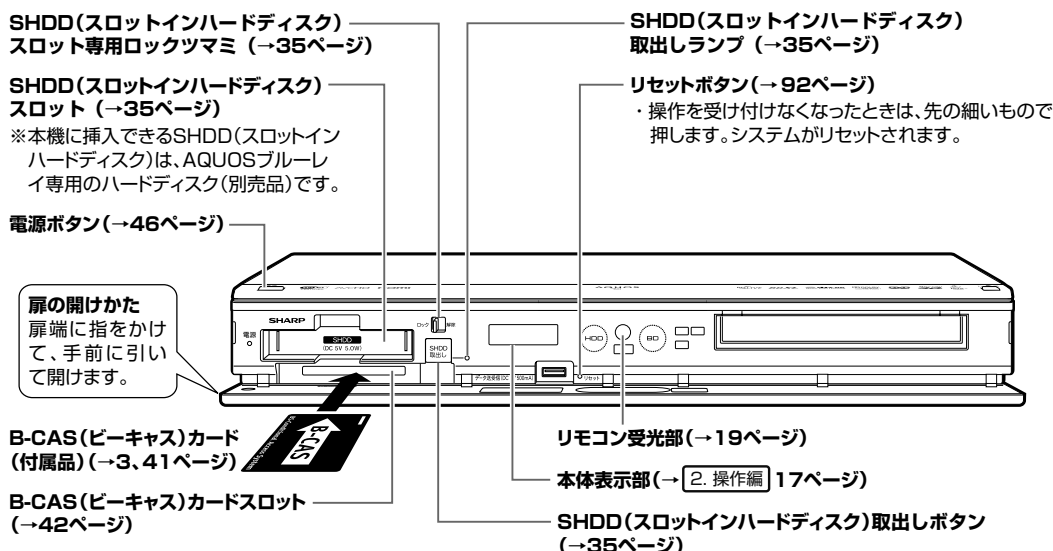
HDD（ハードディスク）の故障による録画・録音内容の損失など万一何らかの不具合により、録画・編集されなかった場合の内容の補償、録画・編集されたデータの損失、ならびにこれらに関するその他の直接・間接の損害につきましては、当社は責任を負いません。あらかじめご了承ください。

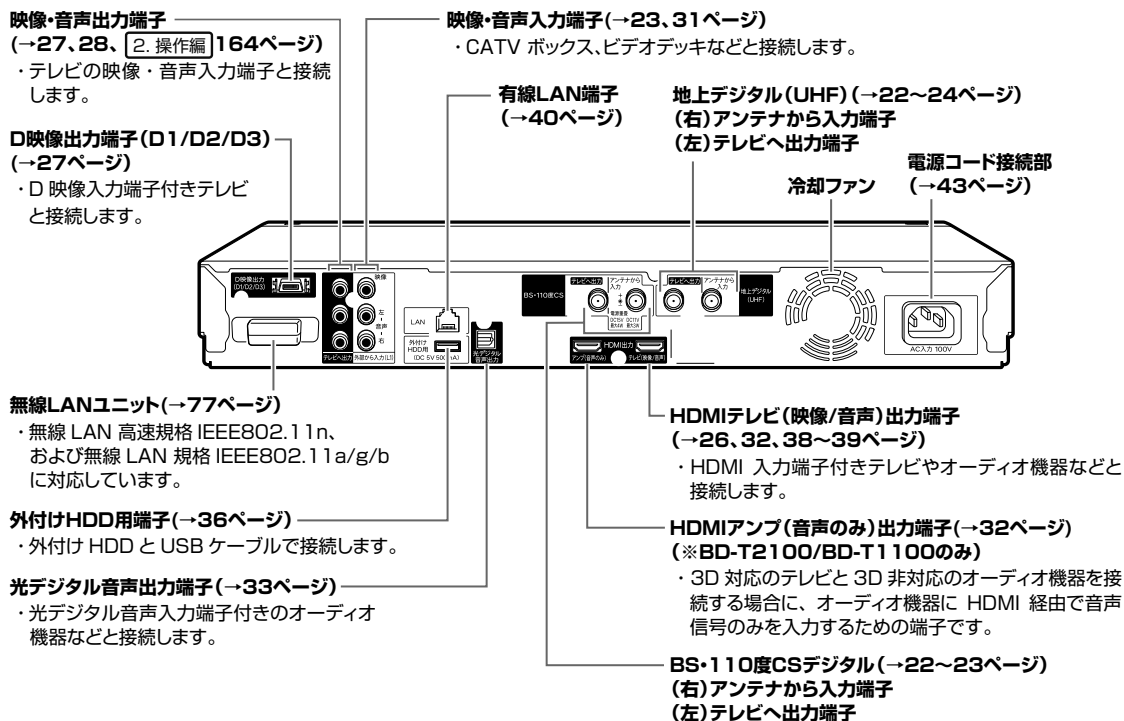
SHDD（スロットインハードディスク）の取り扱いに関するご注意とお知らせ

取り扱い上のご注意

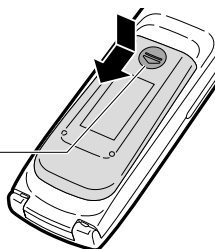
- SHDD（スロットインハードディスク）は非常に精密な機器です。万一不具合が発生した場合、SHDD（スロットインハードディスク）に記録されている内容が消失してしまうことがあります。別売りのSHDD（スロットインハードディスク）の取扱説明書に記載されている注意事項も必ずお守りください。
- コネクター部に触れたり、異物を入れたりしないでください。
- 改造や分解などをしないでください。
- 側面や背面の通気口をふさがないでください。
- 振動や衝撃が起こらない場所に設置してください。
- ごみやほこりの少ない場所に設置してください。
- 結露（つゆつき）が発生しにくい場所に設置してください。結露とは冷たいコップの表面に水滴が付いたりする現象です。急な温度変化が起きた場合や、寒いところから暖かい場所へ移動して設置する場合は結露が起こりやすくなります。そのような場合は室温に2～3時間なじませてから電源を入れてください。
- 安定した動作を維持するために、長時間使用されない場合でも一年に一回は通電していただくことをおすすめします。
- SHDD（スロットインハードディスク）の動作中に電源プラグを抜かないでください。
- 振動や衝撃を与えたり、本機を移動させたりしないでください。
- SHDD（スロットインハードディスク）に録画するときは、別売りのSHDD（スロットインハードディスク）をSHDD（スロットインハードディスク）挿入口に入れてください。
- SHDD（スロットインハードディスク）を挿入してから使用するための準備が完了するまでは、録画や再生などSHDD（スロットインハードディスク）にアクセスする操作はできません。
- 記録中や再生中に停電等で電源が供給されなくなった場合、SHDD（スロットインハードディスク）の記録内容が損なわれることがあります。
- 録画中（ムーブ中・ダビング中を含む）は振動や衝撃を与えないでください。録画が中断されたり、録画画像にノイズが記録される場合があります。
- SHDD（スロットインハードディスク）に録画予約したときに残量が不足した場合、録画が全くできなかったり途中で停止したりします。録画前にSHDD（スロットインハードディスク）の残量表示を確認してください。
- SHDD（スロットインハードディスク）の残量が少ないときは、あらかじめ不要な記録内容（データ）を削除し、余裕のある状態にしてから録画してください。
- 録画中にSHDD（スロットインハードディスク）の残量がなくなった場合、録画は中断されます。
- SHDD（スロットインハードディスク）を交換修理する場合、記録内容を新しいSHDD（スロットインハードディスク）に移すことはできません。
- 万一何らかの不具合によって録画や編集ができなかった場合の補償、また、録画・編集されたデータの損失、並びにこれらに関するその他の直接・間接の損害につきましては、当社は一切その責任を負いません。あらかじめご了承ください。
- SHDD（スロットインハードディスク）を対応BDレコーダーに挿入するときは、正しい向きに、奥までしっかり差し込んでください。誤った向きに差し込んだり、差し込みが不十分な場合、正常に動作しません。

- SHDD（スロットインハードディスク）挿入口のドア内に指などを入れないでください。ドア内やガイド部等には突起があり、これらの突起に触れたりドアに指を挟んだりすると、けがの原因になることがあります。
- 以下の動作中に電源プラグを抜かないでください。記録内容が損なわれ、録画や再生ができなくなる可能性があります。
  - 録画、再生、編集、ダビング中
  - 配信中（DLNA）
  - SHDD（スロットインハードディスク）認識中
  - SHDD（スロットインハードディスク）取出しランプ点滅中
- SHDD（スロットインハードディスク）が本機に挿入されているとき、SHDD（スロットインハードディスク）に触れないでください。また、無理に取り出さないでください。
- SHDD（スロットインハードディスク）取出しボタンを押したときは、必ずSHDD(スロットインハードディスク)を抜き差ししてください。
- SHDD（スロットインハードディスク）挿入口にはSHDD（スロットインハードディスク）以外のものを挿入しないでください。
- SHDD（スロットインハードディスク）の挿入前に、SHDD（スロットインハードディスク）コネクター部に液体、ほこり等の異物が付いていないことを確認してください。
- 頻繁にSHDD（スロットインハードディスク）を抜き差ししないでください。コネクター接続部が磨耗し、接触不良などの故障の原因になります。
- パソコンでSHDD（スロットインハードディスク）のフォーマットやファイル操作を行わないでください。正常な使用ができなくなります。
- 本機では電源がスタンバイ状態のとき、「カチッ」というスイッチ音がしたり、「ヒューン」というSHDD（スロットインハードディスク）の起動する音が聞こえたりする場合がありますが、これらは故障によるものではありません。
- テレビやビデオの映像は著作権法により保護されています。それらの映像は、個人で楽しむ以外の目的では利用しないでください。
- 著作権保護のため、録画時に使用したBD（ブルーレイディスク）レコーダー以外では、映像の再生はできません。
- 大切な映像を録画・保管する際は、BD（ブルーレイディスク）などを併用することをおすすめします。
- SHDD（スロットインハードディスク）は、ご使用の前に本機に登録する必要があります。本機で登録されたSHDD（スロットインハードディスク）は、他の機器では使用できません。他の機器で使用する場合は登録解除を行う必要があり、登録解除を行うとSHDD（スロットインハードディスク）内のデータは消去されます。
- SHDD（スロットインハードディスク）を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- SHDD（スロットインハードディスク）の上に重いものなどを置かないでください。
- SHDD（スロットインハードディスク）を使用しない場合は、保管用ケースに入れて保管してください。

各部のなまえとおもな機能

本体前面（扉内）

本体後面

- イラストは BD-T2100 を例に説明しています。
- 接続について詳しくは ▶**20** ～ **40** ページ

リモコンの準備

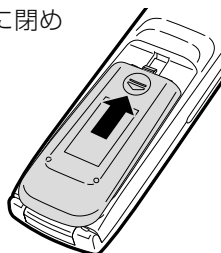
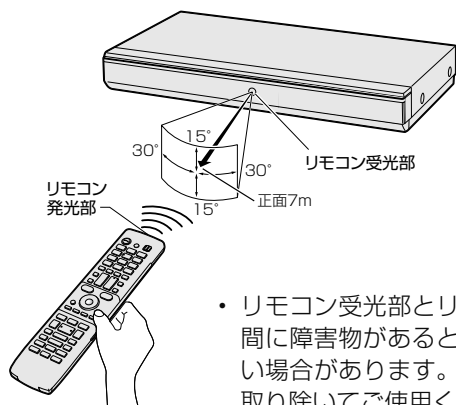
電池の入れかたと操作範囲

①裏ぶたを開ける

②付属の乾電池〈単３形×２個〉を入れる

- 収納部の⊕の向きに注意し、表示どおりに正しく入れてください。

- 新しい乾電池に交換する際は、アルカリ乾電池をご使用ください。

③裏ぶたを閉める

- カチッと音がするまで確実に閉めてください。

リモコンの操作範囲

- リモコン受光部とリモコンの間に障害物があると動作しない場合があります。障害物を取り除いてご使用ください。

⚠注意 乾電池使用上のご注意

乾電池は誤った使いかたをすると、液もれや破れつを起こすことがありますので、次の点について特にご注意ください。

- **乾電池のプラス⊕とマイナス⊖を、表示のとおりに正しく入れてください。**
- **乾電池はショートさせたり、充電したり、分解したりしないでください。**
- **乾電池は種類によって特性が異なります。**
  種類の違う乾電池は混ぜて使用しないでください。
- **新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。**
  新しい乾電池の寿命を短くしたり、古い乾電池から液がもれるおそれがあります。
- **乾電池が使えなくなったら…**
  液がもれて故障の原因となるおそれもありますのですぐ取り出してください。また、もれた液に触れると肌が荒れることがありますので、布でふき取るなど十分注意してください。
- **不要となった乾電池を廃棄する場合は、各自治体の指示（条例）に従って処理してください。**

重 要

- リモコンには衝撃を与えないでください。
- リモコンのふたに強い力を加えないでください。故障の原因となる恐れがあります。
- リモコンを、水に濡らしたり湿度の高いところに置いたりしないでください。
- 乾電池を入れ換えたとき、リモコンが正しく動作しないことがあります。このようなときは、乾電池をいったんリモコンから取り外し、５分以上たってから入れ直してください。
- 本体のリモコン受光部に直射日光や強い照明が当たっていると、リモコンが正しく動作しないことがあります。照明または本体の向きにご注意ください。
- **付属の乾電池は、保管状態により短期間で消耗することがあります。**早めに新しい乾電池と交換してください。（寿命は通常６カ月〜１年が目安です。）
- 長期間使用しないときは、乾電池をリモコンから取り出してください。
- 長時間（約１日）電池のない状態が続いたときは、「リモコン番号」（→ **60** ページ）や「テレビメーカー指定」（→ **56** ページ）がリセットされますので、設定し直してください。
- リモコンの「テレビ自動入力切換」は、電池がなくなるとリセットされますので、設定し直してください。（→ **57** ページ）

アンテナを接続する

接続をする前に

本機をお使いになる場所のアンテナの設置状況によって､接続方法が異なります。まずは､アンテナ（放送）環境を確認してから、本機に接続するアンテナケーブルを準備します。

- アンテナ（放送）環境により、以下の市販品などが必要です。
  - ・アンテナケーブル（市販品）
  - ・衛星放送用同軸ケーブル（市販品）
  - ・分波器（市販品）
- BS・110 度 CS 共用アンテナとの接続には「衛星放送用同軸ケーブル（市販品）」をお使いください。（S-5C-FB など）

ＢＳアンテナと接続するときは

F 型コネクターの取り付けについて

- アンテナ線は、同軸ケーブルに F 型コネクターを接続してご使用ください。
- F 型コネクターを取り付けるときは、工具で強く締めつけないでください。
  内部の結線が切れ、故障する場合があります。

BS アンテナの電源について

- 本機の「BS・110 度 CS デジタル　アンテナから入力」端子は、BS・110 度 CS アンテナに電源を供給するはたらきをもっています。
- 初期設定で BS･110 度 CS アンテナ線接続（→ **47** ページ）を「する」に設定したときや BS・CS のアンテナ電源（→ **64** ページ）を｢オート｣または｢入｣に設定したときは、本機から BS・110 度 CS アンテナに電源が供給されます。
- 本機のアンテナ電源が「オート」に設定されているときは、本機の電源とアンテナ電源が連動します。

本機の電源	接続しているテレビの BS アンテナ電源	本機のアンテナ電源
「切」	「切」	「切」
	「入」	「入」
「入」	「切」	「入」
	「入」	

- BS・110 度 CS デジタルチューナー内蔵テレビと本機を接続し、BS・CS アンテナへの電源供給を本機からのみ行うときは、アンテナ電源を「入」に設定してください。
- BS・110 度 CS アンテナを接続するときは、必ず電源を「切」にしてください。

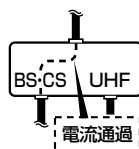
放送局との自動通信について

- 本機は電源「切」（待機状態）のとき、放送局との通信（契約情報など）のため、自動的に電源が入り動作することがあります。
- 通信中は、電源を「切」にしないでください。通信が終了すると、自動的に電源「切」（待機状態）に戻ります。

アンテナ接続時のご注意

UHF/BS/CS の信号が混合されているアンテナ端子から本機へアンテナ線を接続するときは、必ず UHF/BS・CS 分波器（または UV/BS・CS 分波器）を使用して接続してください。（22 ページ B をご覧ください。）

分波器について

分波器（市販品）
シールドタイプ
2.6GHz 対応

- UHF 信号と BS・110 度 CS デジタル信号を分けます。
- シールドタイプで 110 度 CS 帯域（2.6GHz）まで対応したものをご使用ください。
- **地上デジタル放送だけを見る場合や、BS・110 度 CS デジタル放送だけを見る場合は必要ありません。**

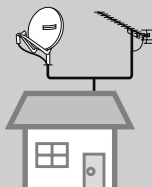
重 要

- 「ホーム」－「設定」－「視聴準備」－「アンテナ設定」－「BS・CS デジタル」－「信号出力設定」（→ **65** ページ）を「しない」に設定しているときは、本機の BS・110 度 CS アンテナ出力端子からテレビへデジタル信号が出力されません。
- 安全のためテレビと本機の電源プラグをコンセントから抜いて、接続してください。
- アンテナケーブルの端子は、接続する端子の奥までしっかり差し込んでください。
- BS・110 度 CS デジタル放送を見るためには、BS・110 度 CS 共用アンテナをお使いください。
- 本機にアンテナを接続する前に、「アンテナ接続時のご注意」（上記）を必ずお読みください。
- すべての接続が終わったあとは、本機の電源プラグをコンセントに差し込んでください。
- 本機の電源プラグをコンセントから外すと、テレビの映りが悪くなったり、テレビ放送が映らなくなる場合があります。

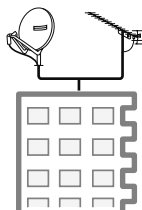
アンテナの種類と接続のしかた

ご自宅のアンテナに応じて、アンテナ線を接続してください。

個別にUHFとBSアンテナを設置している場合

- 地上デジタル放送の受信に必要なUHF アンテナ、BS･110度CSデジタル放送の受信に必要な衛星アンテナの設置をお確かめください。

▶22ページ

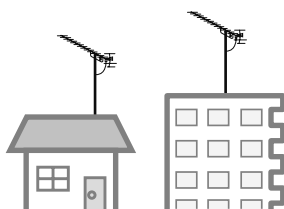
マンションなどの共聴システムで受信している場合

- 地上デジタル放送やBS･110度CSデジタル放送の信号が配信されているかどうかは、マンション管理者にお問い合わせください。

▶22ページ

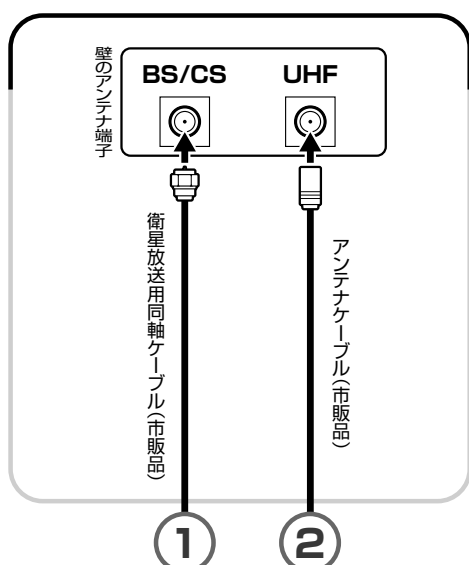
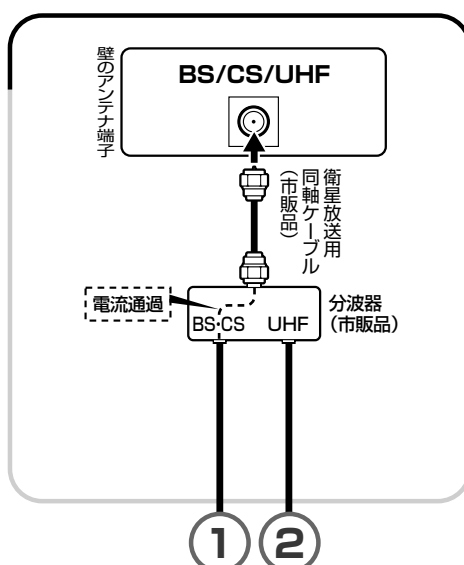
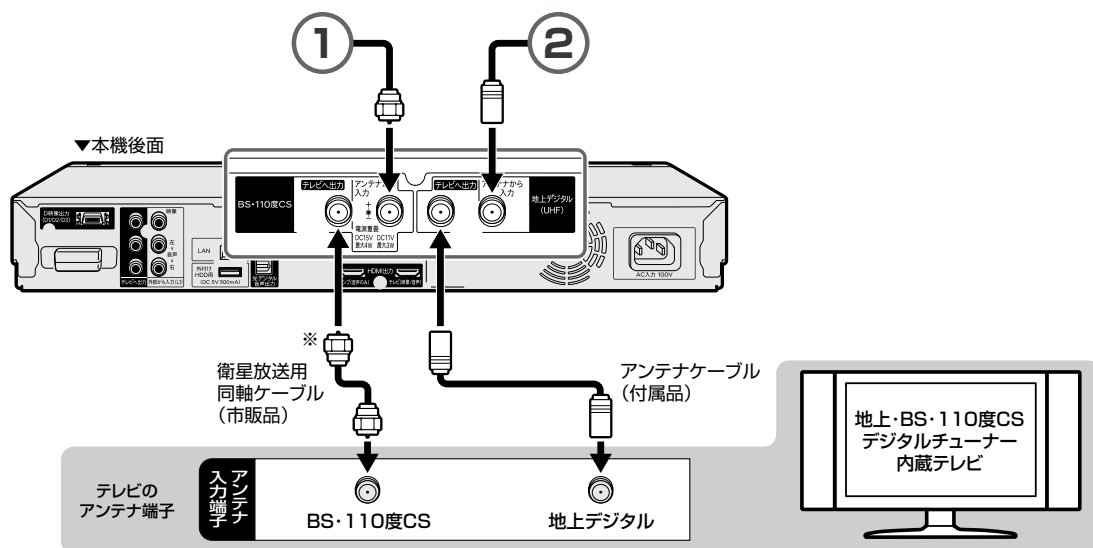
ケーブルテレビ(CATV)ボックスをご使用の場合

- 本機で地上デジタル放送が受信できるのは、「CATVパススルー方式※」です。「トランスモジュレーション方式」には対応していません。

▶23ページ

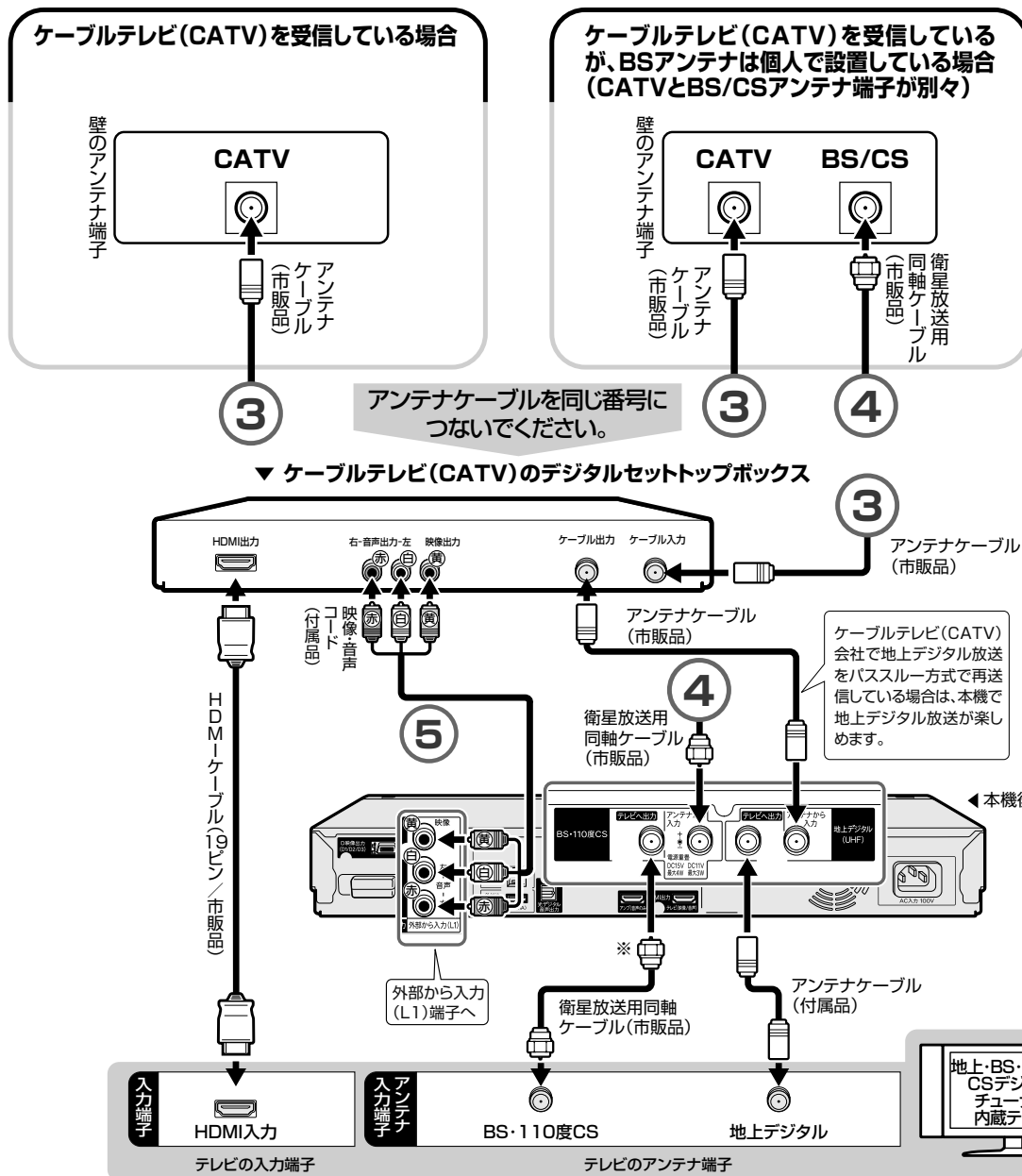
BS･110度CSデジタル放送用アンテナを設置していない場合

▶24ページ

※ **CATVパススルー方式とは…**
CATV配信局が地上デジタル放送を、内容はそのままでCATV網に渡す放送方式です。
この方式では、地上デジタル放送が本来使っているUHF帯のチャンネルとは異なる他のチャンネルに周波数を変換して再送信することがあります。
本機で受信できるのは、「UHF帯」、「VHF帯」、「ミッドバンド(MID:C13～C22)帯」、「スーパーハイバンド(SHB:C23～C63)帯」です。

A 個別に UHF と BS アンテナを設置している場合

B マンションなどの共聴システムで受信している場合

※本機の「BS·110度CS」の「テレビへ出力」端子とテレビのBS·110度CSデジタルアンテナ端子を接続したときは、「ホーム」－「設定」－「視聴準備」－「アンテナ設定」－「BS·CSデジタル」の「信号出力設定」を「する」に設定してください。「しない」に設定したときは、テレビへのアンテナ信号が出力されません。（→**65**ページ）

接続が済んだら、「テレビと接続する」に進みます。→25ページへ

C ケーブルテレビ（CATV）ボックスをご使用の場合

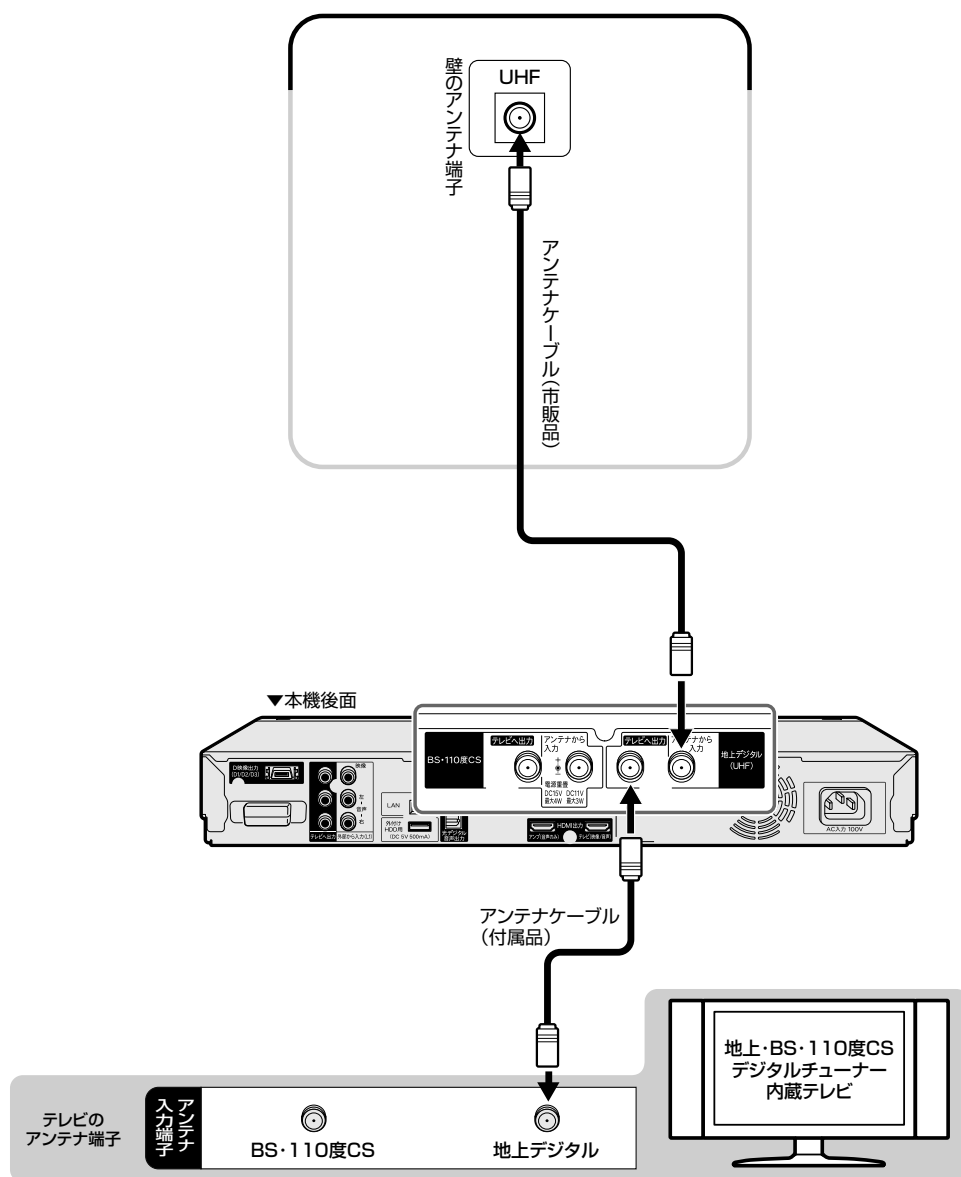
- 接続図は一例です。ケーブルテレビ（CATV）ボックスによりつなぎかたは異なります。
- 安全のためテレビと本機の電源プラグをコンセントから抜いて、接続してください。
- ケーブルテレビ（CATV）を受信するときは、使用する機器ごとにケーブルテレビ会社との受信契約が必要です。また、スクランブルのかかった有料放送の視聴･録画には、ケーブルテレビ専用のホームターミナル（アダプター）が必要です。
- 詳しくはケーブルテレビ会社にご相談ください。

※本機の「BS･110度CS」の「テレビへ出力」端子とテレビのBS･110度CSデジタルアンテナ端子を接続したときは、「ホーム」－「設定」－「視聴準備」－「アンテナ設定」－「BS･CSデジタル」の「信号出力設定」を「する」に設定してください。「しない」に設定したときは、テレビへのアンテナ信号が出力されません。（→**65**ページ）

接続が済んだら、「テレビと接続する」に進みます。→25ページへ

ご注意

- アンテナケーブルや映像・音声コードの端子は、接続する端子の奥までしっかり差し込んでください。

次ページへつづく

D BS・110度CSデジタル放送用アンテナを設置していない場合

接続が済んだら、「テレビと接続する」に進みます。→25ページへ

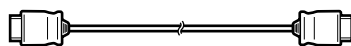
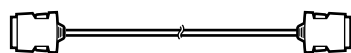
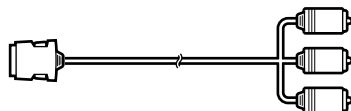
テレビと接続する

テレビの入力端子をお調べになり、できる限り高画質に対応している端子とおつなぎください。

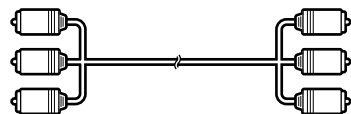
テレビ入力端子の種類

接続する端子により、お楽しみいただける画質が異なります。

テレビとつなぐときに使う映像ケーブルについて

- HDMI 入力端子付きテレビと接続するときは、付属の HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。

- D 映像入力端子付きテレビと接続するときは、市販の D 映像ケーブル（D-D）をお使いください。

- コンポーネント入力端子付きテレビと接続するときは、市販の D －コンポーネント変換ケーブル（D-3 ピン）をお使いください。

- 映像・音声入力端子付きテレビと接続するときは、付属の映像・音声コードをお使いください。

ヒント

- HDMI ケーブルで接続する場合、ファミリンク機能を搭載したテレビ（シャープ製）と接続すると、本機とテレビを連動して操作できます。(→ **26**、**37** ～ **39** ページ)

ハイビジョン映像をご覧いただくには

■ テレビのタイプは

- ハイビジョン映像をご覧いただくには、次のうち、いずれかの端子の付いているテレビ（モニター）が必要です。
  - ・HDMI 入力端子
  - ・D3 映像入力端子
  - ・D4 映像入力端子
  - ・D5 映像入力端子
  - ・コンポーネント（Y, P_B, P_R）映像入力端子
- ハイビジョンタイプのテレビ（モニター）以外では、ハイビジョン画質の映像が楽しめません。

■ テレビとの接続は

- 本機とテレビを、HDMI ケーブル（19 ピン／付属品）または D 映像ケーブル（市販品）で接続します。
- コンポーネント（Y, P_B, P_R）映像入力端子付きテレビ（モニター）と接続するときは、D －コンポーネント変換ケーブル（市販品）で接続します。

■ D 映像ケーブルで接続したときは

- 「初期設定」でテレビ側の端子名を次のいずれかに設定します。(→ **50** ページ)
  - ・「D3 映像入力端子」
  - ・「D4 映像入力端子」
  - ・「D5 映像入力端子」
  - ・「コンポーネント映像入力端子」

※本機は D3 映像出力に対応しています。テレビの D4、D5 映像入力端子と接続しても映像は D3 画質になります。

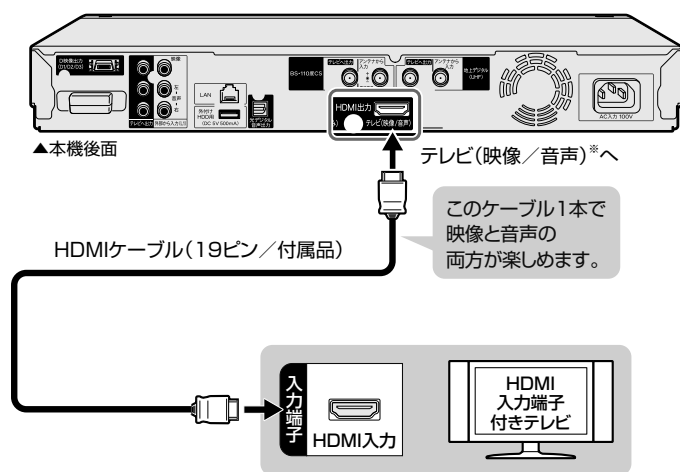
HDMI 入力端子付きテレビと接続する

HDMI 出力端子は、映像と音声のデジタル信号を 1 本のケーブルでつなぐことができる新しい規格のデジタル専用端子です。HDMI ケーブル（19 ピン／付属品）を使うと、他の映像コード・音声コードを接続する必要はありません。

・「**ファミリンク機能**」を搭載したシャープ製のテレビ「アクオス」と HDMI ケーブルで接続すると、テレビのリモコンまたは本機に付属のリモコンで、テレビと本機の操作が行えます。

重 要

・安全のためテレビと本機の電源プラグをコンセントから抜いて、接続してください。
・コード類は、接続する端子の奥までしっかり差し込んでください。
・テレビ側の接続は、テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
・テレビを接続して電源を入れるときは、テレビの電源を入れたあとに本機の電源を入れてください。
・本機に接続した HDMI ケーブルが誤って強く引かれた場合、端子部が破損するおそれがあります。取り扱いにご注意ください。

※ BD-T2100、BD-T1100をご使用のお客様へ
HDMIアンプ(音声のみ)出力端子は、映像信号が出力されません。本機とテレビはHDMIテレビ(映像/音声)出力端子で接続してください。

「アクオス純モード」「クアトロン純モード」について

・ファミリンク対応のシャープ製テレビ「アクオス」「アクオス クアトロン」と HDMI ケーブルで接続し、ファミリンク機能を使用するための設定をしているとき、本機の HDMI 端子から「アクオス」「アクオス クアトロン」に最適な画質で映像が出力される機能です。
・出力されている映像モードは、「ホーム」－「設定」－「映像・音声調整」－「画質調整」（→ 2. 操作編 **219** ページ）で確認できます。

ファミリンク対応機種は？

・以下の手順で「ファミリンク対応」および「アクオス純モード」「アクオス クアトロン純モード」対応の機種がご確認いただけます。

① DVD/BD サポートステーション http://www.sharp.co.jp/support/av/dvd/ にアクセスします。
②「■使い方が分からないときは」の「? Q&A 情報」をクリックします。
③「▪▪「Q&A」ピックアップ情報（よくあるご質問）」の「▶AQUOS ファミリンクとは？　対応している機種は？」をクリックします。
④ 確認したい製品（「液晶テレビ AQUOS」、「AQUOS ハイビジョンレコーダー／ AQUOS ブルーレイ」、「AQUOS オーディオ／ AQUOS サラウンド（BD1 ビットシアターシステム／ 1 ビットシアターラックシステム）」）をクリックします。

お知らせ

・テレビと接続したときは、「HDMI 映像出力設定」（解像度）は「オート」に設定されます。
「オート」設定状態で正常な映像が得られないときは、**29** ページの「付属の HDMI ケーブル（19 ピン）を使って HDMI 入力端子付きテレビと接続したとき」の表を参考に出力解像度を変更してください。
「HDMI 映像出力設定」を「オート」以外に設定するとき、接続先で対応していない解像度は選択できません。（HDMI ケーブルが接続されていない、または接続先機器の電源が入っていないときも選択できません。）
・HDMI から 480p または 480i の出力をしているときは、96kHz/192kHz の PCM 音声は、48kHz で出力されます。
・DVI デジタル入力端子付きの機器と DVI-HDMI 変換ケーブル（市販品）を使用して接続したときは、正常な映像にならない、または映らない場合があります。（本機の HDMI 出力端子は、HDMI 機器との接続を目的に設計されています。また、DVI-HDMI 変換ケーブルを使い DVI 機器と接続したときは、DVI 機器に音声が入力されません。）

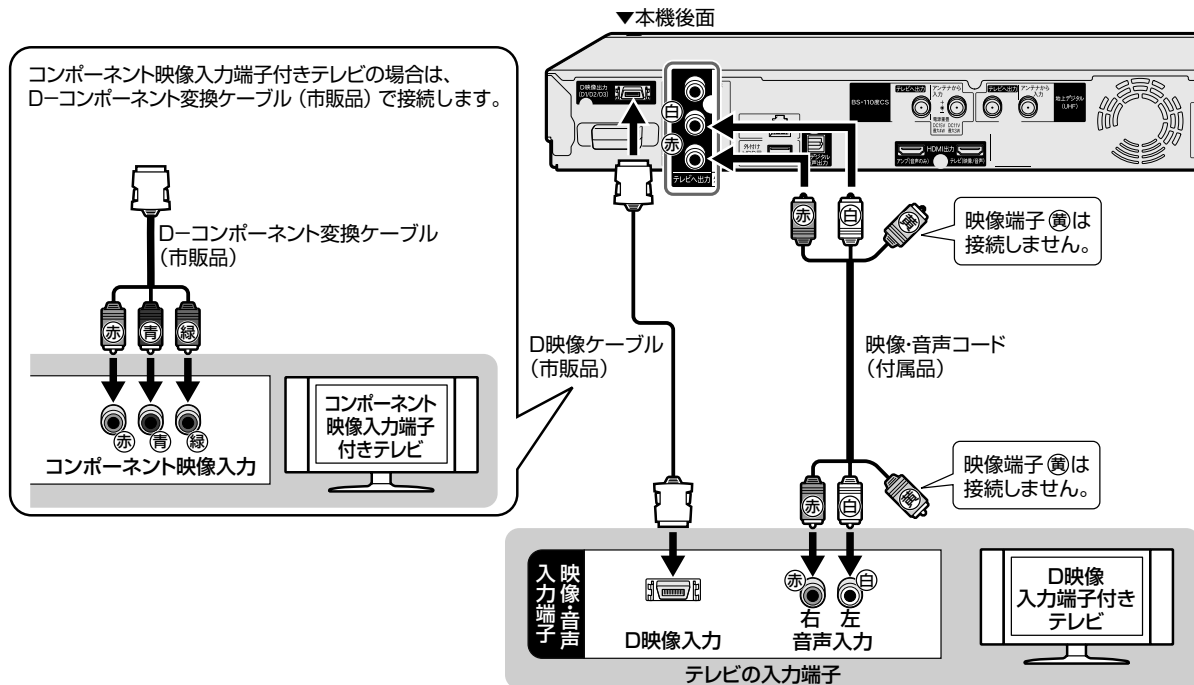
「HDMI 映像出力設定」（→ 2. 操作編 218 ページ）と「デジタル音声出力設定」（→ 2. 操作編 219 ページ）が必要な場合は、「ホーム」－「設定」－「映像・音声調整」－「映像・音声設定」で設定を行ってください。

※「アクオス純モード」「クアトロン純モード」に対応した「アクオス」「アクオス クアトロン」と接続すると、BD ビデオ /DVD ビデオ再生時や、ホーム画面操作時、写真再生時に、自動的に画面サイズ調整や映像調整が行われ、最適な映像を楽しむことができます。

D 映像入力端子付きテレビ／コンポーネント映像入力端子付きテレビと接続する場合

重 要

- 安全のためテレビと本機の電源プラグをコンセントから抜いて、接続してください。
- テレビの接続端子の種類に合ったコード類を使って、テレビと接続してください。
- コード類は、接続する端子の奥までしっかり差し込んでください。
- テレビ側の接続は、テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI ケーブルと D 映像ケーブルの両方をテレビに接続したときは、ファミリンク機能が働かない場合があります。
  ファミリンク機能が働かないときは、HDMI ケーブル接続のみにする、または「ホーム」－「設定」－「映像・音声調整」－「映像・音声設定」－「映像同時出力設定」で「HDMI 端子優先」に設定してください。

ご注意

- 本機の電源が「入」の状態で、本機に D 映像ケーブルを差し込まないでください。必ず、本機の電源が「切」の状態で、D 映像ケーブルを差し込んでください。
- 本機の電源が「入」の状態で、本機に D －コンポーネント変換ケーブルを差し込まないでください。必ず、本機の電源が「切」の状態で、D －コンポーネント変換ケーブルを差し込んでください。
- テレビのコンポーネント映像入力端子に接続したときは、テレビのオートワイド機能は働きません。
- テレビによってはコンポーネント映像入力端子の切換え（メニュー設定やスイッチの切換えなど）が必要なものがあります。お使いのテレビの取扱説明書に従って操作してください。
- ハイビジョン専用のコンポーネント映像入力端子（Y, P_B, P_R）に接続したときは、DVD の再生映像は楽しめません。DVD の再生映像は 480i または 480p の信号が出力されます。

お知らせ

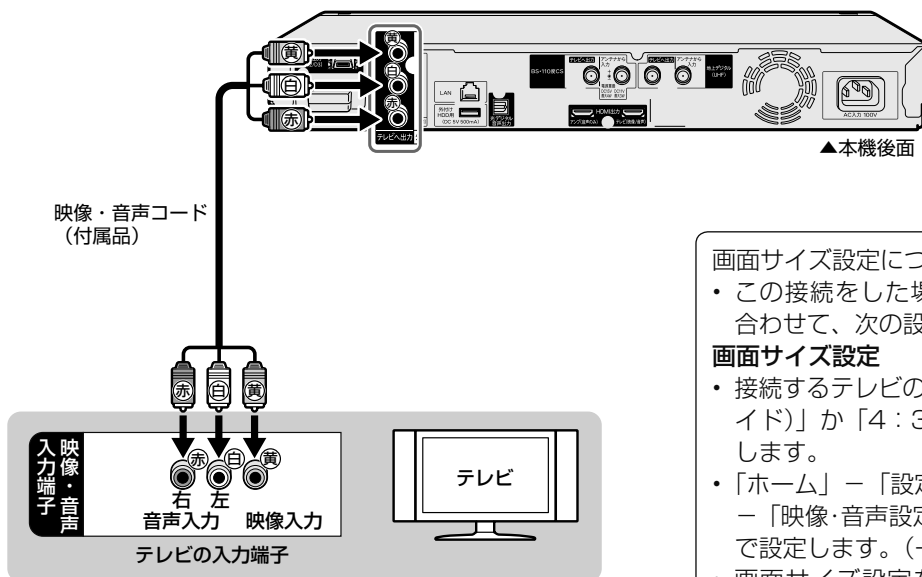
- お持ちのオーディオ機器で音声を楽しむ場合は、音声コード㊌㊍をオーディオ機器に接続してください。この接続の場合、テレビからは音声が出ません。
- 映像が乱れる、正常に映らない、映らないときは **93** ～ **95**、**103** ページをご覧ください。

メモ

- テレビに HDMI 入力端子、D 映像入力端子、コンポーネント映像入力端子などが付いているときは、HDMI 入力端子と接続することをおすすめします。
- テレビに D 映像入力端子とコンポーネント映像入力端子の両方が付いているときは、D 映像入力端子と接続することをおすすめします。
- テレビの D 映像入力端子が D3、D4 または D5 映像入力端子の場合は、ハイビジョン放送が楽しめます。初期設定でテレビの D 映像入力端子に合わせて、ハイビジョン対応テレビの映像端子名（→ **50** ページ）を「D3 映像入力端子」、「D4 映像入力端子」または「D5 映像入力端子」に設定してください。（BD の再生映像は 480i の信号で出力されます。BD をハイビジョン画質で再生したいときは HDMI ケーブルで接続してください。）
- 本機は D3 映像出力に対応しています。テレビの D4、D5 映像入力端子と接続しても映像は D3 画質になります。

映像・音声入力端子付きテレビと接続する場合

重 要

- 安全のためテレビと本機の電源プラグをコンセントから抜いて、接続してください。
- テレビの接続端子の種類に合ったコード類を使って、テレビと接続してください。
- コード類は、接続する端子の奥までしっかり差し込んでください。
- テレビ側の接続は、テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

画面サイズ設定について

- この接続をした場合、接続するテレビに合わせて、次の設定を行ってください。

画面サイズ設定

- 接続するテレビの画面サイズが「16:9(ワイド)」か「4：3（ノーマル)」かを設定します。
- 「ホーム」－「設定」－「映像･音声調整」－「映像･音声設定」－「画面サイズ設定」で設定します。（→2. 操作編 **218** ページ）
- 画面サイズ設定を「4：3」にした場合、引き続き、16：9の映像を再生するときの設定を行います。「レターボックス」または「パンスキャン」を選びます。

ご注意

- 本機とテレビを接続しているコード類をアンテナ線と一緒に束ねないでください。テレビ放送を見るときに画面にノイズが出るなど、電波妨害の原因となることがあります。
- 機器間の相互干渉による映像の乱れや雑音などを避けるため、電源コードや他の接続コード類をアンテナ線からできる限り離してご使用ください。

お知らせ

- お持ちのオーディオ機器で音声を楽しむ場合は、音声コード㊮㊢をオーディオ機器に接続してください。この接続の場合、テレビからは音声が出ずに、オーディオ機器から楽しめます。
- 映像が映らないとき、正常に映らないとき、乱れるときは **93** ～ **95**、**103** ページをご覧ください。

テレビとの接続設定について

初期設定（→ 45 ページ）をしたあとで設定し直したい場合は

「ホーム」－「設定」－「映像·音声調整」－「映像·音声設定」（→ 2. 操作編 **218** ～ **219** ページ）で、次の設定を行ってください。

■ 付属の HDMI ケーブル（19 ピン）を使って HDMI 入力端子付きテレビと接続したとき

設定する項目	選ぶ内容
解像度の設定 「映像・音声調整」－「映像・音声設定」－「HDMI 映像出力設定」	「HDMI 映像出力設定」－ 「オート」「1080/60p 固定」「1080i 固定」「720p 固定」「480p 固定」 • 通常は「オート」に設定します。
デジタル音声出力の設定 「映像・音声調整」－「映像・音声設定」－「デジタル音声出力設定」	「デジタル音声出力設定」－「HDMI 出力」－ 「オート」「PCM（サラウンド）」 • 通常は「オート」に設定します。

• 「HDMI 映像出力設定」を「オート」以外に設定するとき、接続先で対応していない解像度は選択できません。（HDMI ケーブルが接続されていない、または接続先機器の電源が入っていないときも選択できません。）
• HDMI から 480p または 480i の出力をしているときは、96kHz/192kHz の PCM 音声は、48kHz で出力されます。

■ 市販の D 映像ケーブルを使って D 映像入力端子付きテレビと接続したとき

設定する項目		選ぶ内容
映像端子名 （接続したテレビの端子名）	D1、D2 端子 （ハイビジョン非対応テレビ）	「D 映像出力設定」－「D1」「D2」 接続したテレビの端子名を選びます。
	D3、D4、D5 端子 （ハイビジョン非対応テレビ／ハイビジョン対応のテレビ）	「D 映像出力設定」－「D3 ／ D4 ／ D5」 接続したテレビの端子名を選びます。
テレビのタイプ設定	16：9 ワイドテレビ	「画面サイズ設定」－「16：9（ワイド）」
	4：3 サイズのテレビ	「画面サイズ設定」－「4：3（ノーマル）」

• 接続設定リセット（→ **52** ページ）により、「D 映像出力設定」が「D1」に変更されます。

■ HDMI ケーブルと D 映像ケーブルの両方を使ってテレビと接続したとき

「ホーム」－「設定」－「映像·音声調整」－「映像・音声設定」で「映像同時出力設定」を行います。設定は、D 映像ケーブルを接続したテレビに合わせます。

設定する項目		選ぶ内容
ハイビジョン対応テレビと接続	「映像・音声調整」－ 「映像・音声設定」－ 「映像同時出力設定」	「HDMI 端子優先」 •「HDMI 出力端子」、「D 映像出力端子」から「HDMI 出力設定」で設定した映像が出力されます。
ハイビジョン非対応テレビと接続※1	「映像・音声調整」－ 「映像・音声設定」－ 「映像同時出力設定」	「D 映像端子優先」※2 •「HDMI 出力端子」、「D 映像出力端子」から「D 映像出力設定」で設定した映像が出力されます。

※ 1「HDMI 端子優先」に設定しているときは、ハイビジョン信号が D 映像端子から出力されるため、ハイビジョン非対応テレビでは映像が見られません。
※ 2「D 映像端子優先」に設定したときは、ファミリンク機能は働きません。
• 接続設定リセット（→ **52** ページ）により、「映像同時出力設定」が「D 映像端子優先」に変更されます。

次ページへつづく

■ 市販の D －コンポーネント変換ケーブル（RCA ピンタイプ）を使ってコンポーネント映像入力端子付きテレビと接続したとき

「設定」では設定できません。「設定リセット」（→ **103** ページ）、「個人情報初期化」（→ 2. 操作編 **225** ページ）で再設定を行ってください。設定がリセットされ、自動的に電源が「切」になります。その後、電源を「入」にすると、初期設定画面（→ **46** ページ）が表示されます。

設定する項目		選ぶ内容
映像端子名 （接続したテレビの端子名）	DVD 入力用 Y, C_B, C_R 端子	「ハイビジョン非対応テレビ」－ 「コンポーネント映像入力端子（Y, C_B, C_R）」
	ハイビジョン対応 Y, P_B, P_R 端子 Y, P_B/C_B, P_R/C_R 端子	「ハイビジョン対応テレビ」－ 「コンポーネント映像入力端子（Y, P_B, P_R）」 「コンポーネント映像入力端子（Y, P_B/C_B, P_R/C_R）」
テレビのタイプ設定	16：9 ワイドテレビ	ワイド（16：9）
	4：3 サイズのテレビ	通常（4：3）

■ 付属の映像・音声コードを使用してテレビと接続したとき

設定する項目		選ぶ内容
テレビのタイプ設定	16：9 ワイドテレビ	「画面サイズ設定」－「16：9（ワイド）」
	4：3 サイズのテレビ	「画面サイズ設定」－「4：3（ノーマル）」

その他の機器を接続する

本機をさらに楽しむために、必要に応じてその他の機器と接続しましょう。

重 要

- 安全のため本機・テレビ・接続する機器の電源プラグをコンセントから抜いて、接続してください。
- 接続する端子に合ったケーブル類を使って、接続してください。
- ケーブル類は、接続する端子の奥までしっかり差し込んでください。
- 接続する機器側の接続については、接続する機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

- 映像が映らないとき、テレビの映りが悪いとき、正常な録画ができないときは、**93** ～ **95**、**103** ページをご覧ください。

ビデオカメラやビデオデッキを接続する場合

外部から入力（L1）端子へ

▼本機後面

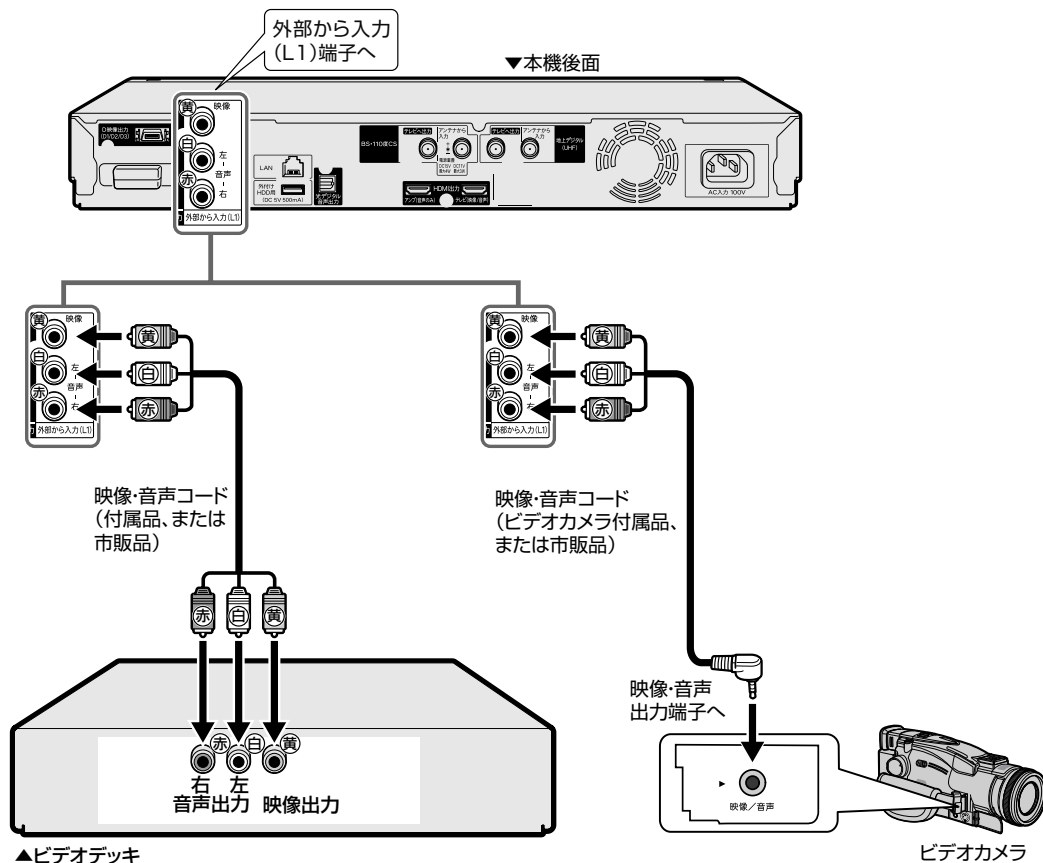
映像・音声コード（付属品、または市販品）

映像・音声コード（ビデオカメラ付属品、または市販品）

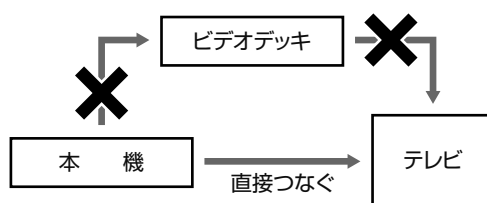
映像・音声出力端子へ

右 左 音声出力 映像出力

▲ビデオデッキ

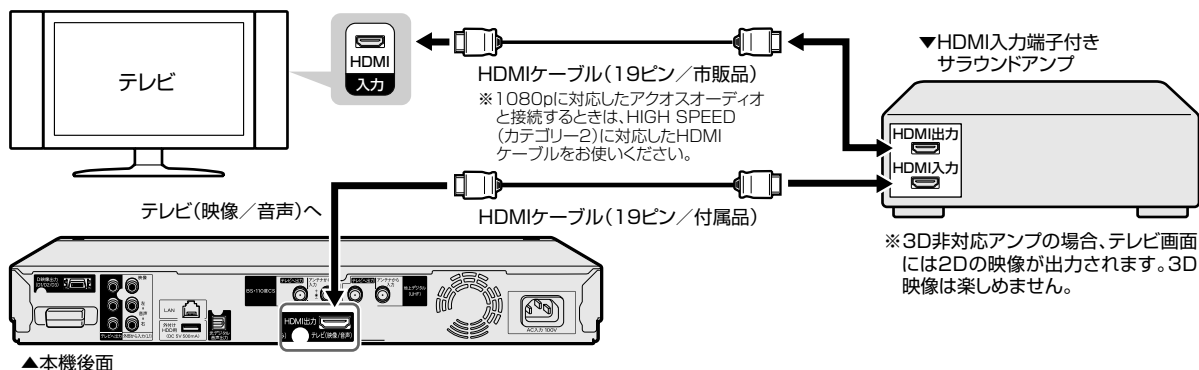
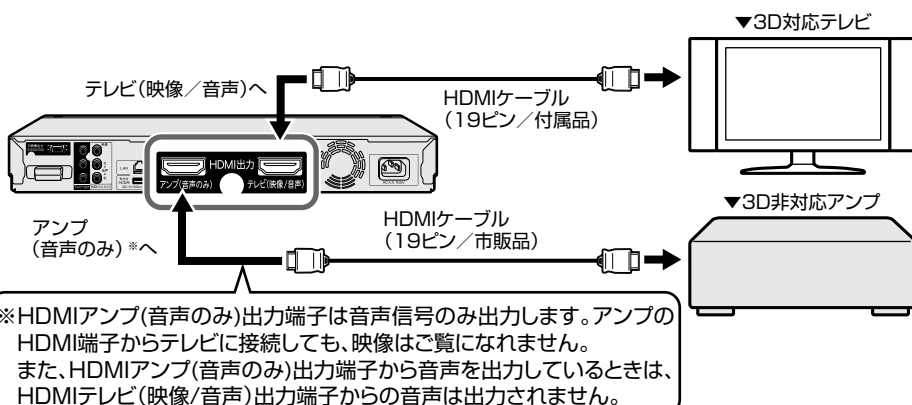
ビデオカメラ

ご注意

- 本機とテレビは直接接続してください。ビデオデッキを経由して本機の映像をテレビに映した場合、コピー防止機能の働きにより映像が乱れることがあります。
- 著作権保護された番組をビデオデッキなどで録画する際、著作権保護のための機能が働き、正しく録画できません。また、この機能により、再生目的でもビデオデッキを介してモニター出力した場合には画質劣化する場合がありますが、機器の問題ではありません。著作権保護された番組を視聴する場合は本機とモニターを直接接続してお楽しみください。

確認
接続・準備
初期設定
設定
困ったときは

オーディオ機器を接続する場合

HDMI 接続で音声を楽しむときは

本機の音声を HDMI 入力端子付きオーディオ機器で楽しむための接続です。

- 次世代オーディオフォーマットのデコードに対応した AV アンプなどと HDMI 接続することにより、ブルーレイディスクに記録されている最大 7.1ch のロスレスオーディオ「DTS-HD Master Audio」や「ドルビーTrueHD」音声など大迫力の高音質サラウンド音声が楽しめます。
- オーディオ機器側の接続については、オーディオ機器の取扱説明書をご覧ください。
- ファミリンク対応のアクオスオーディオ（アクオスサラウンド）を接続する場合は **38**、**39** ページの接続をしてください。

重 要

- 本機に接続した HDMI ケーブルが誤って強く引かれた場合、端子部が破損するおそれがあります。取り扱いにご注意ください。
- オーディオ機器と HDMI アンプ (音声のみ) 出力端子を接続したとき、オーディオ機器で音声を視聴するときは、「視聴設定画面」（→ 2. 操作編 **116** ページ）の「HDMI 音声出力設定」を「アンプ優先」に設定してください。（工場出荷時は「アンプ優先」に設定されています。）

ご注意

- 接続後は、「ホーム」－「設定」－「映像･音声調整」－「映像･音声設定」の「デジタル音声出力設定」を行ってください。（→ 2. 操作編 **219** ページ）
  ①「デジタル音声出力設定」の「1. サラウンド機器と接続した端子の設定をします。」で「HDMI 出力」を選択します。
  ② 接続した機器に合わせ、「オート」または「PCM（サラウンド）」に設定します。
- 「デジタル音声出力設定」を「HDMI 出力」に設定したとき、本機から出力される音声は「音声設定と出力される音声について」（→ **34** ページ）をご覧ください。

ヒント

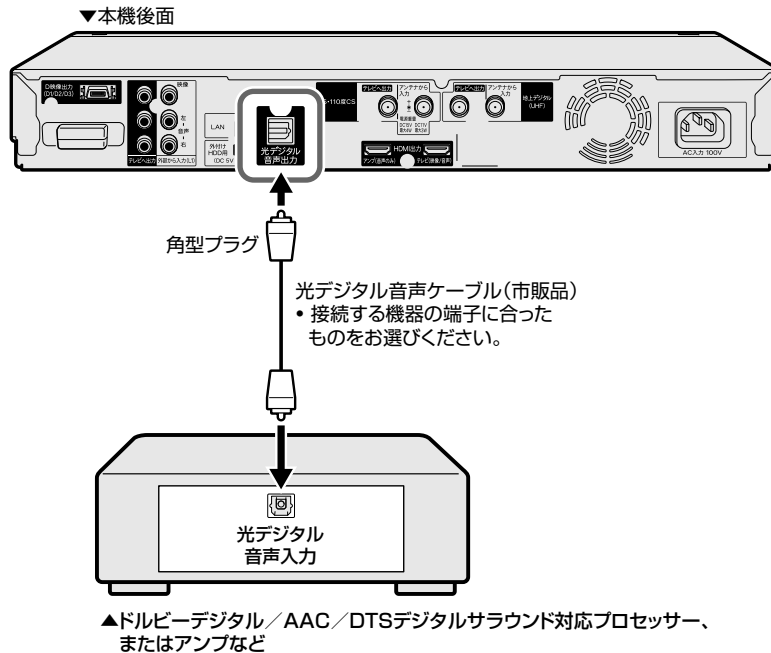
- アナログ接続で 2ch オーディオ機器などで音声を楽しむときは、市販の音声コードを使い、本機の音声出力端子（テレビへ出力）で本機とオーディオ機器を接続します。
- オーディオ機器の接続について詳しくは、オーディオ機器の取扱説明書をご覧ください。

デジタル接続で音声を楽しむときは

本機の音声をデジタル音声入力端子付きオーディオ機器で楽しむときの接続です。

- 通常のステレオ音声に加えドルビーデジタルや DTS などの迫力ある音響効果を楽しめます。
  - ・ドルビーデジタル /AAC/DTS デジタルサラウンドプロセッサーまたはドルビーデジタル /AAC/DTS デジタルサラウンドデコーダー内蔵アンプと本機を光デジタル接続することにより、大迫力の臨場感あふれるサラウンド音声を楽しむことができます。
  - ・DTS 音声を楽しむには、DTS デジタルサラウンドデコード機能搭載のプロセッサーまたはアンプが必要です。
  - ・DTS デジタルサラウンド音声を楽しむときは、DVD 再生時にディスクメニューで DTS 音声を選ぶか、リモコンふた内の[音声]で DTS 音声を選んでください。音声の選びかたについては、[2. 操作編] **111** ページをご覧ください。
  - ・DTS デジタルサラウンドデコード機能搭載の機器と接続したときは、「光デジタル音声出力」（→ [2. 操作編] **219** ページ）で「ビットストリーム」に設定します。
- オーディオ機器側の接続について詳しくは、オーディオ機器の取扱説明書をご覧ください。

▲ドルビーデジタル／AAC／DTSデジタルサラウンド対応プロセッサー、
またはアンプなど

ご注意

- 接続後は､「ホーム」－「設定」－「映像･音声調整」－「映像･音声設定」の「デジタル音声出力設定」を行ってください。（→ [2. 操作編] **219** ページ）
- 「デジタル音声出力設定」を「光デジタル音声出力」に設定したとき､本機から出力される音声は「音声設定と出力される音声について」（→ **34** ページ）をご覧ください。

お知らせ

デジタル音声出力について

- 二ヶ国語放送や二ヶ国語放送を録画した番組の再生では、音声の切り換えはできません。（プロセッサーまたはアンプに音声切換機能があるときは、オーディオ機器側で切り換えてください。）
- 音楽用 CD を再生したとき、音声の切り換えはできません。
- 96kHz/24bit（LPCM）音声を楽しむときは、96kHz に対応しているプロセッサーまたはアンプが必要です。

MD とデジタル接続し、録音して楽しむとき

- 本機と MD をデジタル接続し CD を MD に録音したときに、CD と MD の曲番（トラック番号）が一致しないことがあります。

DTS デコーダーを内蔵していないデジタル入力付きのオーディオ機器や MD プレーヤーとデジタル接続したとき

- DTS で記録されているディスクは正常な音声がでません。

確認
接続・準備
初期設定
設定
困ったときは

次ページへつづく

音声設定と出力される音声について

本機とオーディオ機器をHDMI端子または光デジタルケーブルで接続しているとき、本機の設定によって出力される音声が変わります。本機の「デジタル音声出力設定」、「音声出力方式」、「BDビデオ付加音声」の設定によって、出力される音声は次のとおりになります。

- 「デジタル音声出力設定」、「音声出力方式」、「BDビデオ付加音声」は、「ホーム」－「映像･音声調整」－「映像・音声設定」で設定します。
- 再生するオーディオストリームの内容は、ソフトによって異なります。

●デジタル音声出力設定を「HDMI出力」に設定し、「マルチチャンネルPCM」対応のオーディオ機器と接続

デジタル音声出力設定を「HDMI出力」に設定したとき、光デジタル音声出力端子から出力される音声は、オーディオストリームに関係なく、PCM（ステレオ）音声になります。

音声出力方式		オート		PCM（サラウンド）	
「BDビデオ付加音声」の設定		する	しない	する	しない
出力端子		HDMI			
再生するオーディオストリーム	PCM	PCM	PCM	PCM	PCM
	Dolby Digital	Dolby Digital 5.1ch	Dolby Digital	PCM	PCM
	Dolby Digital EX※1	Dolby Digital 5.1ch	Dolby Digital EX	PCM 5.1ch	PCM 5.1ch
	Dolby Digital Plus※1	Dolby Digital 5.1ch	Dolby Digital Plus	PCM 7.1ch	PCM 7.1ch
	Dolby TrueHD※1	Dolby Digital 5.1ch	Dolby TrueHD	PCM 7.1ch	PCM 7.1ch
	DTS	DTS 5.1ch	DTS	PCM	PCM
	DTS ES	DTS 5.1ch	DTS ES	PCM 5.1ch	PCM 7.1ch※2
	DTS 96/24	DTS 5.1ch	DTS 96/24	PCM 5.1ch	PCM
	DTS 96/24 ES	DTS 5.1ch	DTS 96/24 ES	PCM 5.1ch	PCM 5.1ch
	DTS-HD HR※1	DTS 5.1ch	DTS-HD HR	PCM 5.1ch	PCM 7.1ch
	DTS-HD MA※1	DTS 5.1ch	DTS-HD MA	PCM 5.1ch	PCM 7.1ch

※1 接続する機器がステレオタイプ（チャンネル数に対応していない）のとき、それぞれの音声をデコード対応していないときは、Dolby Digital、DTS、PCM 2ch音声として出力されます。
※2 DVDビデオは5.1chの音声となります。

●デジタル音声出力設定を「光デジタル音声出力」に設定

- デジタル音声出力設定を「光デジタル音声出力」に設定したとき、HDMI出力端子から出力される音声は、オーディオストリームに関係なく、PCM（ステレオ）音声になります。
- 音声出力方式を「PCM（ステレオ）」に設定したとき、光デジタル音声出力端子、HDMI出力端子ともに、出力される音声は、オーディオストリームに関係なく、PCM（ステレオ）音声になります。

音声出力方式		ビットストリーム	
「BDビデオ付加音声」の設定		する	しない
出力端子		光デジタル	
再生するオーディオストリーム	PCM	PCMステレオ	PCMステレオ
	Dolby Digital	Dolby Digital 5.1ch	Dolby Digital
	Dolby Digital EX※1	Dolby Digital 5.1ch	Dolby Digital EX
	Dolby Digital Plus※1	Dolby Digital 5.1ch	Dolby DigitalまたはDolby Digital EX
	Dolby TrueHD※1	Dolby Digital 5.1ch	Dolby DigitalまたはDolby Digital EX
	DTS	DTS 5.1ch	DTS
	DTS ES	DTS 5.1ch	DTS ES
	DTS 96/24	DTS 5.1ch	DTS 96/24
	DTS 96/24 ES	DTS 5.1ch	DTS 96/24 ES
	DTS-HD HR※1	DTS 5.1ch	DTS、DTS ES、またはDTS 96/24
	DTS-HD MA※1	DTS 5.1ch	DTS、DTS ES、またはDTS 96/24

※1 接続する機器がステレオタイプ（チャンネル数に対応していない）のとき、それぞれの音声をデコード対応していないときは、Dolby Digital、DTS、PCM 2ch音声として出力されます。

SHDD（スロットインハードディスク）を本機に挿入する場合

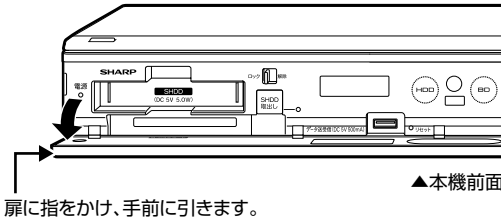
本機は別売品のSHDD（スロットインハードディスク）を挿入し、番組を録画することができます。

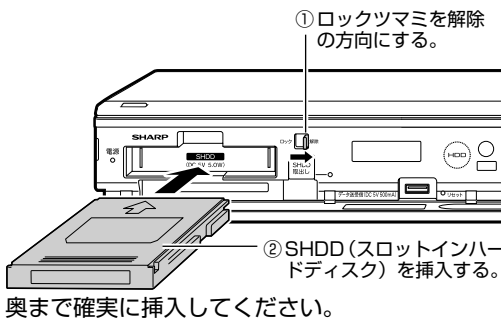
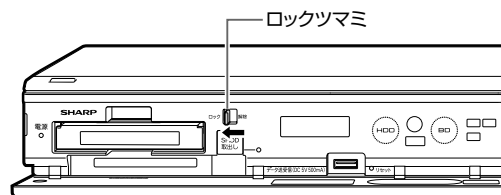
重 要

- 本機に挿入できるSHDD（スロットインハードディスク）はAQUOSブルーレイ専用です。
- 録画や再生が行えるSHDD（スロットインハードディスク）は、本機に登録済みのSHDDです。登録について詳しくは**87**ページをご覧ください。

1 本機前面の扉を開けます

▲本機前面

扉に指をかけ、手前に引きます。

2 SHDD（スロットインハードディスク）を図のように挿入します

奥まで確実に挿入してください。

3 ロックツマミを「ロック」側にして、SHDD（スロットインハードディスク）をロックします

ご注意

- ロックツマミを「ロック」側にしないと、本機がSHDD（スロットインハードディスク）を認識しません。

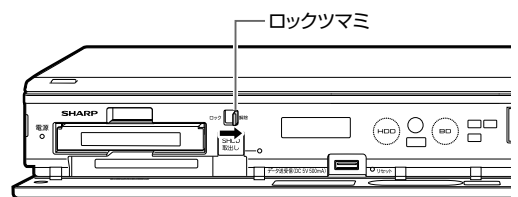
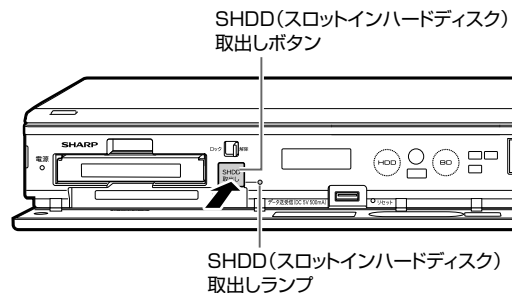
4 本機前面の扉を閉めます

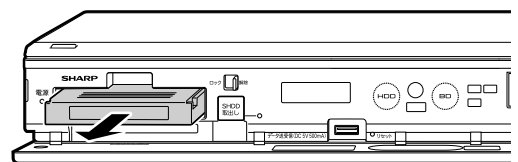
- **挿入が不完全な状態で本機前面の扉を閉めると、SHDD（スロットインハードディスク）の破損や本機の故障の原因となります。**
- 未使用のSHDD（スロットインハードディスク）を挿入し、電源を入れると自動的に登録が始まります。登録について詳しくは**87**ページをご覧ください。

SHDD（スロットインハードディスク）を取り出すときは次の手順を行ってください。

ご注意

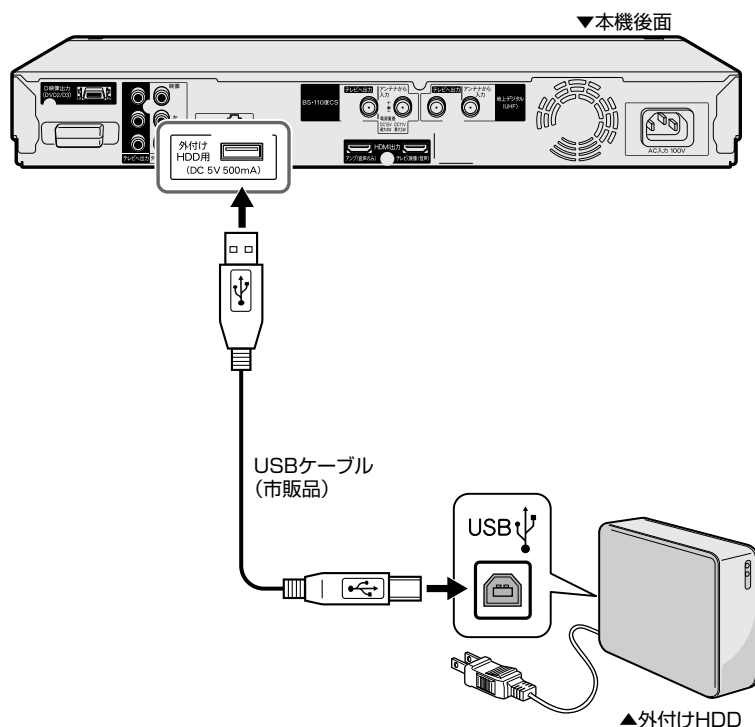
- SHDD（スロットインハードディスク）を取り出すときは、必ず本機の電源が入った状態で行ってください。
- SHDD（スロットインハードディスク）の録画中や再生中は取り出せません。

1 本機前面の扉を開け、ロックツマミを「解除」側にします

2 SHDD（スロットインハードディスク）取出しランプが緑色点灯していることを確認し、SHDD（スロットインハードディスク）取出しボタンを押します

- ランプ点滅中（消灯中）は取出しボタンを押せません。

3 SHDD（スロットインハードディスク）を取り出します

外付け HDD（ハードディスク）を接続する場合

本機に市販の外付け HDD（ハードディスク）を接続し、番組を録画することができます。

重 要

- 外付け HDD（ハードディスク）を本機に接続するときは、必ず本機の電源が切れた状態で行ってください。接続した後は、「ホーム」－「設定」－「初期化･更新」から「増設 HDD 使用設定」を「外付け HDD」に設定した後、「外付け HDD 設定」の「登録」を行ってください。（→ **89** ページ）
- 外付け HDD(ハードディスク)を取り外す場合は、必ず外付け HDD の取り外しの作業を行ってください。外付け HDD の取り外しについては、**89** ページをご覧ください。

ご注意

- 本機に接続できる外付け HDD（ハードディスク）は、セルフパワータイプの HDD です。バスパワータイプの HDD には対応していません。誤って接続した場合は、故障の原因となります。
- 本機に接続できる外付け HDD（ハードディスク）は、1 台だけです。USB ハブなどを使用して、複数の外付け HDD を同時に接続した場合、本機は外付け HDD を認識できません。

お知らせ

- 動作確認済みの外付け HDD（ハードディスク）の機種については、シャープサポートホームページ（http://www.sharp.co.jp/support/av/dvd/）でご確認ください。

ファミリンクを楽しむための接続

ファミリンク対応テレビ・アクオスオーディオと接続

ファミリンク機能は、シャープ製のファミリンク対応機器とHDMIケーブルで接続したときに働く機能です。それ以外の機器では働きません。（正常に動作しない、または一部の機能しか働きません。）

ファミリンクのための接続をしましょう 26、38～39ページ

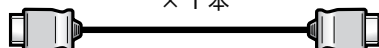
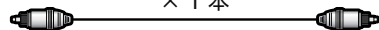
ファミリンクのための設定をしましょう 53～54ページ

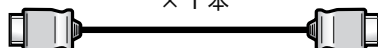
お持ちの機器に合わせて接続しましょう

お持ちの機器（本機と接続する機器）

ファミリンク対応テレビ		アクオスオーディオ※		ご覧いただくページ
3D対応	3D非対応	3D対応	3D非対応	
○		—		**26**ページ
○	—	○	—	**38**ページ
—	○	○	○	
○	—	—	○	**39**ページ

※ AN-ACX1/AN-ACY1/AN-ACR1/AN-ACS1は、1080p信号には対応していません。
※ 1080pに対応したアクオスオーディオと接続するときは、HIGH SPEED（カテゴリー2）に対応したHDMIケーブルをお使いください。

3D 対応テレビと 3D 対応アクオスオーディオを接続する
3D 非対応テレビと 3D 対応／非対応アクオスオーディオを接続する

準備するもの

重 要

- アクオスオーディオ側の接続については、アクオスオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。

安全のため、本機・テレビ・アクオスオーディオなど、接続する機器の電源プラグをコンセントから抜いて、接続してください。

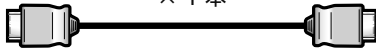
接続例：アクオスオーディオ「AN-AR430/AN-AR530/AN-AR630」の場合

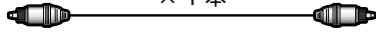
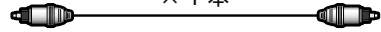
▼テレビ後面の端子例
デジタル音声出力端子へ
HDMI入力端子へ
デジタル音声出力(光)
HDMI入力
ファミリンクに対応したシャープ製のテレビ
ARC対応のHDMI端子へ
HDMIケーブル（アクオスオーディオ付属品）
光デジタル音声ケーブル（市販品）
HDMIケーブル（19ピン／付属品）
テレビ ARC
HDMI1
HDMI2
HDMI 出力(テレビへ)
HDMI 入力(レコーダー/プレーヤーから)
デジタル音声入力(光)
テレビ(テレビから)
入力1
▲アクオスオーディオ後面の端子例
ARC対応テレビとアクオスオーディオをHDMIケーブルで接続しているときは、接続する必要はありません。
▲本機後面
HDMI出力
テレビ(映像/音声)
◀アクオスオーディオ

ヒント

- ARC（オーディオリターンチャンネル）とは、HDMI ケーブルを接続するだけで ARC 対応テレビからアクオスオーディオへ音声信号を出力する機能です。

ファミリンクの設定については **53** ～ **54** ページ

3D 対応テレビと 3D 非対応アクオスオーディオを接続する

準備するもの

重 要

- アクオスオーディオ側の接続については、アクオスオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。

安全のため、本機・テレビ・アクオスオーディオなど、接続する機器の電源プラグをコンセントから抜いて、接続してください。

接続例：アクオスオーディオ「AN-ACX2/AN-AR300/AN-AR310/AN-AR410/AN-AR510/AN-AR600/AN-AR610/AN-AR700」の場合

▼テレビ後面の端子例

デジタル音声
出力端子へ

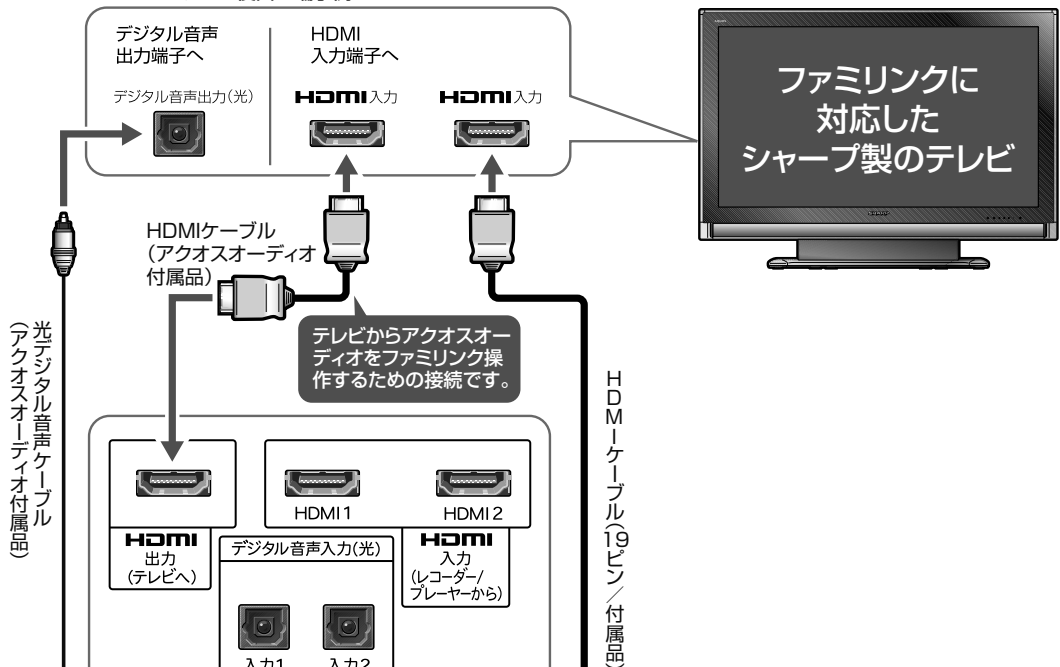
HDMI
入力端子へ

デジタル音声出力(光)

HDMI入力

HDMI入力

ファミリンクに
対応した
シャープ製のテレビ

HDMIケーブル
(アクオスオーディオ
付属品)

テレビからアクオスオーディオをファミリンク操作するための接続です。

光デジタル音声ケーブル
(アクオスオーディオ付属品)

HDMIケーブル(19ピン／付属品)

HDMI1

HDMI2

HDMI
出力
(テレビへ)

デジタル音声入力(光)

入力1

入力2

HDMI
入力
(レコーダー/
プレーヤーから)

▲アクオスオーディオ
後面の端子例

必ず入力1に接続してください。

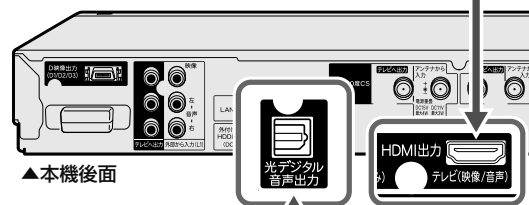
▲本機後面

光デジタル
音声出力

HDMI出力

テレビ(映像/音声)

光デジタル
音声ケーブル(市販品)

◀アクオスオーディオ

本機のサラウンド音声をアクオスオーディオで楽しみたい場合は、アクオスオーディオの光デジタル音声入力を入力2に切り換えてください。

ファミリンクの設定については **53** ～ **54** ページ

双方向通信／インターネット／ホームネットワークの接続をする

LAN 接続でできること

次のサービスを楽しむには、LAN（Local Area Network）接続と **74** ページの LAN 設定が必要です。

- デジタル放送の双方向通信
- アクトビラ、TSUTAYA TV、YouTube の視聴
- BD ビデオの BD-LIVE 機能
- ホームネットワーク
  - DLNA（動画再生）対応アクオスで本機を視聴
  - LAN 接続のスカパー！HD 対応チューナーからの録画（「スカパー！HD 録画」）
  - LAN 接続の CATV のデジタルセットトップボックスからの録画

お知らせ

- プロバイダとの契約も必要です。サービス内容の詳しい情報は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。ホームネットワークのみを利用するときは、プロバイダ契約は不要です。
- ホームネットワークを利用するときは、ホームネットワーク設定（→ **86** ページ）が必要です。
- LAN に接続する場合は、必ず本機の電源を「切」にして行ってください。（電源を入れた状態で LAN 接続したときは、回線接続ができない場合があります。）
- 動作確認済みの CATV デジタルセットトップボックスの機種については、シャープサポートホームページ（http://www.sharp.co.jp/support/av/dvd/）でご確認ください。

●LAN ケーブルの種類について

- LAN ケーブルは、カテゴリー 5 以上のものをご使用ください。
  モデムやルーター、ホームネットワーク機器など、使用する機器に合わせた LAN ケーブルをご使用ください。詳しくは、使用する機器の取扱説明書をご覧ください。

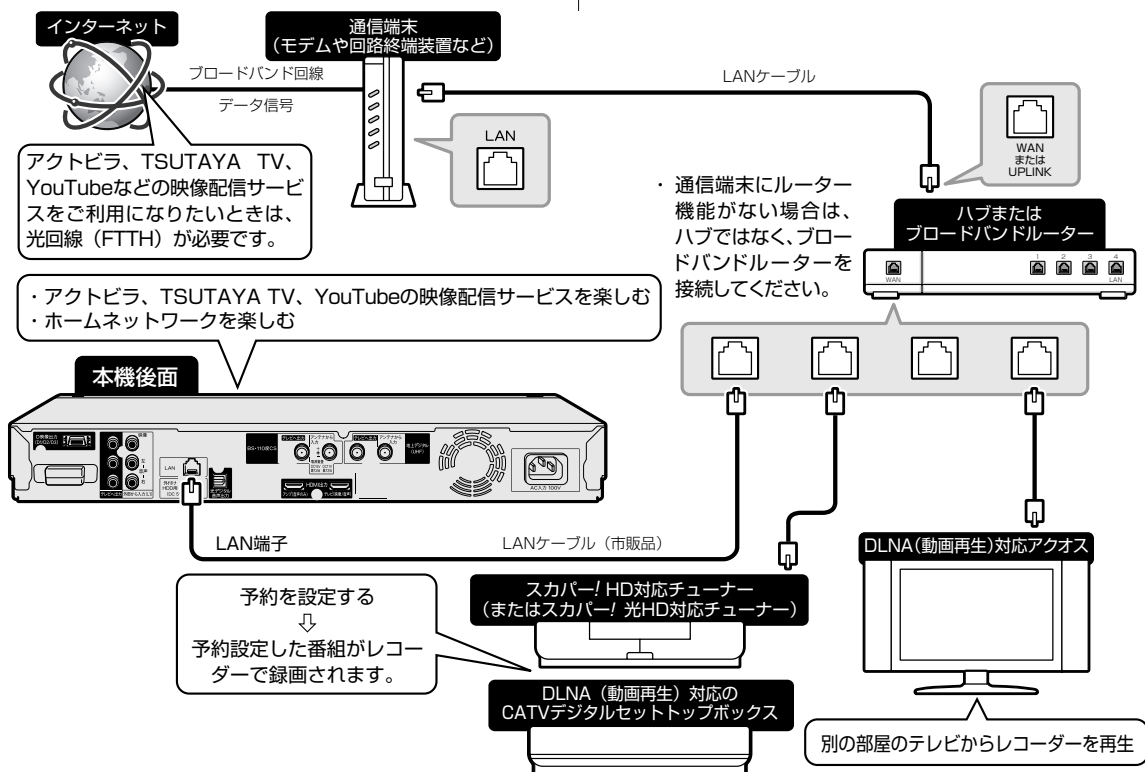
●ADSL の契約について

- ADSL 専用の契約（通常の電話を使用せず IP 電話回線網の使用に限定した契約）の場合、双方向サービスへの接続ができない場合があります。

■ 有線 LAN 接続のしかた

（ADSL での接続の一例です。）
（無線 LAN の接続については、77 ページをご覧ください。）

- 回線業者やプロバイダにより、必要な機器や接続方法が異なります。
- 本機は公衆 LAN への接続には対応しておりません。通信端末認定品の市販ルーターなどを用いて LAN 接続をしてください。

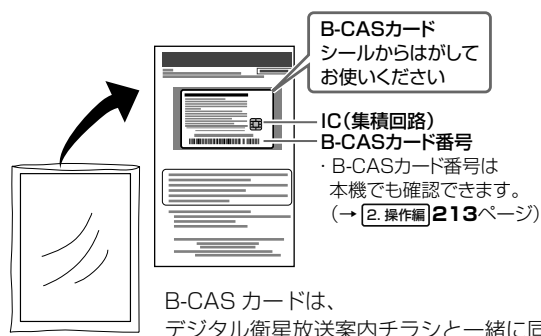
> - ADSL など、ブロードバンドサービスの接続には専門知識が必要です。詳しくは、ADSL 事業者にお問い合わせください。

接続後は、LAN 設定（→ 74 ページ）を必ず行ってください。
ホームネットワークを利用するときは、ホームネットワーク設定（→ 86 ページ）が必要です。

B-CAS（ビーキャス）カードを挿入する

デジタル放送を視聴するために、本機に B-CAS カードを必ず挿入してください。
B-CAS カードは、デジタル放送を受信する機器それぞれに挿入することが必要です。

デジタル放送と B-CAS（ビーキャス）カードについて

- B-CAS カードを挿入していただくことで、NHK や無料民放も、これまでどおり番組をお楽しみいただけます。
  B-CAS カードを挿入しないと、地上デジタル放送や BS デジタル放送が映りません。
- 地上デジタル放送、BS · 110 度 CS デジタル放送は、B-CAS カードを利用した限定受信システムを採用しています。2004 年 4 月より、有料放送だけでなく、無料放送も B-CAS カードが必要です。
- B-CAS カードの取り扱い詳細は、カードを貼ってある台紙の説明をご覧ください。

B-CAS カードは、
デジタル衛星放送案内チラシと一緒に同梱されています。

※ 開封すると添付されている契約約款に同意したとみなされます。開封前に必ず契約約款をよくお読みください。

B-CAS カードの取り扱い

- 折り曲げたり変形させない。
- 重いものをおいたり、踏みつけない。
- 水をかけたり、ぬれた手で触らない。
- IC（集積回路）部には、手を触れない。
- 分解や加工をしない。

B-CAS カードのお問い合わせは（紛失時など）

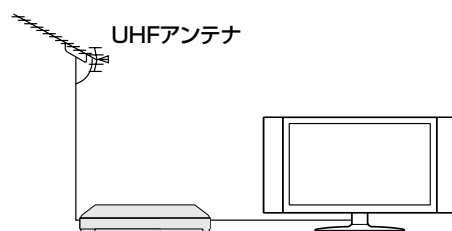
B-CAS カスタマーセンター
TEL 0570-000-250

地上デジタル放送を見るには

地上デジタル放送の受信には UHF 対応のアンテナを使用します。
現在お使いのアンテナが UHF 対応であれば、そのままご使用になれます。（※一部取り替えや調整が必要な場合もあります。）

UHFアンテナ

VHF アンテナでは受信できません。

- ご使用のアンテナが VHF アンテナのみの場合は、UHF アンテナの設置が必要になります。

お知らせ

- アンテナ工事は技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

BS・110 度 CS デジタル放送を見るには

BS デジタル放送や 110 度 CS デジタル放送の有料放送を視聴するには放送局への申し込みが必要です。

- お客さまが視聴したい番組を放送している放送局の契約申込書に、必要事項をご記入のうえ、投函してください。
  詳しくは、それぞれの有料放送を行う放送局のカスタマーセンターにお問い合わせください。

衛星

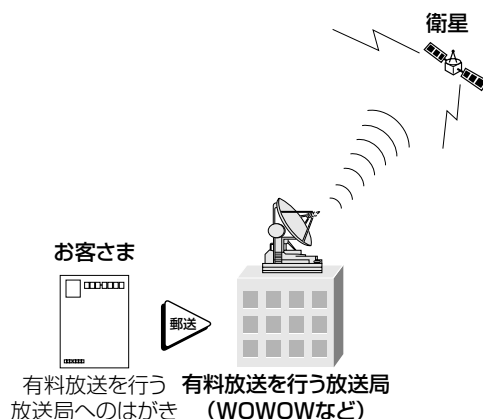
お客さま

郵送

有料放送を行う放送局へのはがき

有料放送を行う放送局（WOWOWなど）

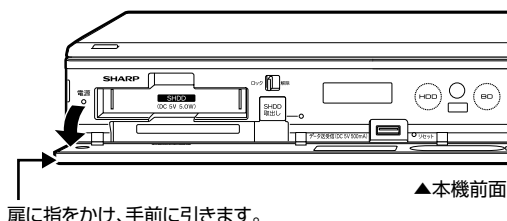
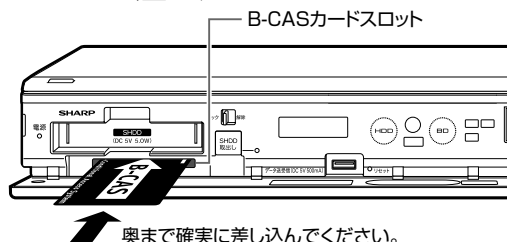
［有料放送の視聴・録画について］

- WOWOW などの有料放送を本機で視聴・録画をするには、契約済み B-CAS カードを本機に挿入しておく必要があります。（有料放送は、未契約の B-CAS カードでは視聴・録画が行えません。）

お知らせ

- 本機は、契約データの受信のために、電源「切」（待機状態＝電源ランプ赤色点灯）のときでも動作することがあります。
- 放送局との通信中は、本体表示部に「DATA」と表示されます。

B-CAS（ビーキャス）カードを本機に挿入する

地上デジタル・BS・110 度 CS デジタル放送をご覧いただくには、B-CAS カードを本機に挿入する必要があります。

1 本機前面の扉を開けます

2 B-CAS（ビーキャス）カードを図のように差し込みます

- 表面を上にし、矢印の方向に挿入します。

3 本機前面の扉を閉めます

- **差し込みが不完全な状態で本機前面の扉を閉めると、カードの破損や本機の故障の原因となります。**

B-CAS（ビーキャス）カードを取り出すときはまっすぐに手で引き抜いてください。

ご注意

B-CAS カードの取扱い上のご注意

- B-CAS カードを挿入するとき、取り外すときは本機の電源を切ってください。
- 本機使用中は、B-CAS カードに触れないでください。
- 差し込み口に B-CAS カード以外のものを挿入しないでください。
- 本機使用中は、B-CAS カードを抜き差ししないでください。視聴できなくなる場合があります。
- B-CAS カードを折り曲げたり、変形させたり、傷をつけたりしないでください。
- B-CAS カードの上に重いものを置いたり、踏みつけたりしないでください。
- B-CAS カードの金属部には手を触れないでください。
- B-CAS カードを分解、加工しないでください。

B-CAS カードは大切に保管してください

- 仮に他人があなたの B-CAS カードを使用して有料番組を視聴した場合でも、視聴料はあなたの口座に請求されます。

B-CAS カードを破損した場合は

- 破損等により B-CAS カードの再発行を依頼される場合は費用がかかります。
  詳しくは、B-CAS カスタマーセンターまでご連絡ください。
  （連絡先：0570-000-250）

電源プラグを差し込む

重 要

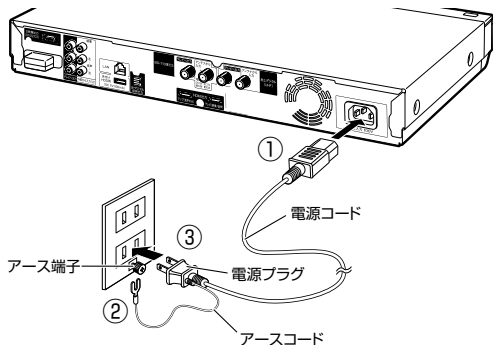
- **電源コードは、束ねずに伸ばしてご使用ください。**
- **機器間の相互干渉による映像の乱れや雑音などを避けるために、電源コードや他のケーブル類をアンテナ線からできる限り離してご使用ください。**

1 電源コードを本体に接続します

- BD-T2100/BD-T1100 には電源コードが2本付属しています。壁のコンセントの形状に合わせてお使いください。
- BD-T2100/BD-T1100 に付属の電源コードのアースは、本機の機能を十分に発揮するための機能アースです。ご使用には、アース端子への接続をおすすめします。

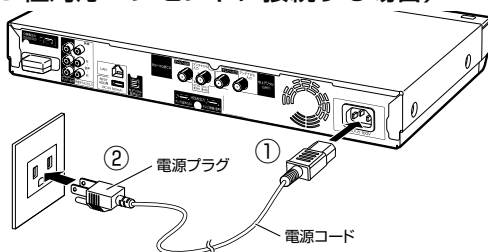
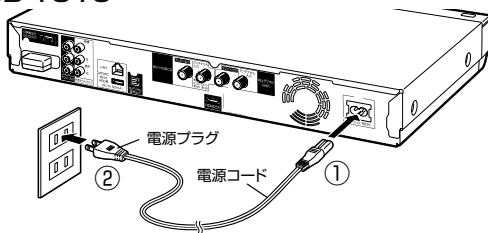
2 電源プラグをコンセントに差し込みます

●BD-T2100/BD-T1100 （アース端子付きコンセントに接続する場合）

- アースコードをアース端子につないでから、電源プラグをコンセントに差し込みます。

- 電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアースコードを接続してください。
- アースコードを取り外すときは、必ず先に電源プラグをコンセントから抜いたあとで行ってください。

ご注意

- アース付きでないコンセントに接続するときは、アースコードに装着されているアースキャップを取り外さないでください。

●BD-T2100/BD-T1100 （3 極対応コンセントに接続する場合）

●BD-T510

ご注意

- 本機の電源プラグは、アンプなどの電源スイッチに連動した電源コンセントにつながないでください。アンプの電源を切ったときに、本機の設定内容が消去されてしまうことがあります。
- 本機の電源が切れているときは、本体の電源ランプ（赤色）が点灯します。電源プラグを差し込んだときは、自動的に HDD（ハードディスク）の信頼性を確認するため、操作が行えるようになるまで多少時間がかかります。本体表示部の「WAIt」表示が消えるまでお待ちください。「WAIt」表示中は、システム準備中のため、電源を「入」にできません。

WAIT表示（本体表示部）－システム準備中
赤点灯中（電源ランプ） －待機中
（電源「入」にできます）
緑点灯中（電源ランプ） －電源入

お知らせ

- コンセントから電源プラグを抜いたあと再び接続して電源を入れた場合、あるいはリセット操作（→ **92** ページ）を行うと以下の表示が出ることがあります。表示が消えるまでお待ちください。

電源プラグの抜き差しやリセット操作などによりディスクを確認しています。完了まで10分以上かかる場合があります。

設定のながれ

以下のような場合はそれぞれの設定を行ってください。

本機を箱から出して
初めて電源を入れたとき

設定をやり直したい

初期設定（らくらくセットアップ）

▶45 ページ

- 本機にアンテナ線を接続後、ファミリンクを搭載したシャープ製テレビ「アクオス」と本機を HDMI ケーブルで接続をすると、テレビのチャンネル設定を取得することができ、かんたんに初期設定が行えます。

リモコンの設定

- **本機のリモコンでお使いのテレビを操作する**

▶56 ページ

- **リモコンのテレビ自動入力切換について**

▶57 ページ

- **リモコンを使うと他機が同時に動作する場合に設定を変える**

▶60 ページ

デジタル放送が
うまく受信できない

双方向番組に参加したい

有料放送の契約がしたい

デジタル放送設定

▶62 ページ

- チャンネル個別設定
- 電子番組表の取得
- 双方向通信設定　など（LAN 設定）　▶74 ページ

ホームネットワークを利用したい

- **ホームネットワーク設定** ▶86 ページ

お知らせ

- ARIB 放送規格の変更により、メニューなどの仕様が変わる場合があります。

初期設定する（らくらくセットアップ）

接続後、初めて電源を入れたときはセットアップのための初期設定画面が表示されます。

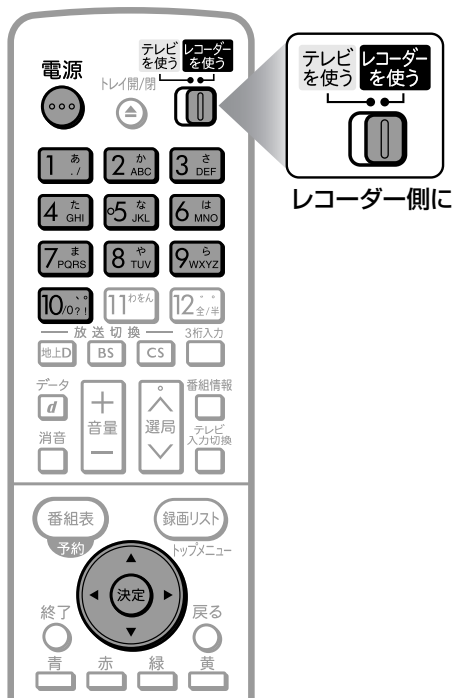
お知らせ

- 設定したあとで初期設定をやり直したいときは、「設定リセット」（→ **52** ページ）または「個人情報初期化」（→ 2. 操作編 **225** ページ）を行ってください。「設定リセット」と「個人情報初期化」を行った場合、自動的に電源が「切」になった後で電源を「入」にすると、初期設定画面が表示されます。

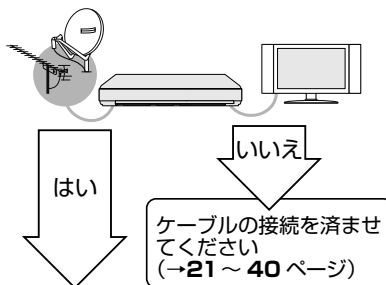
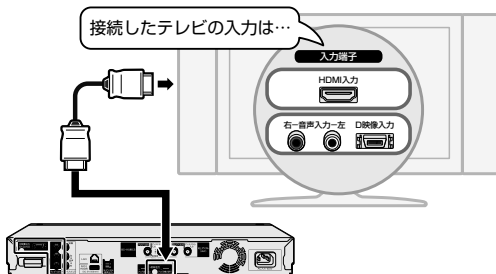
テレビの入力を HDMI ケーブルで接続した入力に切り換えても初期設定画面が出ないときは

- HDMI ケーブルが抜けかかっていませんか。

ご注意

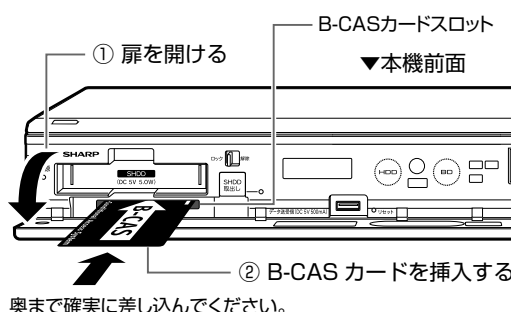
- リモコンでお使いのテレビを操作するには、「メーカー指定」の設定を行う必要があります。（→ **56** ページ）
- リモコン操作をすると他のシャープ製 DVD レコーダーや DVD プレーヤーも動作してしまうときは、「リモコン番号」を設定してください。（→ **60** ページ）

つぎの手順で設定しましょう

1 ケーブルの接続はお済みですか？（アンテナ線、テレビとの接続、LAN などの接続）

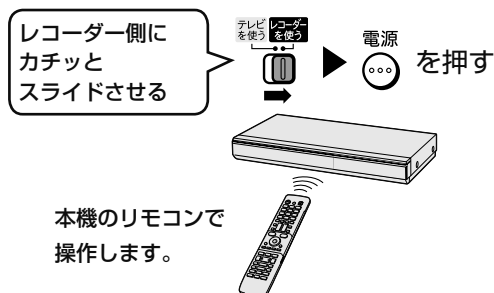
- DLNA 対応テレビ、LAN 接続のスカパー！HD 対応チューナーや DLNA 対応のケーブルテレビ（CATV）デジタルセットトップボックスと接続しホームネットワークを楽しむときは
  ⇒ LAN 接続を済ませてください。

2 レコーダー（本機）を接続したテレビの入力を確認します

- ここで確認したテレビの入力の番号（「入力 1」など）を、手順 **5** で選択します。

次ページへつづく

3 レコーダー（本機）に B-CAS カードを挿入します

奥まで確実に差し込んでください。

- B-CAS カードを挿入しないと、地上デジタル放送や BS デジタル放送が映りません。

4 テレビと本機の電源を入れます

- テレビの電源はテレビのリモコンで入れます。
- 本機の電源は本機のリモコンにあるテレビ／レコーダー切換スイッチを「レコーダー」側に切り換えてから入れます。

5 テレビの入力を、本機を接続した入力に切り換えます

- テレビのリモコンで入力切換ボタンを押し、テレビの入力を切り換えます。

例：手順 2 でテレビの入力 1 に接続した場合

- 入力が正しく切り換わると、「初期設定」画面が表示されます。

6 初期設定を始めましょう

（決定）を押す

本機（レコーダー）へのアンテナ線の接続はお済みですか？

お済みでない場合は、一旦電源を切り、
「接続・設定ガイド」または「取扱説明書」に
従って正しく接続してください。

接続がお済みの場合は［決定］ボタンを
押して次の画面へ進んでください。

次へ

- 接続後、初めて電源を入れたときに「初期設定」画面が表示されない場合については、**103** ページをご覧ください。

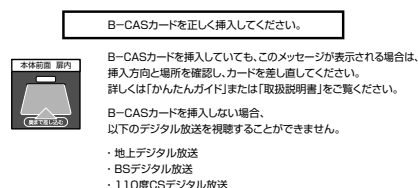
お知らせ

- こんな画面が出たら「B-CAS カード」を入れ直してください。正しく挿入すると、手順 **7** の画面になります。

B−CASカードを正しく挿入してください。

B−CASカードを挿入していても、このメッセージが表示される場合は、
挿入方向と場所を確認し、カードを差し直してください。
詳しくは「かんたんガイド」または「取扱説明書」をご覧ください。

B−CASカードを挿入しない場合、
以下のデジタル放送を視聴することができません。

・地上デジタル放送
・BSデジタル放送
・110度CSデジタル放送

7 ダウンロードの設定をします

- 地上デジタル放送や BS デジタル放送の電波を利用して、ソフトウェアの更新を自動で行うことができます。
- 通常は、「する」で使用することをおすすめします。

で選び（決定）を押す

ダウンロードで自動的にソフトウェア更新を行いますか？

※ソフトウェアの更新をすることで、本機の機能を向上させたり、
新たなサービスに対応することができます。

する　しない

通常は「する」で使用することをおすすめします。

8 ホームネットワークの設定をします

- ホームネットワーク（ＬＡＮ接続）により、AQUOS で本機を再生したり、他の機器から本機へ録画したりする場合は、「する」に設定します。

で選び（決定）を押す

ホームネットワーク（ＬＡＮ接続）により、スカパー! HDなど
他の機器からの本機への録画や、ＡＱＵＯＳなど他の機器で
本機の再生ができるようにしますか？

※この設定は、LAN接続しているときに有効です。

する　しない

接続先の機器側でも設定が必要な場合があります。

- LAN ケーブルの接続は本機の電源を「切」にしてから行ってください。

9 クイック起動を設定します

で選び 決定 を押す

① 電源が切れている状態から、「電源を入れる」「電子番組表を表示させる」「ホーム画面を表示させる」「録画リストを表示させる」などの操作がすぐに行えます。また、電源が入ったあと「録画」「再生」の操作がすぐに行えます。

② 電源を切ったあと、2 時間は①「する（設定 1）」と同じ操作が行えます。2 時間後からは、待機時の消費電力を抑えるため「しない」と同じ状態で待機します。

③ 一発（クイック）起動しません。

- クイック起動を「する」に設定したときは、待機消費電力が増加します。（詳しくは 2. 操作編 **211** ページ）
- クイック起動を「する（設定 1）」に設定しておくと、本機の電源を「切」にしていてもホームネットワーク機能を使って、DLNA（動画再生）対応のシャープ製液晶テレビ「アクオス」から本機の再生操作が行えます。

10 BS・110 度 CS アンテナを接続しているかどうかを選びます

- 「する」または「しない」を選んで決定します。

で選び 決定 を押す

BS・110度CSデジタルアンテナを接続しますか？

する　　しない

す　る	**BS・110 度 CS デジタル放送用アンテナ線を接続している場合** BS・CS アンテナ電源の供給は、自動的に「オート」に設定されます。（→ **64** ページ） BS 受信強度が低い（60 未満）場合は右記の「お知らせ」の画面になります。
しない	**BS・110 度 CS デジタル放送用アンテナ線を接続していない場合** BS・CS アンテナ電源は「切」に設定されます。

11 タイムシフト視聴の設定をします

で選び 決定 を押す

タイムシフト視聴機能（ちょっと戻ってテレビ）を使用すると、電源を入れているあいだ中、放送中の番組を一定時間ぶん自動録画します。
これにより、見ている番組を一時停止したり、早戻しするといった視聴ができるようになります。

※ただし、一定時間ぶんハードディスクに録画できる時間が短くなります。

タイムシフト視聴機能をご使用になりますか？

する　　しない

「する」 → 手順 **12** へ

「しない」 → 手順 **13** へ

12 タイムシフトで視聴できる時間を設定します

で選び 決定 を押す

タイムシフト視聴できる時間を何分にしますか？

30分　60分　90分

※この値はあくまでも目安です。

- タイムシフトの視聴設定は、「ホーム」－「設定」－「機能切換」－「タイムシフト視聴設定」で再設定できます。（2. 操作編 **222** ページ）

すでに放送受信設定が完了しているファミリンク対応テレビ「アクオス」と、HDMI ケーブルで接続しているときは

- 「テレビ設定情報取得」画面に進み、チャンネル設定が自動的に始まります。（→ **48** ページ（A）の手順 **14**）

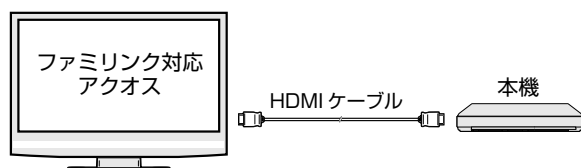
お知らせ

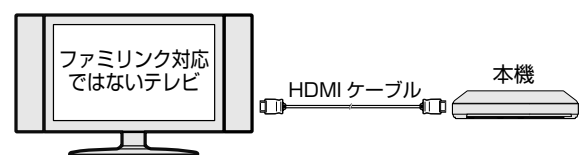
- 下記の画面が表示されたときはアンテナ線の接続を確認してください。

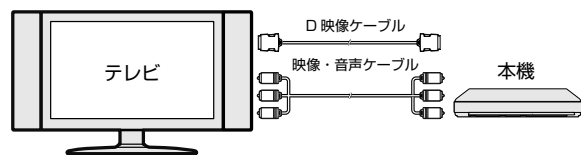
- 決定 を押すとテレビに合わせた設定画面に進みます。

13 レコーダー（本機）を接続したテレビに合わせた設定を行います

- ここからの設定手順は、接続したテレビによって異なります。
  下記をご覧の上、必要な設定を行ってください。

(A) ファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」と HDMI ケーブルで接続したとき

右記（A）の手順 14 へ進む

(B) ファミリンク対応ではないテレビと HDMI ケーブルで接続したとき

49 ページ（B）の手順 14 へ進む

(C) テレビと HDMI ケーブル以外（D 映像ケーブル、映像・音声ケーブル）で接続したとき

50 ページ（C）の手順 14 へ進む

ご注意

(C) の接続の場合、接続するテレビに合わせて、次の設定を行ってください。

画面サイズ設定（→ 2. 操作編 218 ページ）

- 接続するテレビの画面サイズが「16:9（ワイド）」か「4:3（ノーマル）」かを設定します。
- 「ホーム」－「設定」－「映像·音声調整」－「映像·音声設定」－「画面サイズ設定」で設定します。
- 画面サイズ設定を「4：3」にした場合、引き続き、16：9 の映像を再生するときの設定を行います。「レターボックス」または「パンスキャン」を選びます。

(A) ファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」と HDMI ケーブルで接続したとき

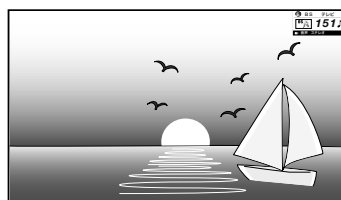
左記手順 **13** からのつづき

14 テレビのチャンネル情報が自動的に取得されます

- テレビのチャンネル情報取得は 5 分程度かかる場合があります。設定が完了するまでお待ちください。
- 環境により、チャンネル情報の取得に 5 分以上かかる場合があります。

設定が完了したら決定ボタンを押します

決定 を押す

テレビ放送画面になります

テレビ放送がすべて映るか確認します（→ 2. 操作編 34 ページ）

設定情報取得中に 決定 を押し中止したときは

テレビの設定内容に合わせた設定ができませんでした。

・ファミリンクに対応したテレビ（シャープ製）と、
本機が正しくHDMIケーブルで接続されていますか？
・アンテナは正しく接続されていますか？

もう一度テレビから設定内容を取得しますか？

する　しない

※テレビから設定内容を取得する場合、5分程度かかる場合があります。
※「しない」を選ぶと郵便番号を入力してチャンネルの設定を行います。

- ◀ を押し、「する」で 決定 を押すと再度「チャンネル情報取得」画面になります。
- ▶ を押し、「しない」で 決定 を押したときは「郵便番号」設定画面となります。（→**下記**）

(B) ファミリンク対応ではないテレビと HDMI ケーブルで接続したとき

48 ページ手順 13 からのつづき

14 お住まいの場所の郵便番号を設定します

1 ～ 10 を押す

- 「0」は 10 で入力します。
- 入力を間違えたときは ◀ または ▶ を押し、間違えたところから再度入力します。

お住まいの地域の郵便番号に合わせて、地上デジタル放送のチャンネルを自動設定します。

お住まいの地域の郵便番号を入力してください。

1 6 2 － 8 4 0 8

地上デジタル放送地域：東京

入力決定

ヒント

- 存在しない郵便番号を入力すると、「後でチャンネル設定を行う」が表示されます。
  郵便番号がわからないときに選んで決定します。
  初期設定が終了したら、郵便番号をお調べになり、**63**、**66** ページの手順でチャンネル設定を行ってください。

15 「入力決定」で決定します

決定 を押す

お住まいの地域の郵便番号に合わせて、地上デジタル放送のチャンネルを自動設定します。

お住まいの地域の郵便番号を入力してください。

1 6 2 － 8 4 0 8

地上デジタル放送地域：東京

入力決定

16 チャンネル設定が自動的に始まります

- チャンネル設定は 5 分程度かかる場合があります。設定が完了するまでお待ちください。

居住地向けのチャンネルを登録しました。

うまく放送が受信できない場合は、取扱説明書を見ながら、
設定のチャンネル設定からもう一度設定を行ってください。

確認

設定が完了したら決定ボタンを押します

決定 を押す

17 初期設定を終了します

「確認」で決定します

決定 を押す

完了

テレビ放送画面になります
テレビ放送がすべて映るか確認します

（→ 2. 操作編 **34** ページ）

確認 / 接続・準備 / 初期設定 / 設定 / 困ったときは

(C) テレビと HDMI ケーブル以外（D 映像ケーブル、映像・音声ケーブル）で接続したとき

48 ページ手順 13 からのつづき

14 接続したテレビの種類を設定します

で選び 決定 を押す

接続したテレビのタイプを選択してください。

ハイビジョン対応のテレビ

ハイビジョン非対応のテレビ

わからない

15 接続したテレビの端子を選択します

で選び 決定 を押す

▼画面例：「ハイビジョン対応テレビ」の場合

■ **手順 14 でハイビジョン対応テレビを選択したときは**

- 「その他の入力端子」「わからない」を選んだときは、手順 **19**（**51** ページ）へ進みます。D 映像出力 [D1]、プログレッシブ出力 [しない] となります。

■ **手順 14 でハイビジョン非対応テレビを選択したときは**

- 「その他の入力端子」「わからない」を選んだときは、手順 **17** へ進みます。

16 選択したテレビの端子を決定します

で はい を選び 決定 を押す

▼画面例：「ハイビジョン対応テレビ」の場合

選ばれた映像端子向けにD映像出力の設定をD3/D4/D5に変更します。よろしいですか？

はい　いいえ

変更後に映像が正しく表示されない場合は、そのまま操作せずにお待ちください。自動的に現在の設定に戻ります。

- 「いいえ」を選んだときは、手順 **15** に戻ります。

- 「再設定」を選んだときは、手順 **15** に戻ります。

設定が完了したら決定ボタンを押します

で 確認 を選び 決定 を押す

■ **「ハイビジョン対応テレビ」の場合 ⇨ 51 ページ 19 へ**

■ **「ハイビジョン非対応テレビ」の場合 ⇨ 17 へ**

17 接続したテレビの画面サイズを選択します

で選び 決定 を押す

18 ワイド映像を視聴したときの画面サイズを選択します

で選び 決定 を押す

19 設定された内容を確認し、決定します

決定 を押す

▼画面例：「ハイビジョン対応テレビ」の場合

接続機器にあわせ映像出力を以下のように設定しました。
D映像出力　［D3／D4／D5］

また、次の項目をハイビジョン対応テレビに適したものに自動設定しました。
画面サイズ　［ワイド（16：9）］

確認
※ HDMI出力時、この設定は無効です。

- 次に、地上デジタル放送のチャンネル設定に進みます。

20 お住まいの場所の郵便番号を設定します

- 数字ボタンで郵便番号を入力します。
- 「0」は 10 で入力します。
- 入力を間違えたときは◀または▶を押し、間違えたところから再度入力します。

お住まいの地域の郵便番号に合わせて、地上デジタル放送のチャンネルを自動設定します。

お住まいの地域の郵便番号を入力してください。

－－－ － －－－－

入力決定

お住まいの地域の郵便番号に合わせて、地上デジタル放送のチャンネルを自動設定します。

お住まいの地域の郵便番号を入力してください。

162 － 8408

地上デジタル放送地域：東京

入力決定

ヒント

- 存在しない郵便番号を入力すると、「後でチャンネル設定を行う」が表示されます。
  郵便番号がわからないときに選んで決定します。
  初期設定が終了したら、郵便番号をお調べになり、**63**、**66** ページの手順でチャンネル設定を行ってください。

手順 23 へ進みます。

21 「入力決定」を選び、郵便番号を決定します

で選び 決定 を押す

お住まいの地域の郵便番号に合わせて、地上デジタル放送のチャンネルを自動設定します。

お住まいの地域の郵便番号を入力してください。

162 － 8408

地上デジタル放送地域：東京

入力決定

22 チャンネル設定が自動的に始まります

- チャンネル設定は 5 分程度かかる場合があります。設定が完了するまでお待ちください。

お住まいの地域（○○）で視聴可能なデジタル放送の放送局を確認しています。
しばらくそのままの状態でお待ちください。

受信チャンネル　○○ｃｈ
リモコン番号　1
放送局名　○○○

を確認しました。
○○ｃｈを確認しています。

居住地向けのチャンネルを登録しました。

うまく放送が受信できない場合は、取扱説明書を見ながら、
設定のチャンネル設定からもう一度設定を行ってください。

確認

設定が完了したら決定ボタンを押します

決定 を押す

23 初期設定を終了します

初期設定が完了しました。

確認

お知らせ

録画（録音）内容の補償はできません。
本機の故障や不具合によりディスクの内容が消失した場合などの
録画（録音）内容の補償につきましてはご容赦ください。

「確認」で決定します

決定 を押す

完了

テレビ放送画面になります
テレビ放送がすべて映るか確認します

（→ 2. 操作編 **34** ページ）

確認
接続・準備
初期設定
設定
困ったときは

お知らせ

- 初期設定後、本機から D 映像ケーブルを取り外すと、設定は「D1」になります。
  テレビ側の映像端子を「D2」～「D5」または「コンポーネント映像入力端子」に設定していたときは、「設定」の「映像·音声調整」－「映像·音声設定」で「D 映像出力設定」をやり直してください。

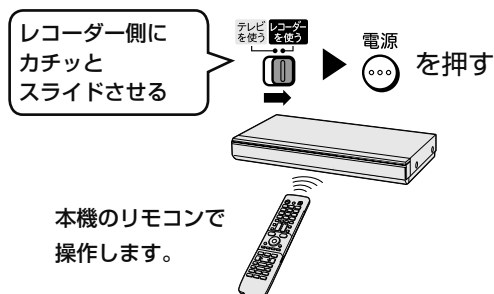
初期設定をやり直す

引越しやテレビの買い換えなどで初期設定をやり直す場合は、次のように行ってください。

1 「ホーム」－「設定」－「初期化・更新」－「設定リセット」を選んで決定します

2 「リセットする」を選んで決定します

- 自動的に電源が切れます。

3 本機の電源を入れます

- 初期設定画面が表示されます。

4 初期設定をやり直します

▶**46** ページ手順 **6**

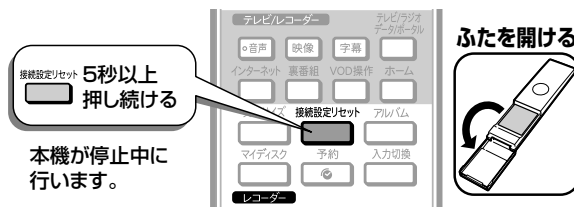
お知らせ

- 設定リセットを実行すると予約内容や番組表データは消去されます。（HDD 内の番組は消去されません。）
- 暗証番号はリセットされません。
- 本体のリモコン番号は「1」に戻ります。リモコンで操作ができなくなったときは、**61** ページをご確認ください。

映像端子とテレビのタイプの設定

「初期設定」で設定できる各項目のうち、次の項目については「初期設定」をやり直さなくても再設定することができます。

設定する項目		選ぶ内容
映像端子設定（接続したテレビの端子名）	D1 端子	「ホーム」－「設定」－「映像·音声調整」－「映像・音声設定」－「D 映像出力設定」で、接続したテレビの端子名を選びます。
	D2 端子	
	D3 端子	
	D4 端子	
	D5 端子	
テレビのタイプ設定	16：9 ワイドテレビ	「ホーム」－「設定」－「映像·音声調整」－「映像·音声設定」－「画面サイズ設定」－「16：9（ワイド）」
	4：3 サイズのテレビ	「ホーム」－「設定」－「映像·音声調整」－「映像·音声設定」－「画面サイズ設定」－「4：3（ノーマル）」

D 映像ケーブルを使ってテレビと接続している場合に誤った設定を行い、テレビ画面に本機の映像が映らなくなったときは（接続設定リセット）

- 「映像同時出力設定」が「D 映像端子優先」に、「D 映像出力設定」が「D1」に変更されます。
  接続したテレビに合わせて「ホーム」－「設定」－「映像・音声調整」－「映像・音声設定」を変更してください。（→ 2. 操作編 **218** ページ）

ファミリンクのための設定をする

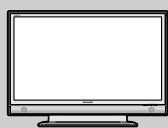
ファミリンク対応テレビとHDMIケーブルで接続し必要な設定を行うと、ファミリンク機能をお楽しみいただけます。

設定のながれ

- 本機の再生などの操作にあわせて、テレビの電源を入れ、テレビの画面を本機の画面に切り換えたり、テレビで見ている番組をHDD（ハードディスク）に録画するなど、ファミリンクを楽しむための設定をします。下記のながれに沿って、テレビと本機の設定を行ってください。（ファミリンク機能での録画はハードディスクに限定されます。）

テレビと本機の電源を入れます。

テレビ側の設定をします。

テレビ側の設定です。

- 設定はテレビの取扱説明書をご覧ください。

① 連動起動設定（ファミリンクのための設定）

- 本機の再生などの操作にあわせて、テレビの電源を入れ、テレビの画面を本機の画面に自動的に切り換えるための設定です。

工場出荷状態は「しない」に設定されています。
設定が必要です。

② 録画機器選択（ファミリンクのための設定）

- テレビで見ている番組を、本機に内蔵のHDD（ハードディスク）に録画するための設定です。

設定が必要です。

設定完了

本機の「ファミリンク設定」が必要なときやアクオスオーディオ（アクオスサラウンド）を接続しているときは、次の設定を行います。

アクオスオーディオ（アクオスサラウンド）を接続しているときは、テレビ側の設定をします。

テレビ側の設定です。

- 設定はテレビの取扱説明書をご覧ください。

ジャンル連動設定（ファミリンクのための設定）

- ファミリンク対応のアクオスオーディオ（アクオスサラウンド）を接続している場合に必要な設定です。

工場出荷状態は「しない」に設定されています。
アクオスオーディオ（アクオスサラウンド）をお使いになる場合は、設定が必要です。

本機側の設定をします。（工場出荷状態では、設定する必要はありません。）

▶54 ページ

本機側の設定です。

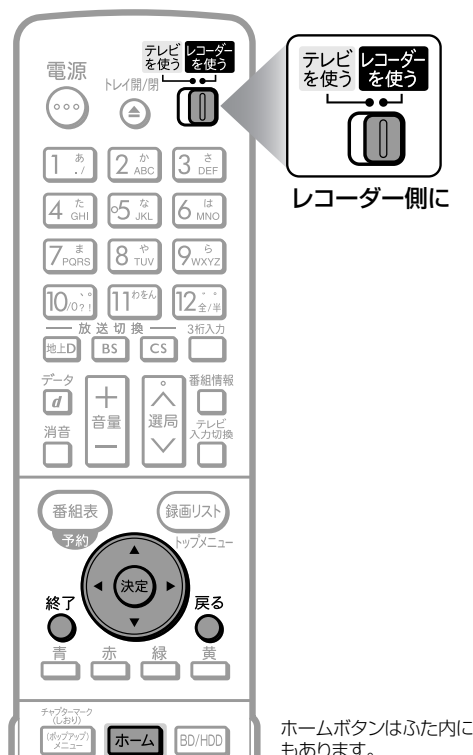
連動設定（ファミリンクのための設定）

- テレビの操作で本機の電源を入れる／切る、本機の操作にあわせてテレビの画面を本機の画面に自動的に切り換えるなどの動作をさせるための設定です。
- 本機の連動設定が「しない」に変更されているときは、「する」に設定します。

工場出荷状態は「する」に設定されています。

ファミリンク機能を使うため、本機側の設定を行ってください。

ファミリンク機能で本機を動作させるには、「ファミリンク設定」の「連動設定」を「する」に設定します。
（工場出荷時は「連動設定」が「する」に設定されています。）

ホームボタンはふた内にもあります。

1 HDMI ケーブルで接続します

▶**26**、**38** ～ **39** ページ

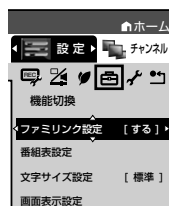
2 ①テレビと本機の電源を入れます ②テレビの入力を本機を接続した入力に切り換えます

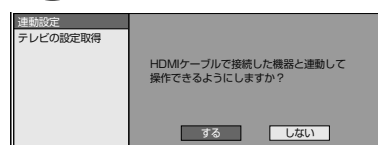
例：テレビの入力 1 に接続した場合

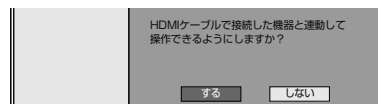
3 ホーム画面を表示させます

ホーム を押す

4 「設定」を選んで決定します

5 「機能切換」－「ファミリンク設定」を選んで決定します

- 戻る を押すと前の画面に戻ります。

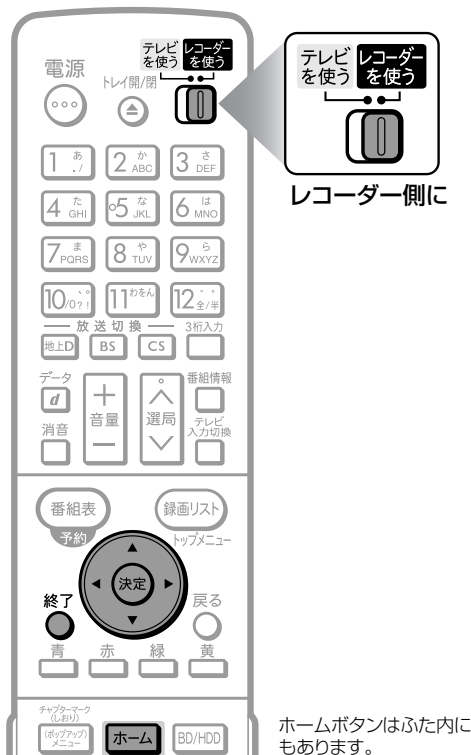
6 「連動設定」を選んで決定します

● **初期設定で、本機のチャンネル設定をテレビと同じにしていない場合**
テレビの設定を取得する必要があります。「テレビの設定取得」を選んで決定を押し、画面の指示に従って設定します。
その後、改めて「連動設定」を選んで決定してください。

7 「する」を選んで決定します

8 設定を終了します

終了 を押す

時計を合わせる

通常は時計合わせを行う必要はありません。

ホームボタンはふた内にもあります。

ご注意

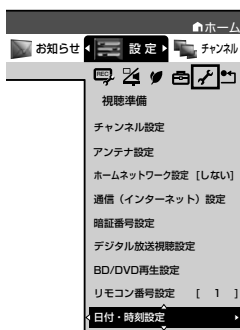
- デジタル放送を正しく受信している場合は自動的に時計合わせが行われますので、この操作は必要ありません。
- 日付・時刻設定がされていない場合は、録画予約やダビングができません。

1 ホーム画面を表示させます

ホーム を押す

2 「設定」を選んで決定します

で選び 決定 を押す

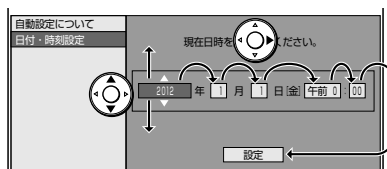
3 「視聴準備」－「日付・時刻設定」を選んで決定します

で選び 決定 を押す

- 日付･時刻設定には「自動設定について」と「日付・時刻設定」の２つの項目があります。「日付・時刻設定」を選んで決定してください。

4 「日付・時刻設定」を選んで決定します

で選び 決定 を押す

5 年→月→日→時→分をそれぞれ選んで設定します

の左右で選び上下で設定する

6 「設定」で決定します

決定 を押す

7 時計合わせを終了します

終了 を押す

本機のリモコンでテレビを操作する

本機のリモコンでお使いのテレビを操作することができるようになります。（テレビメーカー指定）

お知らせ

- 「シャープC1」または「シャープC2」（デジタルチューナーを内蔵したシャープ製のテレビ「アクオス」に対応）の場合は、リモコンのテレビ操作ボタンのすべてが操作できます。
- 手順 **1** で設定した他メーカーのテレビでは、「電源」、「音量」、「選局」、「入力切換」のみが操作できます。
- 「シャープA」に設定したときは、上記のボタンに加え「消音」の操作が行えます。
「パナソニック1」、「ソニー」、「東芝」の3社に設定したときは、上記のボタンに加え「地上D」、「BS」、「CS」、「消音」の操作が行えます。
- 「シャープC1」「シャープC2」設定時のみ、テレビ自動入力切換機能がご使用になれます（→ **57** ページ）。

ご注意

- テレビの種類や機種によっては、リモコンで操作できないものや、特定のボタンが操作できないものがあります。
- 本機のリモコンのテレビ操作は、メモリーできるマルチタイプのリモコンに転送できない場合があります。
メモリーする場合は、テレビのリモコンで転送してください。
- 長時間（約1日）リモコンに電池がない状態が続いたときは、メーカーの設定は「シャープC1」に戻ります。メーカー指定をやり直してください。

重要

シャープ製テレビをお使いのときは

- **本機のリモコンは、工場出荷時「シャープC1」に設定されています。そのまま操作できるかご確認ください。**
- 操作できないときは「シャープC2」→「シャープA」の順番で設定し、テレビが操作できるか確認します。

1 メーカー指定ボタンを押したまま、電源を6秒以上押します

例：シャープC2に変更する場合：2 + 電源

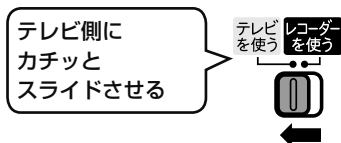
- この設定はテレビ／レコーダー切換スイッチがどちら側でも設定できます。

対応メーカーと指定ボタン一覧表

メーカー	指定ボタン
シャープC1 ※	1 + 電源
シャープC2	2 + 電源
シャープA	3 + 電源
パナソニック1	4 + 電源
パナソニック2	5 + 電源
日本ビクター	6 + 電源
ソニー	7 + 電源
三菱	8 + 電源
日立	9 + 電源
東芝	10 + 電源
パイオニア	11 + 電源
三洋 1	12 + 電源
三洋 2	地上D + 電源
フナイ	BS + 電源
アイワ	CS + 電源

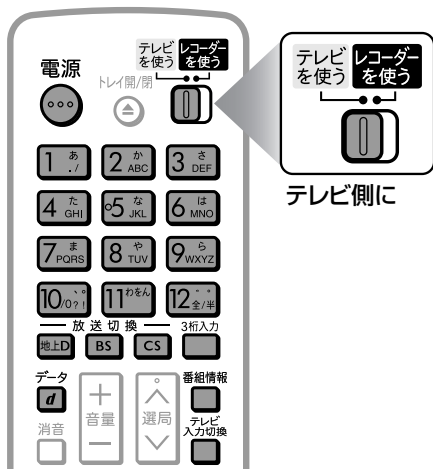
※工場出荷時

- 同じメーカーで指定番号が2つ以上あるものは、順番に試して、手順 **3** でテレビの操作ができるものを選んで設定してください。

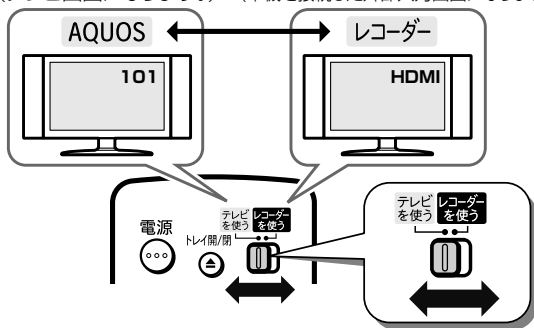
2 テレビ／レコーダー切換スイッチをテレビ側にします

3 リモコンをテレビに向けてテレビが操作できるか確認します

- 電源 … テレビの電源を入／切する
- テレビ入力切換 … テレビの入力を切り換える
- 選局 … テレビのチャンネルを選局する
- 音量 … テレビの音量を調整する

テレビの入力を自動で切り換えるには(テレビ自動入力切換)

本機のリモコンは、シャープ製のデジタルチューナー内蔵テレビ「アクオス」の外部入力を自動的に切り換える機能を持っています。

自動入力切換とは

テレビ側に切り換えたとき
(テレビ画面になります。)

レコーダー側に切り換えたとき
(本機を接続した外部入力画面になります。)

工場出荷状態では

テレビメーカー指定 →「シャープ C1」
自動入力切換 →「しない」になっています。

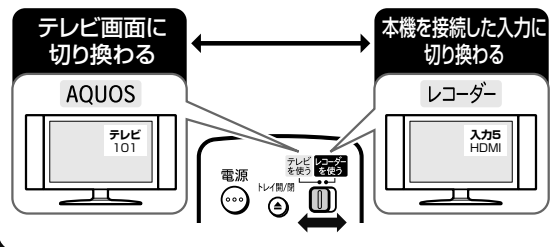
- 本機のリモコンのテレビ／レコーダー切換スイッチは、テレビメーカー指定を「シャープ C1」(工場出荷状態)または「シャープ C2」に設定しているとき、テレビの入力切換ボタンを何回か押したときと同じ動作をします。
- リモコンをテレビに向けてテレビ／レコーダー切換スイッチをレコーダー側に切り換えるだけで、テレビの入力を、自動的に本機を接続した入力に切り換えることができる便利な機能です。(工場出荷状態では働かない設定になっています。)
- テレビメーカー設定「シャープ C1」または「シャープ C2」で操作できるテレビは、デジタルチューナー内蔵のシャープ製テレビ「アクオス」です。

自動入力切換の設定をする

- 自動入力切換は、工場出荷状態では働かない設定になっています。テレビの外部入力を、本機を接続した入力に自動的に切り換わるように設定するには、**58** ページまたは **59** ページの設定を行ってください。

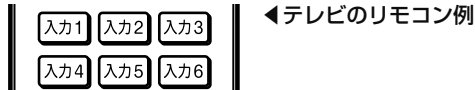
こんな使いかたが便利です

たとえば、本機をテレビの入力 5(HDMI 端子)に接続している場合

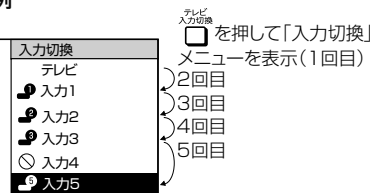
- テレビの「入力」が、自動的に入力 5(HDMI 端子)に切り換わるよう設定できます。

設定について

- 設定はテレビのタイプに合わせて行います。ファミリンク対応のテレビをご使用の場合は、〔タイプ 1〕で設定してください。

〔タイプ 1〕(→ 58 ページ)

テレビの入力切換がダイレクトに選べるテレビ

〔タイプ 2〕(→ 59 ページ)

テレビの入力切換を何回か押して入力切換を行うテレビ

▼テレビの画面例

〔タイプ 1〕の設定 テレビの外部入力を、本機を接続した入力にダイレクトに切り換わるようにします

〔タイプ 1〕（ダイレクト入力切換対応）のテレビは、ファミリンク対応の「アクオス」と、LC-45BE1W/LC-45BE2W/LC-37BE1W/LC-37BE2W/LC-37BE10/LC-37BD1W/LC-37BD2W です。設定しても切り換わらないときは〔タイプ 2〕の設定を行ってください。（→ **59** ページ）

■ファミリンク対応の「アクオス」については、シャープホームページの DVD/BD サポートステーション（http://www.sharp.co.jp/support/av/dvd/）⇒「■使い方が分からないときは」－「? Q&A 情報」⇒「■「Q&A」ピックアップ情報（よくあるご質問）」－「▶ AQUOS ファミリンクとは？　対応している機種は？」をご覧ください。

- リモコンをテレビの真正面に向けて、リモコンの信号が届く範囲で操作を行ってください。
- リモコンのテレビメーカー指定が「シャープ C1」（工場出荷時）または「シャープ C2」のとき設定できます。

1 テレビメーカー指定を「シャープ C1」または「シャープ C2」にします（→ 56 ページ）

「シャープ C1」または「シャープ C2」で操作できないテレビでは、自動入力切換は働きません。

2 本機を接続したテレビ側の入力端子（入力 1、入力 2 など）を調べます

- 調べたらメモしておきます。

3 テレビ／レコーダー切換スイッチをテレビ側にして、電源を押してテレビの電源を入れます

テレビを操作

テレビ／レコーダー切換スイッチをテレビ側にする

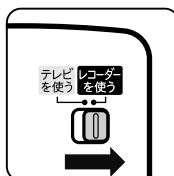
- テレビ放送が映ることを確認します。

4 設定ボタンを押しながら、テレビ入力切換を 6 秒以上押し続けます

- 右記の表を見て、手順 **2** で調べた入力に合わせて設定してください。

自動入力切換	設定ボタン
しない（工場出荷時）	10 + テレビ入力切換
入力 1	11 + テレビ入力切換
入力 2	12 + テレビ入力切換
入力 3	地上D + テレビ入力切換
入力 4	BS + テレビ入力切換
入力 5	CS + テレビ入力切換
入力 6	3桁入力 + テレビ入力切換
入力 7	データ + テレビ入力切換
入力 8	番組情報 + テレビ入力切換

5 リモコンをテレビに向けたまま、テレビ／レコーダー切換スイッチをレコーダー側にします

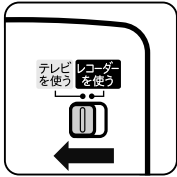
本機を操作

テレビ／レコーダー切換スイッチをレコーダー側にする

- 切り換わるまでリモコンの発光部をテレビに向けて操作してください。
- 切り換わらないときは、「〔タイプ 2〕の設定」（→ **59** ページ）の手順に従って設定し直してください。

〔タイプ 2〕の設定
入力切換ボタンを何回か押して選ぶタイプのテレビを設定します

■ファミリンク対応のテレビをご使用の場合は、〔タイプ 1〕で設定してください。

1 **テレビ／レコーダー切換スイッチをテレビ側にして、電源を押してテレビの電源を入れテレビに放送が映るようにします**

テレビを操作

テレビ／レコーダー切換スイッチをテレビ側にする

- テレビ放送が映ることを確認します。

2 **リモコンを使わずに、本機の本体電源ボタンを押して電源を入れます**

- テレビに本機以外の機器（ビデオなど）が接続されている場合、本機以外の機器の電源は切っておきます。

3 **テレビ入力切換を押し、入力画面が切り換わるのを確認しながら繰り返し押します**

- レコーダー（本機）の画面が何回目に映ったかを確認します。（下の枠内に記入しておきます。）

メモ	回目	− 1 =	設定に使う数字ボタン

- ただし、「1 回目」とメモしたときは、数字ボタン 7 を使います。

手順 5 で設定に使用する数字ボタン

入力切換ボタンを押した回数	手順 5 で使用する数字ボタン
1 回	7
2 回	1
3 回	2
4 回	3
5 回	4
6 回	5
7 回	6

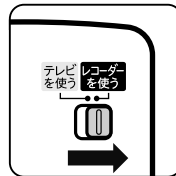
4 **数字ボタン 1 〜 12 を押し、テレビ画面に戻します**

5 **手順 3 でメモした値で設定を行います**

設定例
手順 **3** で「5 回目」とメモしたとき
数字ボタン 4 を先に押したまま、テレビ入力切換を 6 秒以上押し続けます。

- 手順 **3** でメモした値から、1 を引いた値が設定に使う数字ボタンです。
- ただし、手順 **3** で「1 回目」とメモしたときは、数字ボタン 7 を使います。
- 数字ボタンは必ず先に押してください。
- 工場出荷時は、数字ボタン 10（切り換わらない）となっています。

6 **リモコンをテレビに向けたまま、テレビ／レコーダー切換スイッチをレコーダー側にします**

本機を操作

テレビ／レコーダー切換スイッチをレコーダー側にする

- 切り換わるまでリモコンの発光部をテレビに向けて操作してください。
- テレビ／レコーダー切換スイッチを切り換えたあと約３秒以上たってもテレビの入力が切り換わらないときは、スイッチをテレビ側に切り換え、再度手順 **4** 〜 **6** の操作を行い、設定し直してください。
- 入力が切り換わるようすを見ながら操作を行うと、再設定がしやすくなります。

メモ

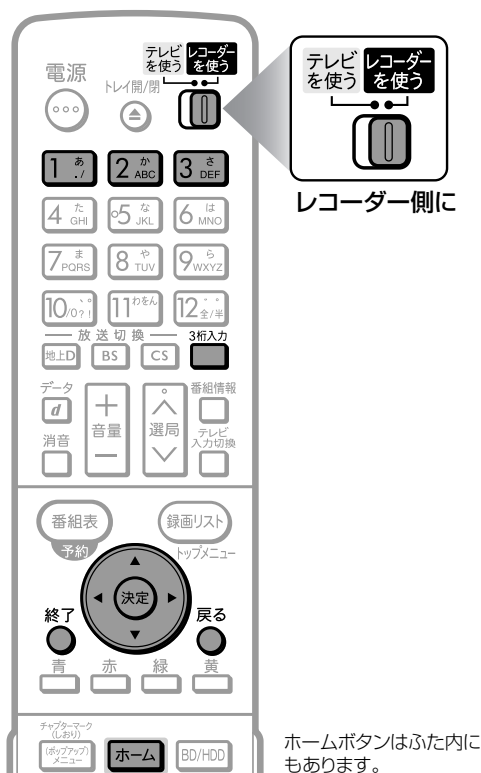
- テレビ自動入力切換を工場出荷時の状態「しない」（切り換わらない）に設定を戻したいときは

10 を押したまま テレビ入力切換 を 6 秒以上押す

リモコンで操作すると他の機器まで動作してしまうとき（リモコン番号変更）

リモコンで本機を操作する信号には、リモコン番号 1、2、3 の 3 種類があります。
シャープ製 BD・DVD 機器（工場出荷時：リモコン番号 1）をお持ちで、リモコンを使うとシャープ製 BD・DVD 機器と本機が同時に動作してしまう場合は、別のリモコン番号に設定することで、本機のみ動作させるようにできます。

- リモコン番号は、本体側とリモコン側で同じ番号に設定します。
- 本体側のリモコン番号を設定した後で、リモコン側のリモコン番号を設定します。

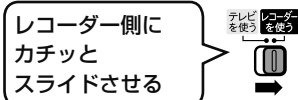
ホームボタンはふた内にもあります。

お知らせ

- リモコン番号の初期設定は「1」です。
- リモコンで本機を操作しようとしてできない、あるいは他機が動作してしまう場合は、リモコン番号を変更してください。
- 長時間 (約 1 日）リモコンに電池がない状態が続いたときは、リモコン側のリモコン番号が「1」に戻ります。

例）リモコン番号を「3」に変更する場合

はじめに本機側の設定をします

準備 テレビと本機の準備をします
（→ 46 ページ手順 4 ～ 5）

1 テレビ／レコーダー切換スイッチをレコーダー側にします

2 ホーム画面を表示させます

ホーム を押す

3 「設定」を選んで決定します

4 「視聴準備」－「リモコン番号設定」を選んで決定します

で選び（決定）を押す

- 戻るを押すと前の画面に戻ります。

5 「リモコン番号 3」を選んで決定します

で選び（決定）を押す

本体とリモコンそれぞれを同じリモコン番号に合わせます。
まず、本体側の番号を設定してください。
現在のリモコン番号は「1」です。

リモコン番号1　リモコン番号2　リモコン番号3

6 「はい」を選んで決定します

で選び（決定）を押す

本体側のリモコン番号を「3」に変更します。
よろしいですか？

はい　いいえ

つづけてリモコン側の設定をします

続いて、リモコン側の番号を本体と同じ番号に設定してください。
現在、本体側のリモコン番号は「3」です。

1．リモコンを本体に向けてください。

2．次にリモコンの[3]を先に押したまま、リモコンの[決定]ボタンを6秒以上押し続けてください。

7 リモコン側のリモコン番号を設定します

［3 さ DEF］を押したまま（決定）を 6 秒以上押す

続いて、リモコン側の番号を本体と同じ番号に設定してください。
現在、本体側のリモコン番号は「3」です。

1．リモコンを本体に向けてください。

2．次にリモコンの[3]を先に押したまま、リモコンの[決定]ボタンを6秒以上押し続けてください。

※リモコン側の番号が「3」に切換わりました。
リモコンの［終了］ボタンを押して、設定画面が消えたら完了です。

終了　を押してください。

- 「リモコン番号 1」を選んだときは［1 あ ./］を、「リモコン番号 2」を選んだときは［2 か ABC］を押します。

8 設定を終了します

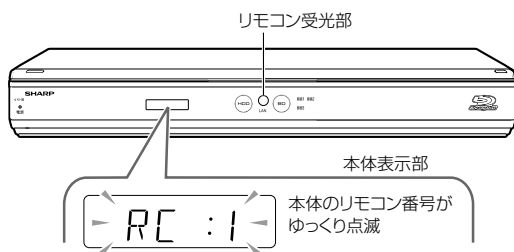
終了を押す

ご注意

- 設定中に予約録画開始時刻になったり、電源を切ったりすると、正常に設定が完了しません。

お知らせ

- 「設定リセット」（→ 2. 操作編 **224** ページ）または「個人情報初期化」（→ 2. 操作編 **225** ページ）を行うと、本体側のリモコン番号が「本体リモコン番号：1」に戻ります。

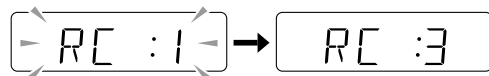
本体表示部にこんな表示が出て、リモコンが操作できないときは

- リモコンで操作したとき本体表示部に「RC:1」、「RC:2」、「RC:3」が点滅する場合は、本体側とリモコン側でリモコン番号が違っています。

■リモコンのリモコン番号を変更するには

本体表示部に表示されている数字（上の場合は「1」）と同じ数字ボタンを押しながら、決定ボタンを 6 秒以上押し続けます。

［1 あ ./］を押したまま（決定）を 6 秒以上押す

■本体をリモコンのリモコン番号に合わせるには

本体の電源を切ってから、3桁入力 を本機に向けて 6 秒以上押してください。
本体のリモコン番号がリモコンに合わせて変更されます。
例：リモコン側のリモコン番号が「RC:3」に設定されているとき

■リモコン番号表示が点滅しないのに操作できない場合は、以下のことを確認してください。

- 乾電池が正しくセットされていますか？
- 乾電池が古く寿命がきていませんか？
  新しい乾電池と交換してください。
- 本体のリモコン受光部前に障害物がありませんか？
- 他の機種のリモコンを使っていませんか？

デジタル放送を視聴するための設定をする

引越しなどで本機をお使いになる地域が変わった場合、チャンネル設定が必要です。

デジタル放送設定のながれ

設定をする前にご確認ください。

デジタル放送用アンテナの接続とB-CASカードの準備はお済みですか？

- デジタル放送を視聴するときの接続をする → **21**～**24** ページ
- B-CASカードを本機に挿入する → **42** ページ
  - 地上・BS・110度CSデジタル放送は、B-CASカードを挿入しないとご覧になれません。

1. 地域と郵便番号を設定する → **63** ページ

- デジタル放送では、地域ごとに特有の放送が行われている場合があります。
  お住まいの地域特有の放送が受信できるように、地域と郵便番号を設定してください。
- **この設定は、地上デジタル放送のチャンネルを自動設定する前に必ず設定してください。**

2. BS･110度CSデジタル放送を楽しむとき
BS･110度CS共用アンテナの設定をする → **64** ページ

- BS･CSアンテナ電源の設定をします。
- 受信強度を確認し、アンテナの向きを調整します。

3. 地上デジタル放送を楽しむとき
地上デジタル放送のチャンネル設定をして、電子番組表を受信する

- 地上デジタル放送のチャンネルを自動で設定します。 → **66** ページ
- 地上デジタル放送のチャンネル再編を有効にします。 → **67** ページ
- 電子番組表（EPG）データを受信します。 → **67** ページ
- 地上デジタル放送のチャンネルを個別に設定します。 → **69**～**70** ページ

4. BS・110度CSデジタル放送を楽しむとき
BS・110度CSデジタル放送のチャンネル設定をする → **72** ページ

5. リモコンに登録されているチャンネルを確認する → **73** ページ

- リモコンに登録されているデジタル放送のチャンネルを確認できます。
  チャンネルの追加登録もできます。

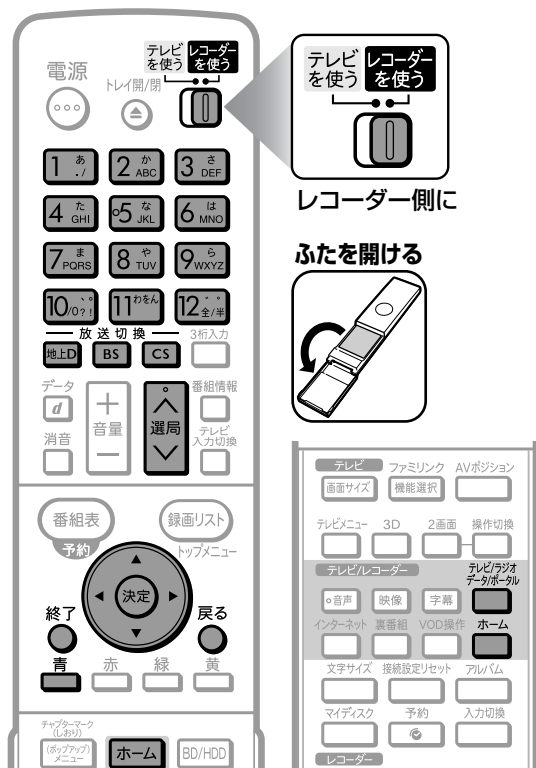
双方向番組に参加したい場合は

- デジタル放送では、テレビ上でのショッピングや、視聴者が参加できるクイズ番組なども放送されています。これらは、双方向通信を利用した番組です。
- 双方向番組はLAN接続で利用できます。

LANの設定をする

- LAN接続をします。 → **40** ページ
- 「デジタル放送接続制限」設定でLAN接続を（禁止）「しない」に設定します。 → **80** ページ
  （工場出荷時は（禁止）「しない」に設定されています。）
- LAN設定をします。
  - 有線LAN設定 → **74**～**76** ページ
  - 無線LAN設定 → **77**～**79** ページ

お知らせ

- 通常のデジタル放送は、LAN接続を行わなくても楽しめます。

地域と郵便番号設定

お知らせ

- 地域と郵便番号の設定は、チャンネル設定前に必要な設定です。
- 緊急ニュースなどの文字スーパーやデータ放送などは、地域によって放送内容が異なることがありますので、必ず地域設定を行ってください。

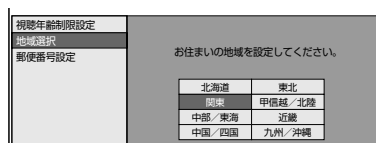
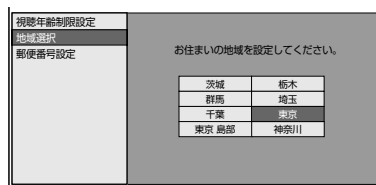
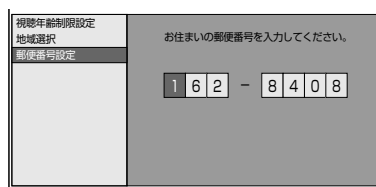
準備 テレビと本機の準備をします（→ 46 ページ手順 4 ～ 5）

1 ホームメニューから「設定」を選んで決定します（→ 55 ページ手順 1 ～ 2）

ホーム を押し、 で選び 決定 を押す

2 「視聴準備」－「デジタル放送視聴設定」を選んで決定します

3 「地域選択」を選んで決定します

4 本機を使う地域を選んで決定します

5 本機を使う都道府県を選んで決定します

6 「郵便番号設定」を選んで決定します

7 郵便番号を入力して決定します

1 ～ 10 を押す

- 入力を間違えたときは修正したい欄を選んで入力し直してください。
- 「0」は 10 で入力します。
- 戻る を押すと前の画面に戻ります。

8 終了 を押して設定を終了します

BS・110 度 CS 共用アンテナ設定

お知らせ

- BS・110 度 CS 共用アンテナをはじめて設定した場合や引越しなどでアンテナを移動した場合は以下の設定が必要になります。
- 「受信強度表示」や「アンテナ電源設定」、「信号テスト」を選択しているときに表示される受信強度は、アンテナの角度の最適値を確認するためのものです。表示される数値などは、具体的な信号強度などを示すものではありません。

準備 テレビと本機の準備をします（→ **46** ページ手順 **4** ～ **5**）

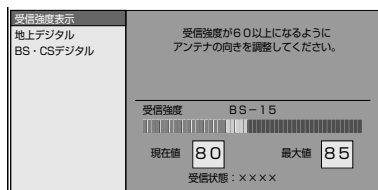
1 「BS デジタル放送」を選局します

BS を押す

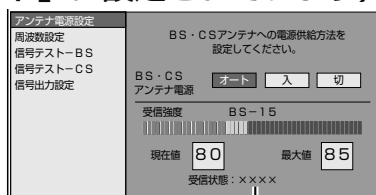
- 110 度 CS デジタル放送の場合は CS を押してください。
- 画面に「放送が受信できません」と表示されても設定は行えます。

2 ホームメニューから「設定」を選んで決定します（→ **55** ページ手順 **1** ～ **2**）

3 「視聴準備」－「アンテナ設定」を選んで決定します

⇒ 受信強度表示画面が表示されます。

- 初期設定で BS・110 度 CS 用アンテナ線の接続（→ **47** ページ）が設定済みの場合は、このページの手順 **6** に進んでください。

4 「BS・CS デジタル」－「アンテナ電源設定」を選んで決定します

5 BS・CS アンテナへの電源供給を設定します
「オート」または「入」、「切」を選んで決定します（工場出荷時は「オート」に設定されています）

受信状態表示

「オート」

- 本体の電源が切れているときはアンテナ電源を「切」にします。電源が「切」でも、他の機器（テレビなど）からのアンテナ電源が供給されているときはアンテナ電源を「入」にします。電源入時は常にアンテナ電源を「入」にします。（工場出荷時の設定）

「入」

- 電源入／切にかかわらず常に電源を供給します。
- BS・CS アンテナへの電源供給を本機からのみ行うときは「入」に設定します。

「切」

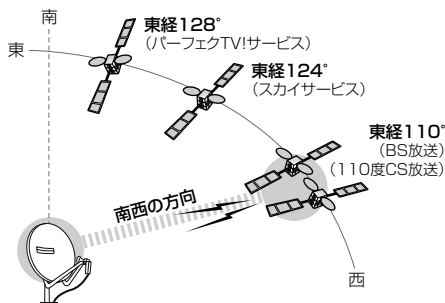
- 共聴アンテナに接続している場合など、BS・110 度 CS アンテナへのアンテナ電源を供給する必要がないときに選びます。

お知らせ

- 「受信状態」の「××××」は、以下の状態を示しています。
  - 良好です。【A】
  - 受信強度が 60 以下です。【B】
  - アンテナ信号が強すぎます。【C】
  - アンテナ信号が不足しています。【C】
  - アンテナ信号が良くありません。【D】
  - 受信できません。【E】

6 受信強度が最大値になるようにアンテナの向きを調整します

- 共聴タイプのアンテナの場合はこの操作は必要ありません。
- 受信強度が 60 以上になるように、アンテナの向きを調整してください。

〈アンテナの向きについて〉

受信強度が60以上になるように、アンテナの方向と角度を調整してください。
・詳しくは、販売店や電気工事店にご確認ください。

7 終了 を押して設定を終了します

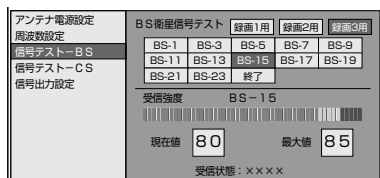
アンテナの信号テストをするには

BS・110度CS共用アンテナ、地上デジタル放送用アンテナ（UHF）の信号テストをします。

1 **64ページの手順1～3を行います**

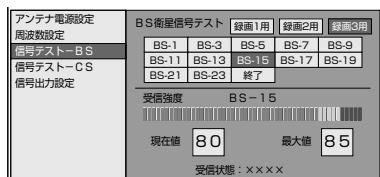
- 地上デジタル放送の場合は **64** ページの手順 **1** で 地上D を押してください。

2 **「BS・CSデジタル」－「信号テストーBS」を選んで決定します**

- 地上デジタル放送の場合は「地上デジタル」－「信号テストー地上D」を選んで決定してください。

- 110度CSデジタル放送の場合は「BS・CSデジタル」－「信号テストーCS」を選んで決定してください。

3 **確認したい信号のチューナーを選んで決定します**

- チューナーは「録画1用」「録画2用」「録画3用」のいずれかを選んで決定してください。

4 **確認したいチャンネルを選んで決定します**

- 受信強度が60以上であることを確認してください。
- それよりも低い場合は、正常に受信できないことがあります。

5 **「終了」を選んで決定します**

6 **終了 を押して設定を終了します**

アッテネーター（減衰器）設定／BS・CS信号出力設定

BS・CS信号出力設定

本機と接続しているテレビがBS・110度CSデジタルチューナーを内蔵していないときは「しない」に設定することで待機時消費電力を抑えることができます。

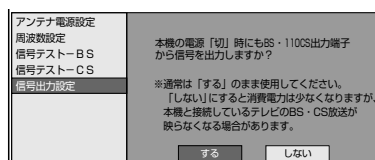
アッテネーター（減衰器）設定

- 地上デジタル放送の電波が強すぎて、放送の映りが悪くなるとき、信号レベルを減衰させ、放送が映るようにするための設定です。
- 初期設定を行ったときは、自動でアッテネーターが設定されますので設定の必要はありません。
- 電波状態の確認は、「信号テスト」で確認できます。

1 **64ページの手順1～3を行います**

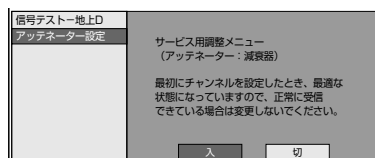
- 地上デジタル放送の場合は **64** ページの手順 **1** で 地上D を押してください。

2 **BS・CS信号出力設定をするとき**

(1) 「BS・CSデジタル」－「信号出力設定」を選んで決定します

(2) 「する」または「しない」を選んで決定します

- 「しない」に設定したときは、本機と接続しているテレビのBS・CS放送が映らなくなる場合があります。

2 **アッテネーターを設定するとき**

(1) 「地上デジタル」－「アッテネーター設定」を選んで決定します

(2) 「入」を選んで決定します

- 「入」に設定して、地上デジタル放送の映りが悪くなったときは「切」に設定しなおしてください。

3 **終了 を押して設定を終了します**

地上デジタル放送のチャンネル自動設定

地上デジタル放送の受信には UHF アンテナが必要です。

準備 ① UHF アンテナを接続します

▶**22**、**24** ページ

- CATV 放送をご利用の場合は→ **23** ページ

② テレビと本機の準備をします（→ **46** ページ手順 **4** ～ **5**）

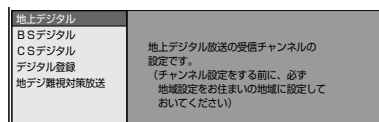
1 リモコンの 地上D を押し「地上デジタル放送」を選局します

2 地域と郵便番号の設定をします

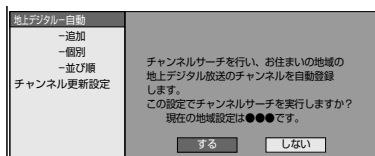
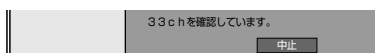
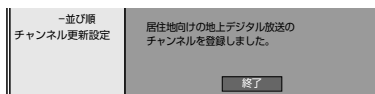
▶**63** ページ

3 ホームメニューから「設定」を選んで決定します（→ **55** ページ手順 **1** ～ **2**）

4 「視聴準備」－「チャンネル設定」を選んで決定します

ホーム
再生・編集 消去 ディスク管理 お知らせ 設定 チャンネル
視聴準備
チャンネル設定
アンテナ設定
ホームネットワーク設定［しない］
通信（インターネット）設定

5 「地上デジタル」を選んで決定します

6 「地上デジタルー自動」を選んで決定します

7 「する」を選んで決定します

自動設定開始

- 自動設定が終了すると以下の画面になります。

8 「終了」で決定します

9 終了 を押して設定を終了します

■ 地上デジタル放送のケーブルテレビ（CATV）放送対応について

本機で地上デジタル放送が受信できるケーブルテレビの方式は、「CATV パススルー方式」です。（「トランスモジュレーション方式」には対応していません。）

CATV パススルー方式とは

- ケーブルテレビ配信局が地上デジタル放送を、内容はそのままで CATV 網に流す放送方式です。
  この方式では、地上デジタル放送が本来使っている UHF 帯のチャンネルとは異なる他のチャンネルに周波数を変換して再送信することがあります。

本機で受信できるのは次の周波数帯です。

- UHF 帯
- VHF 帯
- ミッドバンド（MID：C13 ～ C22）帯
- スーパーハイバンド（SHB：C23 ～ C63）帯

地上デジタル放送のチャンネル再編設定

■ 地上デジタル放送のチャンネル再編（変更）について

- 2011 年 7 月 24 日の地上アナログ放送終了にともない、地上デジタル放送のチャンネルが再編（変更）される地域があります。
  そのためこれらの地域では、チャンネルの再編に合わせてチャンネル設定を変更する必要があります。
- 本機は、「チャンネル更新設定」を「自動」に設定すると自動でチャンネル再編情報を取得し、再編開始日と再編開始日の翌日にチャンネルを自動で設定します。
- 通常は「自動」でご使用されることをおすすめします。

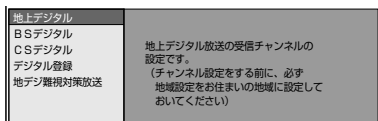
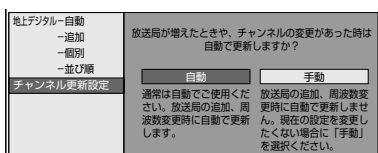
準備 テレビと本機の準備をします（→ **46** ページ手順 **4** ～ **5**）

1 ホームメニューから「設定」を選んで決定します（→ **55** ページ手順 **1** ～ **2**）

2 「視聴準備」－「チャンネル設定」を選んで決定します

3 「地上デジタル」を選んで決定します

地上デジタル
ＢＳデジタル
ＣＳデジタル
デジタル登録
地デジ難視対策放送

地上デジタル放送の受信チャンネルの設定です。
（チャンネル設定をする前に、必ず地域設定をお住まいの地域に設定しておいてください）

4 「チャンネル更新設定」を選んで決定します

5 「自動」を選んで決定します

で選び（決定）を押す

お知らせ

- チャンネル更新設定を「自動」に設定したとき
  - 設置直後に電源を切ったときは、約 5 分後に電源が入り再編情報を取得します。
  - チャンネル再編情報が更新されるたびに、本機の電源が入り再編情報を取得します。
  - 再編情報取得中は、本体表示部に「DL」が表示されます。
  - チャンネル再編当日と翌日に自動でチャンネルサーチを行いチャンネルを設定します。

地上デジタル放送の電子番組表データを受信する

お知らせ

- 「番組表取得設定」を「する」に設定し、設定した時刻に本機の電源が切のとき地上デジタル放送の電子番組表データを取得します。（地上デジタルは約 20 分、BS は約 2 時間かかります。）
- 地上デジタル放送の各チャンネルを選局している間も、選んでいる放送局からそのチャンネルの番組表データが送られてきます。
- 電波状態（受信状態）によっては、電子番組表のデータを取得できない場合があります。
- 番組表が表示されない場合、受信できていないチャンネルを番組表で選んで（青）を押しても番組表を受信できます。

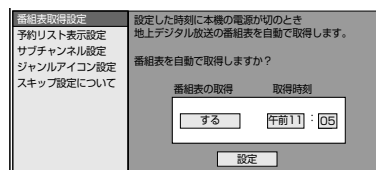
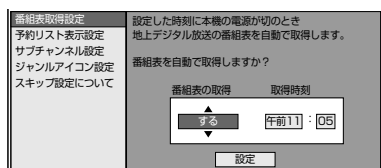
準備 テレビと本機の準備をします（→ **46** ページ手順 **4** ～ **5**）

1 リモコンの（地上D）を押し「地上デジタル放送」を選局します

2 ホームメニューから「設定」を選んで決定します（→ **55** ページ手順 **1** ～ **2**）

3 「機能切換」－「番組表設定」を選んで決定します

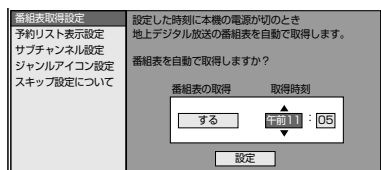
4 「番組表取得設定」を選んで決定します

次ページへつづく

5 「する」または「しない」を選んで決定します

「する」

- 設定した時刻に電源が切であれば電子番組表データを取得します。

「しない」

- 視聴している放送局の電子番組表データだけを取得します。

6 手順 5 で「する」にした場合、時刻を設定します

7 「設定」を選んで決定します

8 終了 を押して設定を終了します

9 本機の電源を切ります

⇒「する」に設定した場合、指定した時刻に番組表データを自動受信します。

- 番組表データ受信中は本体表示部に「EPG」の表示が出ます。（本機から動作音がします。）

EPG

工場出荷時の設定ではバックライトを消灯しています。

- 「電源オフ時計表示設定」（→ 2. 操作編 **222**ページ）が「する」に設定されているときはバックライトが点灯します。

⇒ 表示が消えるとデータ取得終了です。

- 電子番組表データを取得しおわると、本体内部の電源は自動的に切れます。（地上デジタルは約 20 分、BS は約 2 時間かかります。）

ヒント

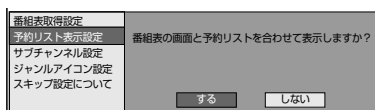
- 指定した時刻に電源が入っているとき（または番組表取得中に電源を入れたとき）は、番組表取得ができません。この場合、次に電源を切った後、自動的に番組表を取得します。

電子番組表の表示方式を切り換える

電子番組表の画面に予約リストを表示するかどうか設定できます。
電子番組表について詳しくは、 2. 操作編 **38** ～ **39** ページをご覧ください。

準備 テレビと本機の準備をします（→ 46 ページ手順 4 ～ 5）

1 67 ページ「地上デジタル放送の電子番組表データを受信する」の手順 1 ～ 3 を行います

2 「予約リスト表示設定」を選んで決定します

- 「サブチャンネル設定」「ジャンルアイコン設定」は、別冊の 2. 操作編 **221** ページをご覧ください。

3 「する」または「しない」を選んで決定します

4 終了 を押して設定を終了します

チャンネルの個別設定

登録された地上デジタル放送のチャンネルを確認し、登録先のリモコンの数字ボタンを変更したり、選局ボタンでの選局時にスキップするかどうか、あるいはチャンネルに４桁目（枝番）がある場合の設定を行います。

地上デジタル放送チャンネル（工場出荷時）

チャンネルボタン	放送局名	チャンネル番号
1	NHK 総合	011
2	NHK E テレ	021
3	―	―
4	日本テレビ	041
5	テレビ朝日	051
6	TBS	061
7	テレビ東京	071
8	フジテレビジョン	081
9	TOKYO MX	091
10	―	―
11	―	―
12	放送大学	121

※ 2012 年 4 月現在

準備 テレビと本機の準備をします
（→ **46** ページ手順 **4** 〜 **5**）

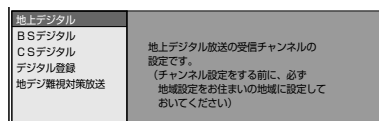
1 リモコンの 地上D を押し「地上デジタル放送」を選局します

2 ホームメニューから「 設定」を選んで決定します（→ **55** ページ手順 **1** 〜 **2**）

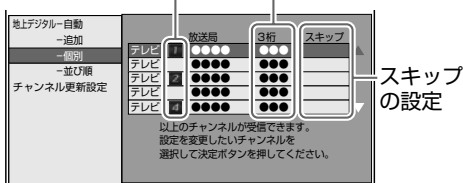
3 「視聴準備」−「チャンネル設定」を選んで決定します

4 「地上デジタル」を選んで決定します

地上デジタル
BSデジタル
CSデジタル
デジタル登録
地デジ難視対策放送

地上デジタル放送の受信チャンネルの設定です。
（チャンネル設定をする前に、必ず地域設定をお住まいの地域に設定しておいてください）

5 「地上デジタル−個別」を選んで決定します

リモコンの数字ボタン　3桁のチャンネル番号

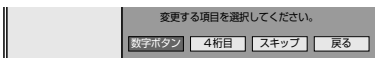
スキップの設定

- 確認だけの場合は 終了 を押して設定を終わってください。

6 変更したいチャンネルを選んで決定します

登録先の数字ボタン変更

ここで選んだチャンネルを、お好きなリモコン番号に割り当てることができます。

7 「数字ボタン」を選んで決定します

変更する項目を選択してください。
数字ボタン　4桁目　スキップ　戻る

- 「スキップ」を選んで決定した場合→「視聴しないチャンネルのスキップ設定」（→ **70** ページ）手順 **7** へ
- 「４桁目」を選んで決定した場合→「４桁目（枝番）の変更」（→ **70** ページ）手順 **7** へ

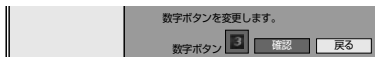
8 変更したい番号を数字ボタン（ 1 〜 12 ）で入力して決定します

- 他のチャンネルの数字ボタンと重複した場合は「数字ボタンが重複しています。数字ボタンを置き換えますか」画面が表示されます。置き換える場合は「確認」で決定してください。

9 「確認」を選んで決定します

⇒ 数字ボタンの登録内容が変更されます。

- 設定を終わる場合は 終了 を押します。

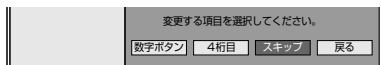
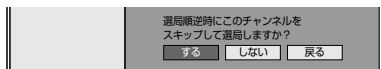
次ページへつづく

視聴しないチャンネルのスキップ設定

69 ページの手順 **6** で選んだチャンネルを、 での選局時にスキップさせることができます。

7 「スキップ」を選んで決定します

変更する項目を選択してください。
数字ボタン　4桁目　スキップ　戻る

8 「する」を選んで決定します

選局順逆時にこのチャンネルを
スキップして選局しますか？
する　しない　戻る

9 「番組表の表示時にも、このチャンネルをスキップしますか？」が表示されたら、「する」を選んで決定します

- スキップ設定した地上デジタル放送のチャンネルが、番組表に表示されなくなります。

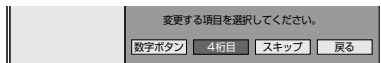
⇒ 放送チャンネル一覧表のスキップ欄に「する」が表示されます。

- 設定を終わる場合は終了を押します。

4 桁目（枝番）の変更

3 桁チャンネル番号が重複している場合は 4 桁目（枝番）を変えて区別ができます。

7 「4桁目」を選んで決定します

変更する項目を選択してください。
数字ボタン　4桁目　スキップ　戻る

8 変更する4桁目の数字を数字ボタン（1 ～ 10）で入力して決定します

4桁目の枝番

- 4 桁目（枝番）が重複した場合は「4 桁目（枝番）を置き換えますか」画面が表示されます。置き換える 4 桁目（枝番）を入力して決定してください。
- はじめから 4 桁目（枝番）が「0」になっている場合は変更できません。

9 「確認」を選んで決定します

⇒ チャンネルの 4 桁目が変更されます。

- 設定を終わる場合は終了を押します。

地上デジタル放送のチャンネル番号と枝番について

- 地上デジタル放送では、チャンネルボタン（1～12）のチャンネル番号のほかに、3 桁のチャンネル番号が付けられています。1 つの放送局が複数の番組を同時に放送する場合には、3 桁のチャンネル番号で区別することになります。
- 3 桁のチャンネル番号は、放送地域内（都府県、北海道は 7 地域）ではそれぞれ別番号になっています。したがって、通常は 3 桁で放送番組を特定できます。
ただし、本機をお使いになる地域によっては、隣接する地域の放送も同じチャンネル番号で受信できることがあります。この場合は、さらにもう 1 桁を入力して選局することになります。その 1 桁の番号を「4 桁目（枝番）」といいます。

チャンネルの追加

自動設定で登録した後に新たに開局した放送局を受信したい場合など、チャンネルを追加する場合の設定です。

1 69 ページ「チャンネルの個別設定」の手順 1 ～ 4 を行います

2 「地上デジタル－追加」を選んで決定します

3 「する」を選んで決定します

⇒ 追加設定が始まります。

• 追加設定が終わると以下の画面が表示されます。

4 「終了」で決定します

5 終了 を押して設定を終了します

リモコン番号とチャンネルの並び順変更

1 69 ページ「チャンネルの個別設定」の手順 1 ～ 4 を行います

2 「地上デジタル－並び順」を選んで決定します

3 「設定 1」「設定 2」のいずれかを選んで決定します

「設定 1」
- リモコン番号 ： 放送局推奨の番号。
- 並び順 ： 放送局推奨の並び順。

「設定 2」
- リモコン番号 ： 放送局推奨の番号。
- 並び順 ： リモコン番号の若い順。

⇒ リモコン番号と並び順が変わります。

4 終了 を押して設定を終了します

BS・110 度 CS デジタル放送のチャンネル設定

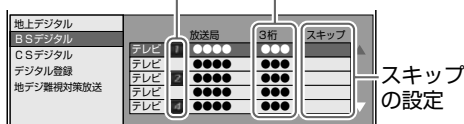
登録された放送のチャンネルを確認し、登録先のリモコンの数字ボタンを変更したり、選局ボタンでの選局時にスキップするかどうかの設定を行います。

- 工場出荷時、110 度 CS デジタル放送、データ放送（ラジオ放送）はリモコンの数字ボタンには登録されていません。

1 69 ページ「チャンネルの個別設定」の手順 1 ～ 3 を行います

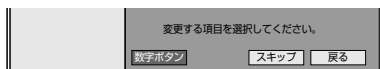
2 「BS デジタル」または「CS デジタル」を選んで決定します

リモコンの数字ボタン　3桁のチャンネル番号

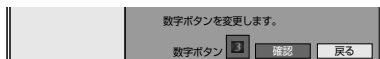
スキップの設定

- 確認だけの場合は 終了 を押して設定を終わってください。

3 変更したいチャンネルを選んで決定します

登録先の数字ボタン変更

4 「数字ボタン」を選んで決定します

5 変更したい番号を数字ボタン（1 ～ 12）で入力して決定します

- 他のチャンネルの数字ボタンと重複した場合は「数字ボタンが重複しています。置き換えますか？」の画面が表示されます。
置き換える場合は「確認」で決定してください。

6 「確認」を選んで決定します

⇒ 数字ボタンの登録内容が変更されます。

- 設定を終わる場合は 終了 を押します。

視聴しないチャンネルのスキップ設定

左記の手順 **3** で選んだチャンネルを、選局 での選局時にスキップさせることができます。

4 「スキップ」を選んで決定します

5 「する」を選んで決定します

6 「番組表の表示時にも、このチャンネルをスキップしますか？」が表示されたら、「する」を選んで決定します

- スキップ設定した BS・110 度 CS デジタル放送のチャンネルが、番組表に表示されなくなります。

⇒ 放送チャンネル一覧表のスキップ欄に「する」が表示されます。

- 設定を終わる場合は 終了 を押します。

地デジ難視対策放送チャンネルをすべてスキップさせたいとき

- 地デジ難視対策放送とは、電波状況が悪く、地上デジタル放送が受信できない地域への受信対策として、衛星を利用した再送信サービスです。一般の地域ではご利用できないサービス放送です。
- BS デジタル放送の番組表や、選局時にそのチャンネルをスキップさせたいときは、つぎの手順でスキップ設定を行ってください。

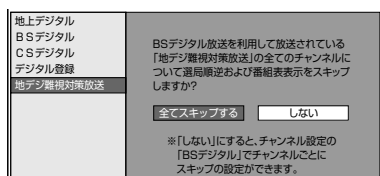
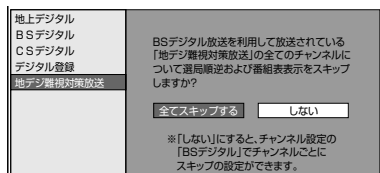
1 69 ページ「チャンネルの個別設定」の手順 1 ～ 3 を行います

2 「地デジ難視対策放送」を選んで決定します

地上デジタル
BSデジタル
CSデジタル
デジタル登録
地デジ難視対策放送

BSデジタル放送を利用して放送されている「地デジ難視対策放送」の全てのチャンネルについて選局順逆および番組表表示をスキップしますか?

全てスキップする　しない

※「しない」にすると、チャンネル設定の「BSデジタル」でチャンネルごとにスキップの設定ができます。

3 「全てスキップする」を選んで決定します

- 選局したときや、番組表を表示したときに「地デジ難視対策放送」のチャンネルがすべてスキップされます。

リモコンに登録されているチャンネルの確認

リモコンの数字ボタンに登録されているデジタル放送のチャンネルを確認できます。

準備 テレビと本機の準備をします（→ 46 ページ手順 4 ～ 5）

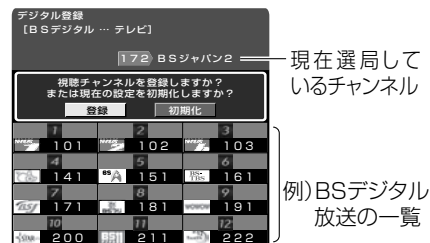
1 確認したい放送を選局します

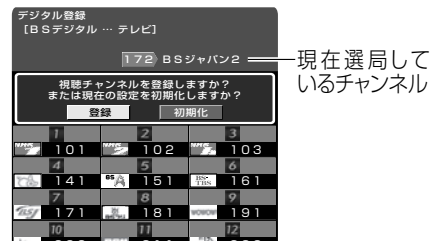
- 登録するときは、登録したいチャンネルを選局します。

2 ホームメニューから「設定」を選んで決定します（→ 55 ページ手順 1 ～ 2）

3 「視聴準備」－「チャンネル設定」を選んで決定します

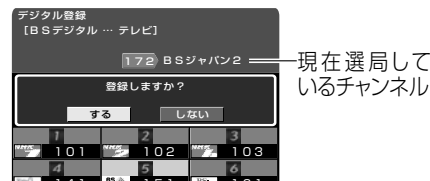
4 「デジタル登録」を選んで決定します

⇒ 登録されているチャンネルの一覧が表示されます。

- テレビ/ラジオ/データ/ポータル（ふた内）を押すと、放送の種類が切り換わります。
- 確認だけの場合は 終了 を押して設定を終わってください。

5 登録する場合は「登録」を選んで決定します

- 「初期化」を選んで決定すると、工場出荷時の設定に戻ります。

6 登録したいチャンネルボタンを選んで決定します

- 数字ボタン（ 1 ～ 12 ）を押すことによっても選択・決定できます。

例）「BS ジャパン 2」（172 チャンネル）を選局している場合で、そのチャンネルを 11 に登録するときはチャンネルボタン 11 を押します。

7 「する」を選んで決定します

8 終了 を押して設定を終了します

LAN の設定をする

- LAN 接続の方法、利用できるサービスは、**40** ページをご覧ください。
- LAN の設定方法は、次の４種類があります。
  - **有線 LAN 設定（簡単）**.... 有線 LAN を自動で設定します。
  - **有線 LAN 設定**.................. 有線 LAN を手動で設定します。
  - **無線 LAN 設定（簡単）**.... 無線 LAN を自動で設定します。
  - **無線 LAN 設定**.................. 無線 LAN を手動で設定します。
- 本機のアクセスポイント機能（→ **81** ページ）を使用する場合は、有線 LAN で接続、設定をしてください。
- DHCP サーバー機能のない（使用していない）モデムまたはルーターをお使いの場合は、本機の情報を入力します。設定の前に、次の情報がそろっているか、ご確認ください。確認後、メモ欄にメモしておくことをおすすめします。

	メ モ 欄
IP アドレス	
ネットマスク	
ゲートウェイ	
DNS のアドレス	プライマリ
	セカンダリ

またプロバイダの情報も必要です。設定の前に、次の情報がそろっているか、ご確認ください。

プロキシサーバーのアドレス

プロキシサーバーのポート番号

ご注意

- プロバイダとインターネット接続の契約をしていない場合は、LAN 接続での双方向サービスが楽しめません。
- アクトビラ、TSUTAYA TV、YouTube をお楽しみになるときはプロキシサーバーを設定しないでください。プロキシサーバーを通じてインターネットに接続する環境の場合、アクトビラ ビデオ、TSUTAYA TV、YouTube が視聴できない、一部の動作に制限が出ることがあります。

有線 LAN 設定（簡単）を行う

ご注意

- 「有線 LAN 設定（簡単）」で LAN 設定ができなかった場合は、手動で有線 LAN 設定を行ってください。（→ **75** ページ）

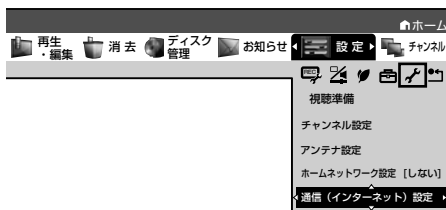
準備 ①**電源を切った状態で LAN ケーブルを接続します（→ 40 ページ）**

②**テレビと本機の準備をします（→ 46 ページ手順 4 〜 5）**

お知らせ

- 電源を入れた状態で LAN ケーブルを接続したときは、回線接続ができない場合があります。

1 ホームメニューから「設定」を選んで決定します（→ 55 ページ手順 1 〜 2）

2 「視聴準備」－「通信（インターネット）設定」を選んで決定します

3 「LAN 接続方法」－「有線」を選んで決定します

- 「有線」を選ぶと「無線」の設定変更はできません。

LAN接続方法
有線LAN設定（簡単）
有線LAN設定
無線LAN設定（簡単）
無線LAN設定
Wi-Fiコネクト
利用する接続方法を選択してください。
有線　無線
MACアドレス XX:XX:XX:XX:XX:XX　MACアドレス XX:XX:XX:XX:XX:XX

4 「有線 LAN 設定（簡単）」－「設定する」を選んで決定します

- 設定中は、「設定中です」の表示が点滅します。

LAN に接続するためのテストをする

5 設定内容を確認し、「テスト実行」を選んで決定します

- 「完了」を選ぶと設定は保存されますが、テストは行われません。

LAN 設定の内容を確認（再設定）する

6 テレビと本機の準備をします（→ **46** ページ手順 **4** ～ **5**）

7 手順 **1** ～ **2** を行います

8 「有線 LAN 設定（簡単)」を選んで決定します

9 手順 **4** ～ **5** を行い、再設定します

有線 LAN 設定を行う

1 **74** ページ「有線 LAN 設定（簡単）を行う」の準備、手順 **1** ～ **3** を行います

2 「有線 LAN 設定」－「変更する」を選んで決定します

IP アドレスを設定する

3 「する」または「しない」を選んで決定します

「する」

- IP アドレスを自動で取得します。（モデムまたはルーターの DHCP サーバー機能を利用します。）

「しない」

- 「IP アドレス」、「ネットマスク」、「ゲートウェイ」を、ソフトウェアキーボードを使って入力します。（入力方法は、 2. 操作編 **167** ページをご覧ください。）それぞれの欄の設定値は、ブロードバンドルーターの仕様を確認してください。

4 「次へ」で決定します

DNS の IP アドレスを設定する

5 「する」または「しない」を選んで決定します

「する」

- DNS の IP アドレスを自動で取得します。（モデムまたはルーターの DHCP サーバー機能を利用します。）

「しない」

- 「プライマリ」と「セカンダリ」の IP アドレスを、ソフトウェアキーボードを使って入力します。それぞれの欄の設定値は、ブロードバンドルーターの仕様を確認してください。

6 「次へ」で決定します

次ページへつづく

プロキシサーバーのアドレスを設定する

7 「する」または「しない」を選んで決定します

「する」
- プロバイダから指定されているプロキシサーバーの「アドレス（IPアドレス）」と「ポート（番号）」を、ソフトウェアキーボードを使って入力してください。

「しない」
- 次の手順に進みます。

8 「次へ」で決定します

詳細な設定をする

9 「する」または「しない」を選んで決定します

- 通常は「しない」に設定してください。

「する」　→　手順**10**へ
「しない」　→　手順**11**へ

LAN接続スピードを設定する

10 ①「自動検出」を選んで決定します

- 通常は設定の必要がありません。通信がうまくいかないときなどに、設定を変更して確認します。

②「次へ」で決定します

LANに接続するためのテストをする

11 設定内容を確認し、「テスト実行」を選んで決定します

- テスト実行は、IPアドレスを自動で取得する設定のときのみです。IPアドレスを自動で取得しない場合は、「テスト実行」は選べません。
- 「完了」を選ぶと設定は保存されますが、テストは行われません。

LAN設定の内容を確認（再設定）する

12 テレビと本機の準備をします（→**46**ページ手順**4**～**5**）

13 **74**ページ「有線LAN設定（簡単）を行う」の手順**1**～**2**を行います

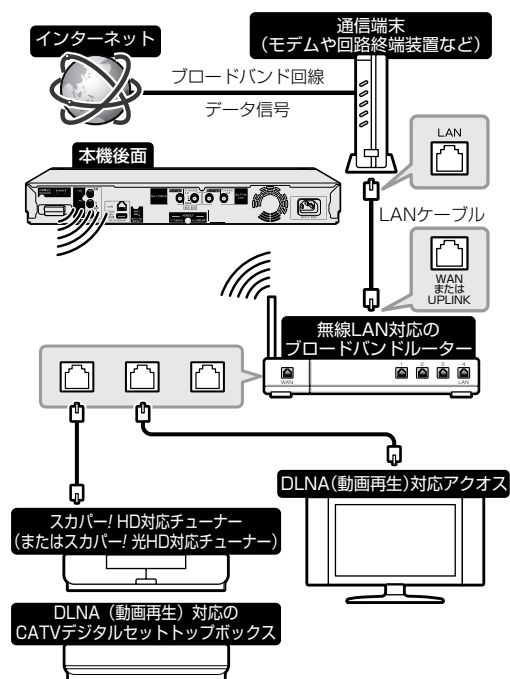
14 「有線LAN設定」を選んで決定します

ヒント
- 「初期化する」を選んで決定すると、LAN設定の内容が工場出荷時の状態に戻ります。

15 手順**2**～**11**を行い、再設定します

無線LAN設定の前に

- アクセスポイント機能（→**81**ページ）を使用する場合、本機のインターネット接続は、有線LANで行ってください。無線LANでインターネットに接続しているとき、本機のアクセスポイント機能は使用できません。
- 本機を無線でLANに接続するには、無線LAN対応のブロードバンドルーター（アクセスポイント）への接続設定が必要です。（無線LANで利用できるサービスは、**40**ページをご覧ください。）
- 無線LAN接続には本機と通信ができる無線LAN対応のブロードバンドルーター（市販品）が必要です。
  - 本機は、無線LAN高速化規格IEEE802.11n、および無線LAN規格IEEE802.11a/g/bに対応しています。（IEEE802.11nでの接続を推奨します。）
  - 対応チャンネル2.4GHz帯：1～13ch
対応チャンネル5GHz帯:36～48ch（W52）、52～64ch（W53）、100～140ch（W56）
  - 無線LANの接続方式について、詳しくはお使いの機器(ブロードバンドルーターなど)のメーカーにお問い合わせください。
  - 無線LANは、すべての住宅環境でワイヤレス接続、性能を保証するものではありません。
  - 無線LANは、距離や障害物の影響で伝送速度がさがったり、同一周波数を使う機器の影響でつながらないことがあります。
  - 本機は公衆LANへの接続には対応しておりません。通信端末認定品の市販ルーターなどを用いてLAN接続をしてください。

▼接続例（回線業者やプロバイダにより、必要な機器や接続方法が異なります。）

ご注意

- プロバイダとインターネット接続の契約をしていない場合は、LAN接続での双方向サービスが楽しめません。
- アクトビラ、TSUTAYA TV、YouTubeをお楽しみになるときはプロキシサーバーを設定しないでください。プロキシサーバーを通じてインターネットに接続する環境の場合、アクトビラ ビデオ、TSUTAYA TV、YouTubeが視聴できない、一部の動作に制限が出ることがあります。

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届いてしまいます。セキュリティに関する設定を行うことで、以下のようなことを防げます。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報、メールの内容等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）。
特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）。
傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）。
コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）。
本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。
お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用してください。

セキュリティ方式について

本機は、WEP、WPA-PSK（TKIP/AES）、WPA2-PSK（TKIP/AES）のセキュリティ方式に対応しています。お使いのブロードバンドルーターが対応しているセキュリティ方式をご確認のうえ、より強固なセキュリティ設定をされることを推奨します。

セキュリティ方式		説明
WEP		WEPキーと呼ばれる暗号化キーでデータを暗号化する方式です。
WPA-PSK	TKIP	それぞれに強力な暗号化の規格であるTKIPと、さらに強力な暗号化の規格であるAESがあります。
	AES	
WPA2-PSK	TKIP	
	AES	

次ページへつづく

セキュリティキー（暗号化キー）について

各セキュリティ方式を設定する際に、暗号化を行うための鍵であるセキュリティキー（暗号化キー）の入力が必要となります。お使いのブロードバンドルーターの取扱説明書をご確認のうえ、セキュリティキー（暗号化キー）を入力してください。

ご注意

- 本機ではセキュリティ設定を行わないと、無線 LAN でホームネットワークはご使用できません。

無線 LAN 設定（簡単）を行う

ルーターが WPS（Wi-Fi Protected Setup）に対応している場合、無線 LAN を自動で設定することができます。

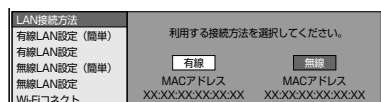
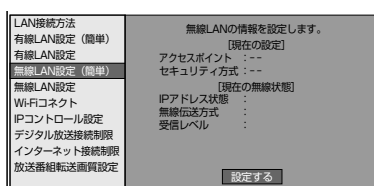
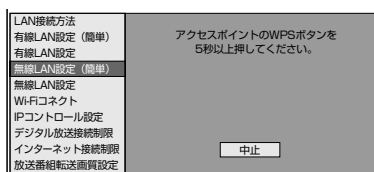
ご注意

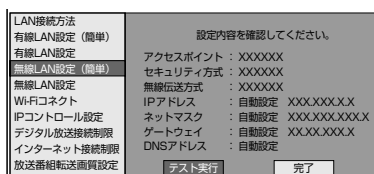
- ルーターが WPS（Wi-Fi Protected Setup）に対応していない場合、または「無線 LAN 設定（簡単）」で LAN 設定ができなかった場合は、手動で無線 LAN 設定を行ってください。（→**右記**）

1 ホームメニューから「 設定」を選んで決定します（→ **55** ページ手順 **1** ～ **2**）

2 「視聴準備」－「通信（インターネット）設定」を選んで決定します

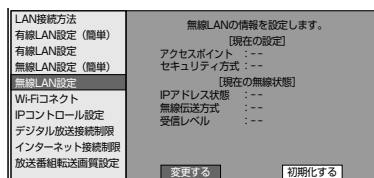
3 「LAN 接続方法」－「無線」を選んで決定します

- 「無線」を選ぶと「有線」の設定変更はできません。

4 「無線 LAN 設定（簡単）」－「設定する」を選んで決定します

5 利用するアクセスポイントの WPS ボタンを 5 秒以上押してください

- 設定中は、「設定中です」の表示が点滅します。

6 設定内容を確認し、「テスト実行」または「完了」を選んで決定します

- テストが完了すると手順 **4** に戻ります。設定を終わる場合は 終了 を押します。
- 「完了」を選ぶと設定は保存されますが、テストは行われません。

無線 LAN 設定を行う

1 「無線 LAN 設定（簡単）を行う」（左記）の手順 **1** ～ **3** を行います

2 「無線 LAN 設定」－「変更する」を選んで決定します

- 利用可能なアクセスポイントが表示されます。
- 「初期化する」を選んで決定すると、LAN 設定の内容が工場出荷時の状態に戻ります。

3 利用するアクセスポイントを選んで決定します

- 「その他」を選択したときは、アクセスポイント名をソフトウェアキーボードを使って入力し、「次へ」を選んで決定します。（入力方法は、2. 操作編 **167** ページをご覧ください。）

LAN接続方法
有線LAN設定（簡単）
有線LAN設定
無線LAN設定（簡単）
無線LAN設定
Wi-Fiコネクト
IPコントロール設定
デジタル放送接続制限
インターネット接続制限
放送番組転送画質設定
アクセスポイント名を入力してください。
アクセスポイント：
次へ

4 セキュリティ方式を選んで決定します

LAN接続方法
有線LAN設定（簡単）
有線LAN設定
無線LAN設定（簡単）
無線LAN設定
Wi-Fiコネクト
IPコントロール設定
デジタル放送接続制限
インターネット接続制限
セキュリティ方式を選択してください。
設定なし
WEP
WPA-PSK(AES)
WPA-PSK(TKIP)
WPA2-PSK(AES)
WPA2-PSK(TKIP)

- 「設定なし」を選んだ場合、ホームネットワーク機能（→ **86** ページ）は使用できません。

5 セキュリティキーを入力し、「次へ」で決定します

- セキュリティキーについては、お使いのルーターの取扱説明書をご覧ください。

6 「テスト実行」を選んで決定します

- アクセスポイントに接続できない場合は、手順 **2** に戻ります。
  お使いのルーターの接続状況をご確認ください。

7 IPアドレス設定、DNSのIPアドレス設定、プロキシサーバーのアドレス設定を行います。

- **75** ページ「有線LAN設定を行う」手順 **3** ～ **7** の操作を行い、設定してください。

8 設定内容を確認し、「テスト実行」または「完了」を選んで決定します

- テスト実行は、IPアドレスを自動で取得する設定のときのみです。IPアドレスを自動で取得しない場合は、「テスト実行」は選べません。
- テストが完了すると手順 **2** に戻ります。設定を終わる場合は 終了 を押します。
- 「完了」を選ぶと設定は保存されますが、テストは行われません。

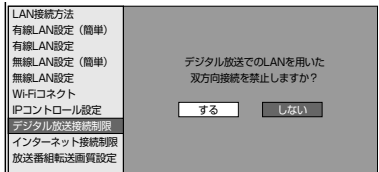
確認
接続・準備
初期設定
設定
困ったときは

LAN通信を制限する

デジタル放送の双方向サービスのLAN接続、アクトビラ／TSUTAYA TV／YouTubeへのインターネット接続をそれぞれ制限することができます。

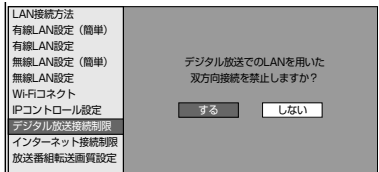
1 ホームメニューから「設定」を選んで決定します（→ **55**ページ手順**1**～**2**）

2 「視聴準備」－「通信（インターネット）設定」を選んで決定します

3 「デジタル放送接続制限」または「インターネット接続制限」を選んで決定します

デジタル放送接続制限	デジタル放送の双方向サービスの接続の制限
インターネット接続制限	アクトビラ／TSUTAYA TV／YouTubeへの接続の制限

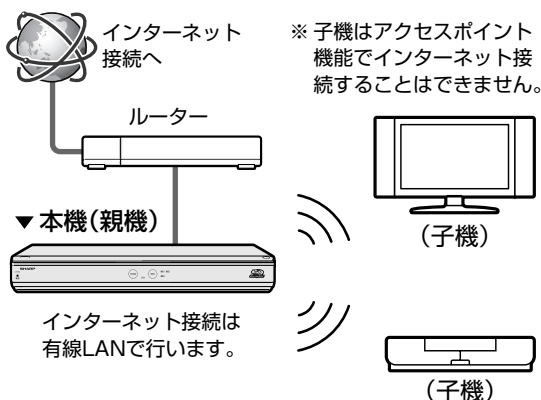
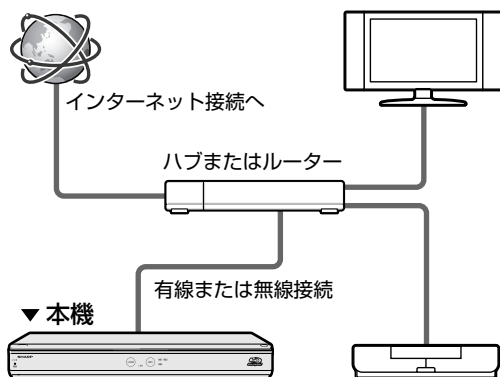
4 4桁の暗証番号（→ 2. 操作編 **226**ページ）を 1 ～ 10 を押して入力します

5 「する」を選んで決定します

例：デジタル放送接続制限の場合

6 終了を押して設定を終了します

アクセスポイント機能を利用する

本機は、アクセスポイント機能（Wi-Fi コネクト機能）を搭載しており、無線 LAN の親機となることができます。ホームネットワーク機器を子機として接続し、ホームネットワークで視聴、録画を楽しむことができます。

アクセスポイント機能を利用する接続

アクセスポイント機能を使用しない接続

ご注意

- アクセスポイント機能を使用する場合、本機のインターネット接続は、有線 LAN で行ってください（→ **74** ページ）。無線 LAN でインターネットに接続しているとき、本機のアクセスポイント機能は使用できません。
- 本機は公衆 LAN への接続には対応しておりません。通信端末認定品の市販ルーターなどを用いて LAN 接続してください。

Wi-Fi コネクトを設定する

準備 テレビと本機の準備をします（→ **46** ページ手順 **4** ～ **5**）

1 ホームメニューから「設定」を選んで決定します（→ **55** ページ手順 **1** ～ **2**）

2 「ホームネットワーク設定」が「する」に設定されているか確認します

- 「しない」に設定されているときは、「ホームネットワーク設定」を選び「する」に設定します。設定については、**86** ページをご覧ください。

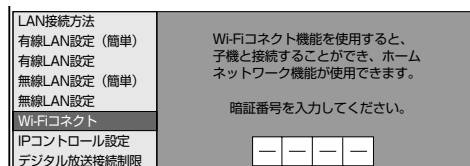
3 「視聴準備」－「通信（インターネット）設定」を選んで決定します

4 「LAN 接続方法」－「有線」を選んで決定します

※本機の Wi-Fi コネクト機能を使用する場合「有線」を選択してください。

※ホームネットワーク機能をご使用になる場合、無線では電波干渉や障害物等の影響を受け録画等が不安定になることがあります。このような場合は有線で接続してください。

5 「Wi-Fi コネクト」を選んで決定します

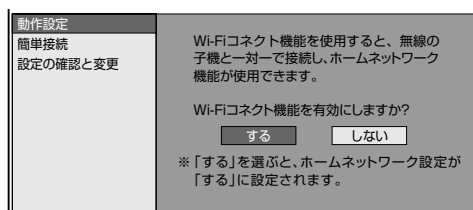
次ページへつづく

6 4桁の暗証番号（→ 2. 操作編 **226** ページ）を 1 ～ 10 を押して入力します

- 暗証番号が未設定の場合は、画面の表示にしたがって設定します。

Wi-Fi コネクトを有効にする

ご注意

- Wi-Fi コネクト機能を有効にした場合は、本機を無線 LAN の子機としてネットワークに接続できなくなります。

7 「動作設定」－「する」を選んで決定します

子機を接続する

ご注意

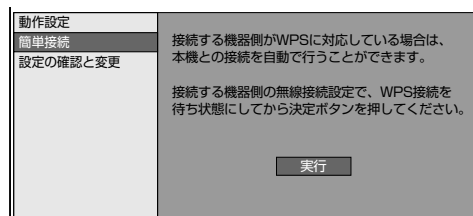
- 子機が WPS（Wi-Fi Protected Setup）に対応している場合の接続方法です。WPS に対応していない場合の接続方法は、子機の取扱説明書をご覧ください。

簡単接続で接続する

1 ① **81** ページ「Wi-Fi コネクトを設定する」の手順 **1** ～ **3** を行います

② 「Wi-Fi コネクト」を選んで決定します

③ 4 桁の暗証番号を入力します

2 「簡単接続」を選んで決定します

3 利用する子機の WPS 機能を有効にします

- 詳しくは子機の取扱説明書をご覧ください。

4 「実行」で決定します

- 設定中は「設定中です」の表示が点滅します。

5 終了 を押して設定を終了します

本機の設定が完了しました。
子機からの接続を確認してください。

- メッセージは数秒で消えます。

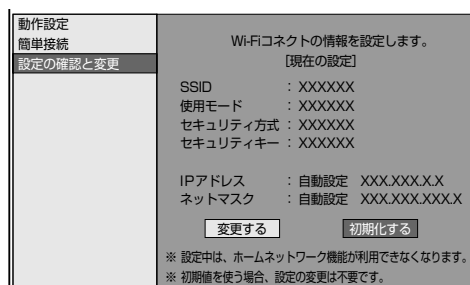
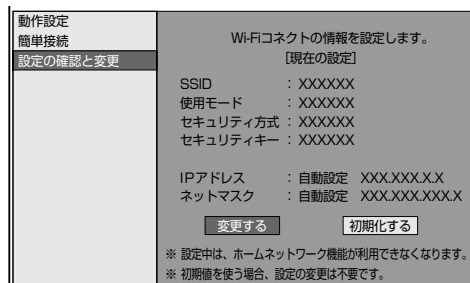
Wi-Fi コネクトの情報を設定する

SSID、セキュリティ方式など各種設定を変更する場合は次の設定を行ってください。

1 ① **81** ページ「Wi-Fi コネクトを設定する」の手順 **1** ～ **3** を行います

② 「Wi-Fi コネクト」を選んで決定します

③ 4 桁の暗証番号を入力します

2 「設定の確認と変更」を選んで決定します

3 「変更する」を選んで決定します

- 「初期化する」を選んで決定すると、Wi-Fi コネクト設定が工場出荷時の状態に戻ります。

4 使用するモードを選び、「次へ」を選んで決定します

- SSID は変更できます。変更する場合は、1 文字以上 32 文字以内で入力します。
- ネットワークアダプタと接続する際には「高品位モード (5GHz)」を推奨します。

ご注意

- スマートフォン等の 2.4GHz のみ対応している機器と接続するときは、「通常モード (2.4GHz)」に変更してお使いください。

5 セキュリティ方式を選んで決定します

- 「設定なし」を選んで決定した場合→手順 **7** へ
- セキュリティ方式は WPA2-PSK（AES）を推奨します。
  お使いの子機がこの方式に対応している場合は、WPA2-PSK（AES）を選択してください。

6 ① 入力形式を選んで決定します

- 入力形式はセキュリティ方式により選択項目が異なります。

セキュリティ方式		入力形式
WPA-PSK	TKIP	「8 ～ 63 文字の英数」、「64 桁の 16 進数」
	AES	
WPA2-PSK	TKIP	
	AES	

- セキュリティキーは変更できます。変更する場合は、入力形式に応じた文字数を入力します。

②「次へ」で決定します

7 ①「する」を選んで決定します

②「次へ」で決定します

8 設定内容を確認し、「確認」で決定します

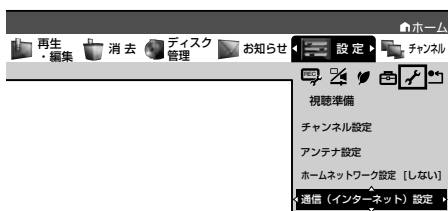
パソコンから本機をコントロールする（IP コントロール）

IP コントロールとは、パソコンなどから LAN 経由で本機をリモートコントロールする機能です。
- IP コントロール機能を使用するときは、あらかじめ LAN 接続と LAN 設定を行ってください。（→ **40**、**74** ～ **83** ページ）
- IP コントロールは、パソコン（PC）に使いなれたかたのご利用をお願いいたします。

IP コントロールを設定する

1 ホームメニューから「設定」を選んで決定します（→ **55** ページ手順 **1** ～ **2**）

2 「視聴準備」－「通信（インターネット）設定」を選んで決定します

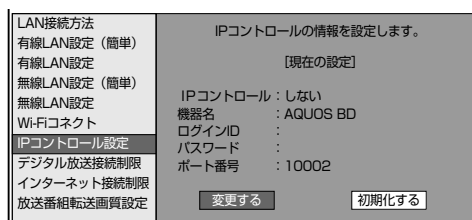
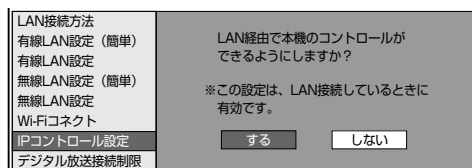
で選び 決定 を押す

3 「IP コントロール設定」－「変更する」を選んで決定します

LAN接続方法
有線LAN設定（簡単）
有線LAN設定
無線LAN設定（簡単）
無線LAN設定
Wi-Fiコネクト
IPコントロール設定
デジタル放送接続制限
インターネット接続制限
放送番組転送画質設定

IPコントロールの情報を設定します。
［現在の設定］
IPコントロール：しない
機器名　：AQUOS BD
ログインID　：
パスワード　：
ポート番号　：10002
変更する　初期化する

4 「する」を選んで決定します

LAN接続方法
有線LAN設定（簡単）
有線LAN設定
無線LAN設定（簡単）
無線LAN設定
Wi-Fiコネクト
IPコントロール設定
デジタル放送接続制限

LAN経由で本機のコントロールができるようにしますか？
※この設定は、LAN接続しているときに有効です。
する　しない

5 必要な情報を入力します

- 各項目はソフトウェアキーボードを使って入力します。（入力方法は、2. 操作編 **167** ページをご覧ください。）

設定項目	内容	初期値
機器名	本機の名称を英数字で入力します（最大 12 文字）。お好みの名前に変更できます。	AQUOS BD
ログイン ID	本機にアクセスするときのログイン ID を英数字（最大 8 文字）で入力します。	－
パスワード	本機にアクセスするときのパスワードを英数字（最大 8 文字）で入力します。	－
ポート番号	使用するポート番号を入力します。 1025 ～ 65535 の範囲で設定できます。	10002

- 「機器名」は、ターミナルソフトなどを使い接続する際に必要となる場合があります。
- 「ログイン ID」、「パスワード」は、ターミナルソフトなどで接続する際に必要となります。
- 「ポート番号」は、ターミナルソフトなどに入力する値を設定してください。

6 「完了」で決定します

● **IP コントロール情報を初期化したいときは**

(1) 手順 **3** で「初期化する」を選び 決定 を押します。

(2)「する」を選んで 決定 を押します。
- IP コントロール情報が初期化されます。

7 終了 を押して設定を終了します

パソコンからコントロールする

パソコンのターミナルソフトで本機に制御コマンドを送信し、本機をコントロールすることができます。

■ 通信のしかた

- パソコンから LAN ケーブルを通じてコマンド、パラメータ、リターンコードの順に送ってください。
- 本機がコマンドを処理すると、パソコンにレスポンスコードを送ります。

ご注意

- 複数のコマンドを連続して送信しないでください。連続してコマンドを送る場合は、本機からのレスポンスコードを受信してから、次のコマンドを送ってください。

コマンド（パソコンから本機へ）

C1 C2 C3 C4 P1 P2 P3 P4 ⏎

コマンドの４桁　パラメータの４桁　リターンコード（ODH）

レスポンス（本機からパソコンへ）

■ コマンド一覧

例：本機の電源を入れる場合

機能	コマンド				パラメータ※1			
電源入※2	P	O	W	R	1	_	_	_
電源切	P	O	W	R	0	_	_	_
再生	D	P	L	Y	_	_	_	_
停止	D	S	T	P	_	_	_	_
早送り	D	F	W	D	_	_	_	_
早戻し	D	R	E	V	_	_	_	_
頭出し（前）	D	S	K	B	_	_	_	_
頭出し（後）	D	S	K	F	_	_	_	_
一時停止	D	P	U	S	_	_	_	_

※１ パラメータの「__」はスペースを入力します。

※２「電源入」はクイック起動待機状態のときに受け付けます。

スマートフォンからコントロールする

シャープ製スマートフォンで本機に制御コマンドを送信し、本機をコントロールすることができます。

お知らせ

- スマートフォンでコントロールするには、新たにアプリケーションソフトをインストールする必要があります。アプリケーションソフトについて詳しくは、シャープサポートホームページ（http://www.sharp.co.jp/support/av/dvd/)でご確認ください。

ホームネットワークを設定する

- 初期設定でホームネットワーク設定を行ったときは設定の必要はありません。
- 本機の Wi-Fi コネクト機能を有効にした場合は設定の必要はありません。

ご注意

- LAN 接続でホームネットワークを利用する場合は、LAN 接続と LAN 設定が必要です。
  - LAN 接続（→ **40** ページ）
  - LAN 設定
    - 有線 LAN 設定（簡単）（→ **74** ページ）
    - 有線 LAN 設定（→ **75** ページ）
    - 無線 LAN 設定（簡単）（→ **78** ページ）
    - 無線 LAN 設定（→ **78** ページ）
- 本機のアクセスポイント機能を利用する場合は、Wi-Fi コネクトの設定（→ **81** ページ）が必要です。
- 本機を無線 LAN でネットワークに接続している場合、無線 LAN のセキュリティ方式を「設定なし」（→ **79** ページ）にするとホームネットワーク機能は使用できません。

準備 テレビと本機の準備をします（→ **46** ページ手順 **4** ～ **5**）

1 ホームメニューから「設定」を選んで決定します（→ **55** ページ手順 **1** ～ **2**）

2 「視聴準備」－「ホームネットワーク設定」を選んで決定します

3 「する」を選んで決定します

ホームネットワーク（LAN接続）により、他の機器からの本機への録画や、AQUOSなど他の機器で本機の再生ができるようにしますか？

※この設定は、LAN接続しているときに有効です。

する　しない

接続先の機器側でも設定が必要な場合があります。

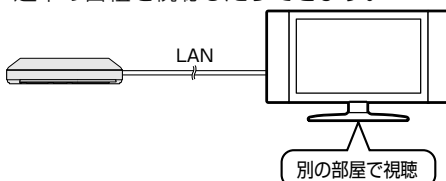
4 終了 を押して設定を終了します

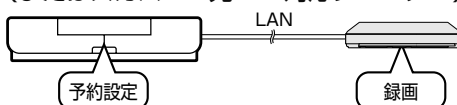
5 接続先の設定をします

- DLNA に対応したアクオスと接続したとき、接続機器として本機を登録します。
- LAN 接続のスカパー！HD 対応チューナーや DLNA 対応のケーブルテレビ（CATV）デジタルセットトップボックスと接続したとき、録画機器として本機を登録します。
- 接続先の機器の設定については、お使いの製品の取扱説明書をご覧ください。

ホームネットワークで楽しめること

■ 別の部屋のテレビで視聴

- DLNA（動画再生）対応のシャープ製液晶テレビ「アクオス」と LAN 接続し、別の部屋で HDD（内蔵／スロットイン）のタイトルを再生したり、放送中の番組を視聴したりできます。

■ スカパー！HD 対応チューナーから録画（「スカパー！HD 録画」）

LAN 接続のスカパー！HD 対応チューナー
（またはスカパー！光 HD 対応チューナー）

■ DLNA 対応のケーブルテレビ（CATV）デジタルセットトップボックスから録画（LAN 録画）

お知らせ

- ホームネットワークのみを利用するときは、プロバイダ契約は不要です。
- DLNA（動画再生）対応テレビやスカパー！HD 対応チューナー（または、スカパー！光 HD 対応チューナー）、DLNA 対応のケーブルテレビ（CATV）デジタルセットトップボックスと本機を直接 LAN 接続するときは、LAN ケーブルクロスタイプのご使用をおすすめします。

ネットワークアダプター（別売品）について

- 別売のネットワークアダプター「VR-NP1」をご使用になりますと、DLNA（ホームネットワーク）に対応していない HDMI 端子付きテレビでもホームネットワーク機能が楽しめます。

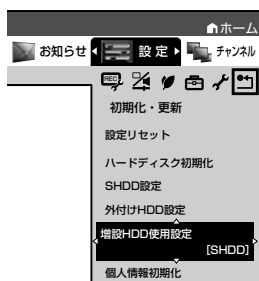
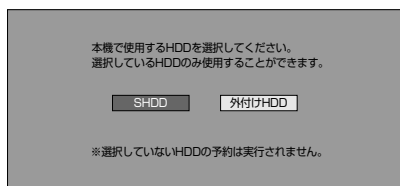
SHDD（スロットインハードディスク）の設定をする

本機は別売品のSHDD（スロットインハードディスク）を挿入し、番組を録画することができます。

使用する増設HDDを設定する

AQUOSブルーレイ専用SHDD（スロットインハードディスク）と外付けHDD（市販品）の両方をお持ちの場合、どちらを使用するかを設定します。（本機はSHDDと外付けHDDを同時に使用できません。）

1 ホームメニューから「設定」を選んで決定します（→ **55** ページ手順 **1** ～ **2**）

2 「初期化・更新」－「増設HDD使用設定」を選んで決定します

3 「SHDD」または「外付けHDD」を選んで決定します

「SHDD」：AQUOSブルーレイ専用SHDDを使用するときに選択します。

「外付けHDD」：外付けHDDを使用するときに選択します。

- 「SHDD」への予約がある状態で「外付けHDD」に設定を変更した場合など、予約がある増設HDDとは別の増設HDDを選んだときは予約が実行されなくなるため、確認画面が表示されます。

4 設定変更画面が表示されます

- 設定が完了すると画面が消えます。

SHDD（スロットインハードディスク）を登録する

未使用のSHDD（スロットインハードディスク）を本機に挿入すると自動的に登録が始まります。

重 要

- 他機で登録したSHDD（スロットインハードディスク）は本機に登録できません。登録した機器で登録解除を行ってから、本機に挿入してください。

ご注意

- 本機に登録できるSHDD(スロットインハードディスク)は16台までです。

準備

① 電源を切った状態で未使用のSHDD（スロットインハードディスク)を挿入します(→ **35** ページ)

② テレビと本機の準備をします（→ **46** ページ手順 **4** ～ **5**）

1 自動的に登録が開始します

SHDD1へSHDDの登録が
完了しました。

お知らせ

- 本機がSHDD(スロットインハードディスク)を認識しない場合は、SHDDを入れ直してください。

●メッセージが表示されて登録できないときは

SHDDが他のレコーダーに登録済みです。
登録しているレコーダーで解除をしてから
本機で使用してください。

- 登録した機器で登録解除を行ってから、SHDD（スロットインハードディスク）を本機に挿入してください。

既に16台のSHDDが登録されている
ためこれ以上のSHDDの登録はでき
ません。本体のスイッチを「解除」側に
し、取り出しの操作を行った後不要な
SHDDの登録解除を実行してください。

- 本機に登録したSHDD（スロットインハードディスク）のうち、使用しないSHDDの登録解除を行ってから、未使用のSHDDを本機に挿入してください。

重 要

- SHDD（スロットインハードディスク）の登録を解除すると、すべてのタイトルが消去されます。消去されたタイトルを元に戻すことはできません。

SHDD（スロットインハードディスク）の登録を解除する

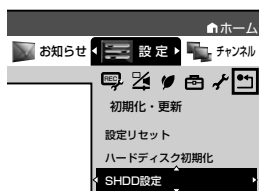
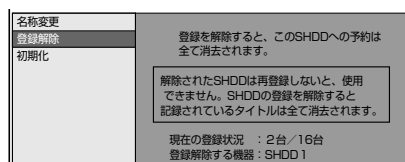
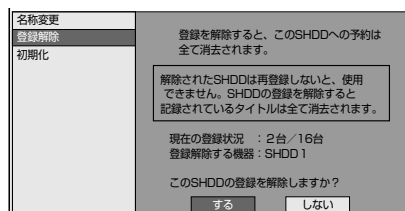
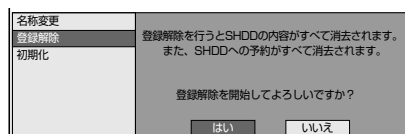
重 要

- 登録を解除したSHDD（スロットインハードディスク）は、本機からの録画、再生の操作ができなくなります。
- 登録を解除したSHDD（スロットインハードディスク）は、再度登録をすれば使用できます。ただし、登録解除時にハードディスク内が初期化され、すべてのタイトル、予約情報が消去されます。

1 SHDD（スロットインハードディスク）を挿入します（→ **35** ページ）

2 ホームメニューから「設定」を選んで決定します（→ **55** ページ手順 **1** ～ **2**）

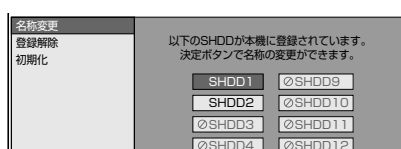
3 「初期化・更新」－「増設HDD使用設定」で「SHDD」を選んで決定します（→ **87** ページ）

4 「SHDD設定」を選んで決定します

5 「登録解除」を選んで決定します

6 「する」を選んで決定します

7 「はい」を選んで決定します

8 終了 ○ を押して設定を終了します

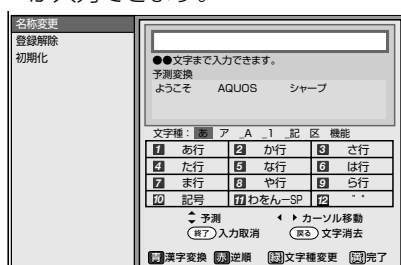
SHDD（スロットインハードディスク）の登録名称を変更する

本機に登録したSHDD（スロットインハードディスク）の登録名称を、ご自分がわかりやすい名前に変更できます。

1 「SHDD（スロットインハードディスク）の登録を解除する」の手順 **1** ～ **4** を行います（→**左記**）

2 「名称変更」を選んで決定します

3 名称を変更するSHDD（スロットインハードディスク）を選んで決定します

4 登録名称を入力します

- 最大で全角8文字、半角16文字の登録名称が入力できます。

(1) 文字を入力します（→ 2. 操作編 **167** ページ）

(2) 入力が終了したら 黄 （完了）を押します

5 終了 ○ を押して設定を終了します

SHDD（スロットインハードディスク）を初期化する

初期化のしかたについては 2. 操作編 **28** ページをご覧ください。

SHDD（スロットインハードディスク）を取り出す

取り出し方については **35** ページをご覧ください。

外付け HDD（ハードディスク）の設定をする

本機は市販の外付け HDD（ハードディスク）を接続し、番組を録画することができます。

外付け HDD（ハードディスク）を登録する

重 要

- 外付け HDD（ハードディスク）の登録を行うと、外付け HDD が初期化されます。

ご注意

- 本機に登録できる外付け HDD（ハードディスク）は 8 台までです。
- 本機に接続できる外付け HDD（ハードディスク）は、1 台だけです。USB ハブなどを使用して、複数の外付け HDD を同時に接続した場合、本機は外付け HDD を認識できません。
- 本機に接続できる外付け HDD（ハードディスク）は、セルフパワータイプの HDD です。バスパワータイプの HDD には対応していません。

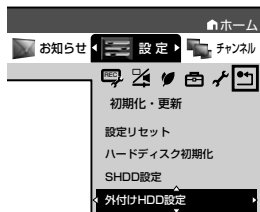
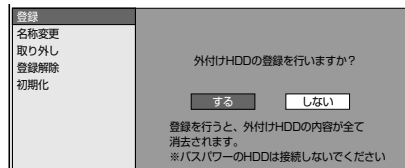
お知らせ

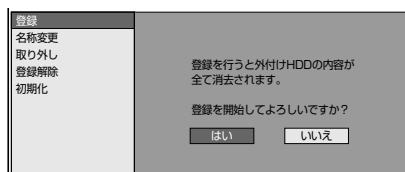
- 動作確認済みの外付け HDD（ハードディスク）の機種については、シャープサポートホームページ（http://www.sharp.co.jp/support/av/dvd/）でご確認ください。

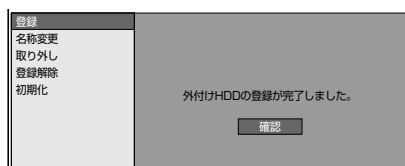
準備
① 電源を切った状態で外付け HDD を接続します（→ 36 ページ）
② テレビと本機の準備をします（→ 46 ページ手順 4 ～ 5）

1 ホームメニューから「設定」を選んで決定します（→ 55 ページ手順 1 ～ 2）

2 「初期化・更新」－「増設 HDD 使用設定」で「外付け HDD」を選んで決定します（→ 87 ページ）

3 「外付け HDD 設定」を選んで決定します

4 「登録」－「する」を選んで決定します

- 本機が外付け HDD（ハードディスク）を認識しない場合は、本機の電源を切り、ケーブルの接続を確認してください。

5 「はい」を選んで決定します

- 登録設定中は、「登録中」の表示が点滅します。

6 「確認」で決定します

7 終了 を押して設定を終了します

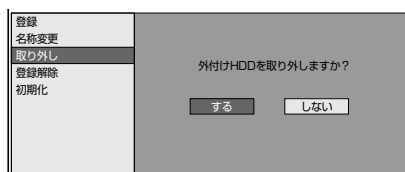
外付け HDD（ハードディスク）を取り外す

別の外付け HDD（ハードディスク）を登録する場合は、現在接続している外付け HDD を取り外します。

重 要

- 外付け HDD（ハードディスク）を取り外す場合は、必ず外付け HDD の取り外しの作業を行ってください。取り外し操作をせずに取り外した場合はタイトルが消失することがあります。

1 左記「外付け HDD（ハードディスク）を登録する」の手順 1 ～ 3 を行います

2 「取り外し」－「する」を選んで決定します

- 取り外し設定中は、「取り外し中」の表示が点滅します。
- 設定が完了すると「外付け HDD を取り外しました。」が表示されます。

3 終了 を押して設定を終了します

4 外付け HDD を取り外します

外付け HDD（ハードディスク）の登録を解除する

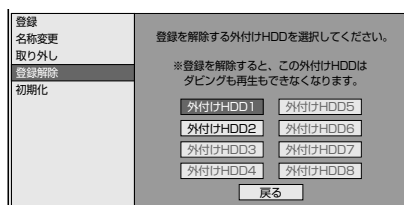
重 要

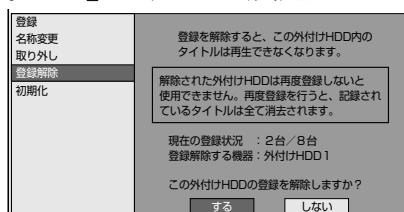
- 登録を解除した外付け HDD（ハードディスク）は、本機からの録画、再生の操作ができなくなります。
- 登録を解除した外付け HDD（ハードディスク）は、再度登録をすれば使用できます。ただし、再登録時に HDD が初期化され、すべてのタイトルが消去されます。

お知らせ

- 外付け HDD（ハードディスク）の登録解除は、本機に外付け HDD が接続されていない状態でも行うことができます。

1 89 ページ「外付け HDD（ハードディスク）を登録する」の手順 **1** ～ **3** を行います

2 「登録解除」を選んで決定します

3 登録を解除する外付け HDD を選んで決定します

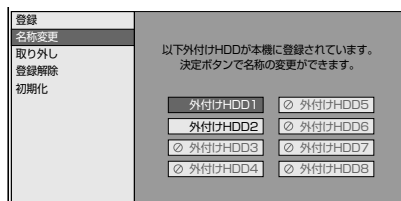
4 「する」を選んで決定します

- 登録解除中は、「登録解除中」の表示が点滅します。
- 登録解除が完了すると手順 **2** に戻ります。

5 終了 を押して設定を終了します

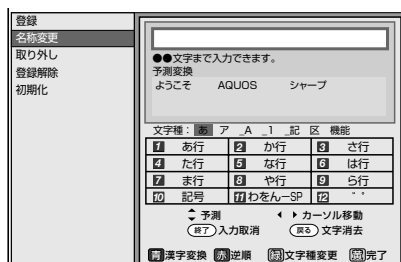
外付け HDD（ハードディスク）の登録名称を変更する

本機に登録した外付け HDD（ハードディスク）の登録名称を、ご自分がわかりやすい名前に変更できます。

1 89 ページ「外付け HDD（ハードディスク）を登録する」の準備、手順 **1** ～ **3** を行います

2 「名称変更」を選んで決定します

3 名称を変更する外付け HDD を選んで決定します

4 登録名称を入力します

- 最大で全角 8 文字、半角 16 文字の登録名称が入力できます。

(1) 文字を入力します（→ 2. 操作編 **167** ページ）

(2) 入力が終了したら 黄（完了）を押します

5 終了 を押して設定を終了します

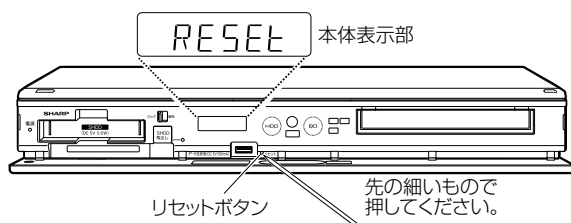
外付け HDD（ハードディスク）を初期化する

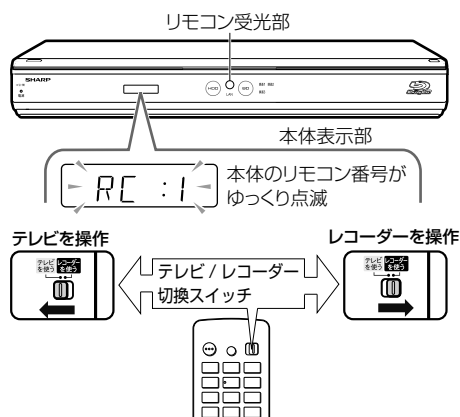
初期化のしかたについては 2. 操作編 **28** ページをご覧ください。

故障かな？と思ったら

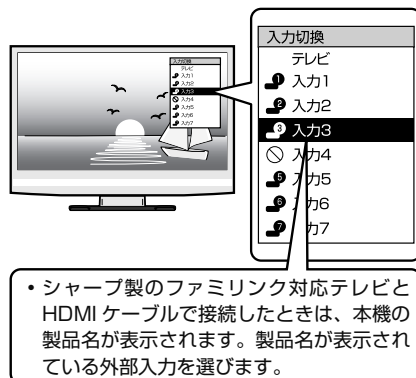
次のような現象は故障ではない場合がありますので、修理をお申しつけになる前にお確かめください。

操作ができない（電源が入らない）ときは、まず次のことをお確かめください

- 電源プラグはコンセントから抜けていませんか？→ **43** ページ
- リセットボタンを押して電源を入れなおしてください。
  → **92** ページ

リモコンで操作ができないときは、まず次のことをお確かめください

- リモコンの乾電池は消耗していませんか？／リモコンの乾電池は正しくセットされていますか？→ **19** ページ
- リモコンの操作範囲内で操作していますか？ / 向きは正しいですか？
  → **19** ページ
- リモコン番号は正しく設定されていますか？→ **60** ページ
  本体とリモコンのリモコン番号設定が違っているときは、本体表示部に本体側のリモコン番号が点滅表示されます。リモコン側のリモコン番号設定を本体側のリモコン番号に合わせます。
- テレビ / レコーダー切換スイッチの位置は正しいですか？
  → 2. 操作編 **32** ページ
  操作したいほうに確実に切り換えてご使用ください。
- テレビの入力切換（外部入力）は正しく切り換えましたか？
  → **46** ページ手順 **5**
  テレビの入力を本機を接続した外部入力に切り換えてください。

初期設定画面が表示されないとき（映像や音声が出ないとき）は、まず次のことをお確かめください

- アンテナや映像・音声ケーブルは正しく接続されていますか？
  入力と出力を間違えて接続していませんか？
  → **21** ～ **28** ページ
- テレビの入力切換（外部入力）は正しく切り換えましたか？
  → **46** ページ手順 **5**
  テレビの入力を本機を接続した外部入力に切り換えてください。
- テレビの入力スキップが設定されていませんか？
  本機を接続した入力がスキップ設定されていないか確認してください。
- 電源を入れた状態で HDMI ケーブルを抜き差ししていませんか？
  電源を切ってから、本機とテレビの HDMI ケーブルを接続し直し、電源を入れてください。
- HDMI ケーブルは本機の HDMI テレビ（音声 / 映像）出力端子に接続されていますか？
  → **32** ページ
  HDMI アンプ（音声のみ）出力端子からは映像信号が出力されません。

- シャープ製のファミリンク対応テレビと HDMI ケーブルで接続したときは、本機の製品名が表示されます。製品名が表示されている外部入力を選びます。

それでも操作できないときは、**92** ～ **96** ページをご覧ください。

	こんなときは	ここを確かめてください	ページ
操作ができない	極端に寒い場所でお使いのとき	• 使用温度範囲内でお使いですか。 極端に寒い場所で本機を使用するときは、HDD(ハードディスク)保護のため(暖機のため)HDDの準備が必要です。電源を入れてから使用できるまで、時間がかかりますのでしばらくお待ちください。	2. 操作編 273
	操作の途中で画面が止まり、操作ボタンを受けつけない	• 一度電源を「切」にし、再度電源を入れ直してください。 • 電源が切れない、または症状が改善しない場合は、本体のリセットボタンを先の細いもので押してください。本体表示部に「RESEt」が表示されます。 リセットのしかた RESEt 本体表示部 リセットボタン 先の細いもので押してください。 リセットボタンを押すと電源が「切」になります。電源を入れ直してください。 ※ リセットしても、録画したタイトルや予約情報などはそのまま保存されています。ただし、録画途中や保存前の情報は、残らない場合があります。 • 本体のリセットボタンを押しても改善されない場合は、電源を「切」にします。その後、電源プラグをコンセントから抜き、再度差し込んでください。 • 電源を入れるとシステムの確認のため「電源プラグの抜き差しやリセット操作などによりディスクを確認しています。完了まで 10 分以上かかる場合があります。」のメッセージが表示されることがあります。このようなときは、表示が消えるまでお待ちください。 ※ 状況が改善されない場合は、販売店またはシャープお客様相談センターにご相談ください。	— — 43 2. 操作編 257 2. 操作編 272
電源が入らない	電源が入らない	• 本体表示部に「WA It」が表示されているときはシステム準備中です。消えるまでお待ちください。 • 電源プラグがコンセントに差し込まれている場合は、いったん電源プラグを抜き、約 1 分後にもう一度電源プラグを差し込んでから、電源を「入」にしてください。それでも直らない場合は、本機をリセット（上記）してください。	43 43
本体の音／動作	電源を「切」にしたのに動作音がする	• 録画予約、ダウンロード、番組表情報取得、B-CASカード内の契約情報の更新などを実行しているときは本体内部の電源が入っているため、動作音(冷却ファンが回転)がします。 • 一発(クイック)起動待機中など本体内部の電源が入っているときは、動作音(冷却ファンが回転)がします。 電源を切った後、数分間は本体の電源が入った状態となります。 • チャンネル再編情報取得中や、チャンネル再編のためチャンネルを自動設定しているときは、本機の電源が入った状態となります。再編情報取得中は、本体表示部に「DL」が表示されます。	14 14、 2. 操作編 211、240 67
	何も操作していないのに音がする	• 電源が入った状態で一定時間何も操作していないとき、HDD(ハードディスク)の動作音がする場合があります。	—
	電源を切った後、時計表示が出ない	• 「ホーム」−「設定」−「機能切換」の「電源オフ時計表示設定」を「する」に設定してください。 • 電源を切った後、電子番組表データの取得中は、「EPG」と表示されます。 放送局との通信中は「DAtA」と表示されます。時計は表示されません。	2. 操作編 222 2. 操作編 17
	電源を入れると「アンテナ線の接続や設定に不具合がありますので BS/CS 電源を「切」にしました。」のメッセージが出て操作できない	• メッセージが出ても放送が受信できるときは、終了ボタンを押し、「ホーム」－「設定」－「視聴準備」－「アンテナ設定」－「BS・CS デジタル」の「アンテナ電源設定」にある「BS･CS アンテナ電源」を「切」に設定してください。	64
		• メッセージが出て放送が受信できないときは、電源を切り、アンテナ線の接続を確認してください。	21 ～ 24

	こんなときは	ここを確かめてください	ページ
本体の音／動作（つづき）	本機のリモコンでテレビの操作ができない	• テレビメーカー指定の設定をしてください。 • シャープ製デジタルチューナー内蔵のテレビ「アクオス」の場合は、リモコンのテレビメーカー指定を「シャープC1」または「シャープC2」に設定すればテレビのすべての操作ができます。 その他のテレビでは、電源、音量、選局、入力切換が操作できます。	56 56
	リモコンのテレビ／レコーダー切換スイッチを「レコーダーを使う」側にしても、テレビの入力が自動で切り換わらない	• この機能が使えるのは、シャープ製デジタルチューナー内蔵のテレビ「アクオス」を接続したときです。 • リモコンのメーカー指定の設定が「シャープC1」または「シャープC2」になっていますか？ • リモコンの自動入力切換の設定は済んでいますか。 • リモコンのテレビ／レコーダー切換スイッチを操作するときは、リモコンをテレビに向けて操作してください。	57 56 57～59 —
放送が映らない	デジタル放送の画面が映らない 110度CSデジタル放送を受信できない	• B-CASカードが正しく挿入されているか確認してください。 • 「アンテナ電源設定」が「切」になっていませんか。 • 映像、音声のない放送ではありませんか。 • 有料チャンネル、有料番組は、受信契約をしたB-CASカードを本機に挿入しないと受信（録画）できません。	42 64 — 42
	テレビのチューナーでBS・110度CS放送が映らない	• 本機のBS･CSアンテナ電源を「オート」に設定しているときは、本機の電源を切るとアンテナの電源も「切」になります。テレビのアンテナ電源を「オート」または「入」に設定してください。 • アンテナ線はテレビにも接続されていますか。 • 「アンテナ設定」－「BS・CSデジタル」－「信号出力設定」が「しない」に設定されていませんか。「しない」に設定されているとBS･110度CSアンテナ出力端子からテレビへ信号が出力されません。	64 21～24 65
	地上デジタル放送が映らない、映りが悪い	• お使いのアンテナはUHFアンテナですか。 地上デジタル放送を受信するには、UHFアンテナが必要です。 • 地上デジタル放送を視聴するための準備（アンテナ接続、地域選択、チャンネル設定など）ができているか、ご確認ください。 • UHF用アンテナケーブルが正しく接続されているか、抜けかかっていないかなどをご確認ください。 • アンテナケーブルは「VHF/UHF用アンテナケーブル」（付属品または市販品）をお使いください。 • 「ホーム」－「設定」－「視聴準備」－「アンテナ設定」－「地上デジタル」－「信号テスト」で下記を行ってください。 アンテナ受信強度が最高レベル（60以上）になるように、アンテナの向きを調整してください。 • ケーブルテレビ（CATV）会社で地上デジタル放送を配信していても、トランスモジュレーション方式の地上デジタル放送には対応していません。 ※ 状況が改善されない場合は、販売店にご相談ください。 • 「アンテナ設定」－「地上デジタル」－「アッテネーター設定」が「入」に設定されていませんか。「切」に設定し直してください。 • 「ホーム」－「設定」－「視聴準備」－「チャンネル設定」－「地上デジタル」－「チャンネル更新設定」が「手動」に設定されていませんか。「自動」に設定し直してください。	— 21～24、62～71 21～24 — 65 — 65 67

こんなときは		ここを確かめてください	ページ
放送が映らない（つづき）	BSアンテナを接続したが、BS･110度CS放送が映らない	• BS アンテナは 110 度 CS 放送に対応したアンテナですか。 • 衛星放送用アンテナケーブルが正しく接続されているか、抜けかかっていないかなどをご確認ください。 • アンテナケーブルは「衛星放送用同軸ケーブル」（市販品）をお使いください。 •「ホーム」－「設定」－「視聴準備」－「アンテナ設定」－「BS・CS デジタル」－「アンテナ電源設定」で下記①②を行ってください。 ① ご自宅にアンテナを単独で設置された場合は、「BS・CS アンテナ電源」を「入」または「オート」に設定してください。 ② アンテナ受信強度が最高レベル（60 以上）になるように、アンテナの向きを調整してください。 • ご家庭のアンテナ端子が BS・CS/UHF 信号（地上デジタル）が混合されている端子の場合、BS・CS/UHF 分波器を使用して正しくアンテナを接続していますか。	— 21～23 — 64 20～22
	ケーブルテレビ（CATV）で地上デジタル放送を受信できない	• 本機はトランスモジュレーション方式に対応しておりません。 CATVパススルー方式であれば、次の帯域を受信できます：UHF、VHF、ミッドバンド（MID：C13～C22）帯、スーパーハイバンド（SHB：C23～C63）帯 詳しくはCATV会社にご確認ください。	—

	こんなときは	ここを確かめてください	ページ
画面が映らない／音が出ない	画面が映らない	• テレビまたはAVアンプ側で、本機をつないだ入力端子を選択してください。	—
		• HDCPに対応していないDVI機器には映像が映らない場合があります。（本機のHDMI出力端子は、HDMI機器との接続を目的に設計されています。）	26
		• D映像ケーブルを使ってテレビと接続している場合に、映像出力端子の設定を間違えて画面が映らなくなったときは、リモコンふた内の［接続設定リセット］を5秒以上押し続けてください。「映像同時出力設定」が「D映像端子優先」に、「D映像出力設定」が「D1」に変更されます。接続したテレビに合わせて「ホーム」–「設定」–「映像・音声調整」–「映像・音声設定」を変更してください。	52
		• 電源を入れた状態でHDMIケーブルを抜き差ししていませんか。電源を入れた状態でHDMIケーブルを抜き差しすると、映像が映らなくなったり、正しく映らない場合があります。電源を切ってから、本機とテレビのHDMIケーブルを接続し直し、電源を入れてください。	—
		• HDMIアンプ（音声のみ）出力端子とテレビを接続していませんか。HDMIアンプ（音声のみ）出力端子は音声信号のみ出力し、映像信号は出力されません。	32
	放送の映像も音声も出ない	• 映像、音声のない放送ではありませんか。	—
	スピーカーから音が出ない、音が歪む	• テレビまたはAVアンプなどの音量が「MIN(最小)」になっていませんか。	—
		• 接続プラグの差し込みかたが不十分、または外れていないか確認してください。	—
		• 電源を入れた状態でHDMIケーブルを抜き差ししていませんか。電源を入れた状態でHDMIケーブルを抜き差しすると、音が出なくなったり、正しく音が出ない場合があります。電源を切ってから、本機とテレビのHDMIケーブルを接続し直し、電源を入れてください。	—
		• HDMIアンプ(音声のみ)出力端子とAVアンプを接続している場合は、AVアンプの音量を確認してください。	32
	音が左右逆になる／片方しか音が出ない	• 音声ケーブルが左右逆に接続されたり、片方がはずれたりしていませんか。	23、27、28、31
映像が正常に映らない	電波状態が悪く、映像が乱れる(正常に見えない)	• BS・110度CS放送用アンテナの向きを調整してください。	64
		• アンテナケーブルがきちんと接続されているか確認してください。	21～24
	HDMIケーブルでテレビと接続しているが映像が映らない、正常な映像が映らない	• 電源を入れた状態でHDMIケーブルを抜き差ししていませんか。電源を入れた状態でHDMIケーブルを抜き差しすると、映像が映らなくなったり、正しく映らない場合があります。	—
		• 電源を入れた状態で誤ってHDMIケーブルを抜いたときは、電源を切ってからHDMIケーブルを接続し直し、電源を入れてください。	—
SHDDについて	SHDDが挿入できない	• 他のSHDDが入っていませんか。	—
		• SHDD取出しランプが消灯していますか。	35
	SHDDが取り出せない	• SHDDスロット専用ロックツマミが「解除」側になっていますか。	35
		• SHDD取出しランプが緑色に点灯していますか。	35
		• SHDDが使用中ではありませんか。SHDDへの録画や再生を停止してから取り出しを行ってください。	35
	SHDDを認識しない	• SHDDスロット専用ロックツマミが「ロック」側になっていますか。	35
		• SHDDが本機に正しく挿入されていますか。	35
		• 一度SHDDを取り出し、再度、本機に挿入してください。	35
		• モード切り換え時にSHDDが表示されるか確認してください。	2. 操作編 31
	SHDDが使用できない	• SHDDスロット専用ロックツマミが「ロック」側になっていますか。	35
		• SHDD取出しランプが消灯していますか。	35
		• SHDDを本機に登録していますか。	87
		• 他の機器で登録されたSHDDは使用できません。登録した機器で登録を解除し、再度本機で登録してください。	87
		• SHDDの容量は十分にありますか。容量が少ないと録画できない場合があります。	—

	こんなときは	ここを確かめてください	ページ
その他	使用中に本体が熱くなる	• 本機を使用中、使用環境によっては本体キャビネットの温度が若干高くなりますが、故障ではありません。安心してお使いください。 • 「ホーム」－「設定」－「視聴準備」－「アンテナ設定」－「BS·CS デジタル」－「アンテナ電源設定」にある「BS·CSアンテナ電源」を「入」に設定している場合は、本機の電源を切っても本体キャビネットの温度が多少高くなります。	— 64
	「アクオス純モード」／「クアトロン純モード」にならない	• ファミリンク対応の「アクオス」「アクオス クアトロン」とHDMIケーブルで接続していますか。 • 「ファミリンク設定」の「連動設定」は「する」になっていますか。 • HDMIケーブルを使いテレビと接続してください。HDMIケーブルとD映像ケーブルの両方を接続しているときは「ホーム」－「設定」－「映像·音声調整」－「映像·音声設定」－「映像同時出力設定」で「HDMI端子優先」に設定されているか確認してください。	26、38～39 54 38～39、2. 操作編 218
	ファミリンクが働かない	• HDMIケーブルを使いテレビと接続してください。HDMIケーブルとD映像ケーブルの両方を接続しているときは「ホーム」－「設定」－「映像·音声調整」－「映像·音声設定」－「映像同時出力設定」で「HDMI端子優先」に設定されているか確認してください。	38～39、2. 操作編 218

エラーメッセージ（例）

ディスクが正しくなかったり操作を誤ったときは、本体表示部やテレビ画面に次のような表示が出ます。

本体表示部

こんなときは	ここを確かめてください	ページ
表示: WA IL	• 本体システム準備中です。「WA IL」表示中は電源が入りませんので、消えるまでお待ちください。	―
表示: Err	• 動作不具合が発生しました。一度、電源を「切」にし再度電源を入れ操作してください。	―
表示：RC ：1 RC ：2 RC ：3	• 本体のリモコン番号とリモコンの番号が違っています。本体表示部に点滅表示されるリモコン番号に、リモコンの番号を設定し直してください。	**60〜61**
表示：RC ：- -	• リモコンのテレビ／レコーダー切換スイッチが「テレビを使う」になっています。レコーダーを操作する場合は、「レコーダーを使う」に切り換えて操作してください。 • アクオスのリモコンを操作している場合にも、信号を受信して表示される場合があります。	2. 操作編 **32** ―

テレビ画面

■ テレビ視聴に関するメッセージ

テレビ画面表示		エラーの内容と対応	ページ
―	B-CAS カードをカードスロットに正しく挿入してください。 B-CAS カードを挿入していてもこのメッセージが表示される場合は、カードを差し直してください。	• B-CAS カードの挿入が不完全です ➤ B-CAS カードを正しく挿入してください。	**41、42**
A102	この B-CAS カードは使用できません。 正しい B-CAS カードを挿入してください。	• B-CAS カードが割れているなど、破損していたり、IC チップが壊れている ➤ B-CAS カードを一度抜き差ししてみてください。それでもエラーが表示される場合は、B-CAS カスタマーセンターおよびご覧のチャンネルのカスタマーセンターまでご連絡ください。	**41、42**
A103	• この番組をご覧頂くには､契約登録が必要です。詳細は、ご覧のチャンネルのカスタマーセンターへご連絡ください。 • この番組は有料放送です。番組を視聴・録画するにはレコーダーに契約済みの B-CAS カードを挿入してください。	• WOWOW や CS デジタル放送などの有料放送を無契約状態で選局した場合 ➤ 契約済みの B-CAS カードを挿入してください。 ➤ ご覧のチャンネルのカスタマーセンターまでご連絡ください。	**41、42** ―
A107	この B-CAS カードには必要な情報がありません。 ご覧のチャンネルのカスタマーセンターへご連絡ください。	• ご覧のチャンネル用の B-CAS カードではありません ➤ ご覧のチャンネル用の B-CAS カードを挿入してください。	**41、42**

次ページへつづく

■ テレビ視聴に関するメッセージ（つづき）

テレビ画面表示		エラーの内容と対応	ページ
C000	アクセスできませんでした。	• 接続しましたが、サーバーへのアクセスができないとき ➤ 一度別のチャンネルを選局した後、もう一度エラー表示のでたチャンネルを選局し直してみてください。	―
C204	アクセスできませんでした。	• 接続しましたが、サーバーへのアクセスができないとき ➤ ご覧のチャンネルのカスタマーセンターまでご連絡ください。	―
C208	サーバー証明書が不正のため、アクセスを中断します。	• 放送で送られたルート証明書が信頼できないため、アクセスを中断したとき ➤ ご覧のチャンネルのカスタマーセンターまでご連絡ください。	―
C209	サーバー証明書に問題があり、アクセスを中断します。	• 放送で送られたルート証明書の形式が不正なため、アクセスを中断したとき ➤ ご覧のチャンネルのカスタマーセンターまでご連絡ください。	―
E201	• 天候の影響やアンテナの接続状況などにより、受信状態が悪くなっています。	• 降雪や降雨障害などの電波障害またはアンテナの方向や角度がずれたことによりアンテナ信号が弱くなったとき ➤ アンテナの向きがずれていませんか。 ➤ 受信強度は 60 以上ありますか。アンテナ信号テストで受信強度を確認してください。 ➤ 降雪や降雨により電波障害が起こりアンテナ信号が弱くなる場合があります。	64 65 2. 操作編 241
ー	• ライブ放送の受信状態が回復しました。 • 降雨対応画面選択中です。		
E202	• 放送が受信できません。 • アンテナの接続状況や調整、アンテナ設定のBS・CSアンテナ電源の設定をご確認ください。 • 放送が受信できません。アンテナの接続状況や調整をご確認ください。	• アンテナが接続されていないときや、放送が受信できないとき • 電波状態が悪く放送が受信できないとき ➤ アンテナ線やチャンネル設定は正しいですか。	21 ～ 24、62 ～ 73
ー	地上デジタル放送のチャンネル再編に失敗しました。アンテナの接続状況や調整を確認してから地上デジタル放送の受信チャンネルの設定を行ってください。	• 地上デジタル放送のチャンネル再編ができない ➤ 地上デジタル放送のチャンネル設定をやり直してください。	66
E203	現在放送されていません。番組表などで放送時間を確認してください。	• 選ばれている放送局で、番組の放送が終了している ➤ 番組表などで放送時間を確認してください。	2. 操作編 38
ー	• 放送が受信できないため 録画を停止しライブ放送に戻りました。 • 放送が受信できないため録画を停止しました。 • 受信状態が悪くなっていますので録画を停止しライブ放送に戻りました。 • ライブで放送が受信しにくくなっています。	• アンテナが接続されていないときや、放送が受信できないとき • 電波状態が悪く放送が受信できないとき ➤ アンテナ線やチャンネル設定は正しいですか。	21 ～ 24、62 ～ 73

■ テレビ視聴に関するメッセージ（つづき）

テレビ画面表示		エラーの内容と対応	ページ
E400	データが受信できません。	• 電波障害等によりデータを受信できない場合など ➤ 一度別のチャンネルを選局した後、もう一度エラー表示のでたチャンネルを選局し直してみてください。	―
E401	対象地域外のため、データを表示できません。 この受信機では、データを表示できません。	• 対象地域外のデータ放送を選局しているとき ➤ 別のチャンネルを選局してお楽しみください。	―
E402	データの表示に失敗しました。	• 選んだチャンネルのデータの表示に失敗したとき ➤ 一度別のチャンネルを選局した後、もう一度エラー表示のでたチャンネルを選局し直してみてください。	―
―	現在接続されている機器には、コンテンツ保護の必要な映像信号を出力できません。	• DVI-HDMI 変換ケーブルを使用し HDCP 非対応のモニターと接続した場合に表示されます	**26**
―	アンテナ信号レベルが強すぎて放送が受信できません。信号レベルを調整してください。	• アンテナ信号が強すぎるため、受信障害が発生しているとき ➤ 地上デジタル放送受信中にこの表示が出たときは、「ホーム」－「設定」－「視聴準備」－「アンテナ設定」－「地上デジタル」の「アッテネーター設定」を「入」に設定してください。 ➤ ブースターの調整や減衰器の挿入が必要です。販売店などにご相談ください。	**65** ―
―	アンテナ線の接続や設定に不具合がありますのでBS/CS 電源を「切」にしました。 受信できない場合は、本体の電源を切ってから、アンテナとの接続を確認してください。	➤ 電源を入れ直してください。 BS デジタル放送や 110 度 CS デジタル放送が受信できない場合は、本体の電源を切り、アンテナとの接続を確認してから電源を入れなおしてください。	**21 ～ 23**

■ 無線 LAN の接続設定に関するメッセージ

テレビ画面表示		エラーの内容と対応	ページ
―	内容を確認し、正しく入力してください。	• セキュリティキーが間違っている ➤ セキュリティキーを正しく入れなおしてください。	**79**
―		• アクセスポイントが間違っている ➤ アクセスポイントを正しく入れなおしてください。	**79**
―	アクセスポイントに接続できませんでした。	• アクセスポイントが間違っている ➤ アクセスポイントを正しく入れなおしてください。	**79**
―	無線設定に失敗しました。アクセスポイントの電源や設定を確認してください。	• アクセスポイントの電源が切れているか設定に間違いがある。 ➤ アクセスポイントの電源や設定を確認してください。	**79**
―	設定内容や接続先機器を確認してください。	• 設定内容や接続先機器に間違いがある。 ➤ 設定内容や接続先機器を確認してください。	**79**

■ SHDD（スロットインハードディスク）に関するメッセージ

テレビ画面表示		エラーの内容と対応	ページ
ー	SHDD が認識できません。 本体のスイッチを「解除」側にし、SHDD を取り出した後、再度挿入してください。	• SHDD（スロットインハードディスク）が認識できない ➤ SHDD（スロットインハードディスク）が正しく挿入されているか確認してください。	35
ー	登録できる SHDD は１６台までです。 使用しない SHDD の登録を解除してから登録してください。	• 本機に SHDD（スロットインハードディスク）がすでに 16 台登録されている ➤ 本機に登録できる SHDD（スロットインハードディスク）は最大 16 台です。	87
ー	登録されている SHDD はありません。	• SHDD（スロットインハードディスク）が 1 台も登録されていない ➤ SHDD（スロットインハードディスク）を登録してください。	87
ー	SHDD が登録されていません。 SHDD の登録を行ってください。	• 本機に挿入されている SHDD（スロットインハードディスク）が初期化できない ➤ SHDD（スロットインハードディスク）を登録してから初期化してください。	87
ー	SHDD の登録に失敗しました。 本体のスイッチを「解除」側にし、SHDD を取り出した後、再度挿入してください。	• SHDD（スロットインハードディスク）の登録ができない ➤ SHDD（スロットインハードディスク）が正しく挿入されているか確認してください。	35
ー	SHDD の準備中です。 操作できません。	• SHDD（スロットインハードディスク）の認識中です ➤ 少し待ってから再度操作してください。	―
ー	SHDD ディスクの確認が必要です。 一度本体の電源を切り、再度電源をいれてください。	• 停電などで電源が切れ、SHDD（スロットインハードディスク）を認識できない ➤ 再度電源を入れ直してください。	―
ー	リセット操作などにより SHDD のディスクを確認しています。 完了まで 10 分以上かかる場合があります。	• リセットなどで電源が切れ、SHDD（スロットインハードディスク）を認識できない ➤ 少し待ってから再度操作してください。	―
ー	録画・再生など動作中は SHDD の取り出しはできません。一度本体のスイッチを「ロック」側に戻し、動作が全て終了してから再度スイッチを「解除」側にスライドさせてください。	• SHDD（スロットインハードディスク）の動作中に SHDD を取り出そうとした ➤ 一度本体のスイッチを「ロック」側に戻し、動作が全て終了してから再度スイッチを「解除」側にスライドしてください。	35
ー	現在の SHDD 残量では最後まで録画できない可能性があります。 満杯まで録画します。	• SHDD（スロットインハードディスク）の容量不足です ➤ SHDD（スロットインハードディスク）内のタイトルを消去し、空き容量を増やしてから再録画してください。	2. 操作編 120～122

■ SHDD（スロットインハードディスク）に関するメッセージ（つづき）

テレビ画面表示		エラーの内容と対応	ページ
ー	ディスクが満杯なので録画できません。 不要なタイトルを消去するか、他の SHDD を使用してください。	• SHDD（スロットインハードディスク）の容量不足です ➤ SHDD（スロットインハードディスク）内のタイトルを消去するか、他の SHDD を使用してください。	2. 操作編 120～122
ー	SHDD への代替録画をします。 現在の SHDD 残量では最後まで録画できない可能性があります。満杯まで録画します。	• SHDD（スロットインハードディスク）の容量不足です ➤ SHDD（スロットインハードディスク）内のタイトルを消去するか、他の SHDD を使用してください。	2. 操作編 120～122
ー	録画可能な時間があと１０分を切りました。 続けて録画する場合は、SHDD の交換をおすすめします。	• SHDD（スロットインハードディスク）の容量不足です ➤ SHDD（スロットインハードディスク）内のタイトルを消去するか、他の SHDD を使用してください。	2. 操作編 120～122
ー	録画可能な時間があと５分を切りました。 続けて録画する場合は、SHDD の交換をおすすめします。	• SHDD（スロットインハードディスク）の容量不足です ➤ SHDD（スロットインハードディスク）内のタイトルを消去するか、他の SHDD を使用してください。	2. 操作編 120～122
ー	ディスクが満杯なので録画を停止しました。 不要なタイトルを消去するか、他の SHDD を使用してください。	• SHDD（スロットインハードディスク）の容量不足です ➤ SHDD（スロットインハードディスク）内のタイトルを消去するか、他の SHDD を使用してください。	2. 操作編 120～122
ー	番組表予約開始まで５分をきりました。 SHDD を接続してください。	• SHDD（スロットインハードディスク）が未挿入です ➤ 録画可能な SHDD（スロットインハードディスク）を挿入してください。	35
ー	外付け HDD が接続されました。 増設HDD使用設定を「外付け HDD」に変更してから使用してください。	• 増設 HDD 使用設定で「SHDD」が選択されています ➤ 増設 HDD 使用設定で「外付け HDD」を選択してください。	89
ー	ＳＨＤＤが接続されました。 増設 HDD 使用設定を「SHDD」に変更してから使用してください。	• 増設 HDD 使用設定で「外付け HDD」が選択されています ➤ 増設 HDD 使用設定で「SHDD」を選択してください。	87
ー	不正な SHDD が接続されました。 他の SHDD を使用してください。	• SHDD（スロットインハードディスク）が認識できない ➤ 使用可能な SHDD（スロットインハードディスク）を挿入してください。	35
ー	SHDD にエラーが発生しましたので一部の機能がご利用できません。 再度電源を入れ直した後も発生する場合はお客様ご相談窓口までご連絡ください。	• SHDD（スロットインハードディスク）が使用温度範囲外で動作しない ➤ 使用温度範囲内で動作してください。	ー

■ 外付け HDD に関するメッセージ

テレビ画面表示		エラーの内容と対応	ページ
ー	外付け HDD が認識できません。接続機器の確認、または接続をし直してください。	• 外付け HDD が認識できない ➤ 外付け HDD が正しく接続されているか確認してください。	36
ー	登録できる外付け HDD は 8 台までです。使用しない外付け HDD の登録を解除してから登録してください。	• 本機に外付け HDD がすでに 8 台登録されている ➤ 本機に登録できる外付け HDD は最大 8 台です。	89
ー	外付け HDD が接続されました。 外付け HDD の登録を行ってください。	• 未登録の外付け HDD を接続した ➤ 外付け HDD を本機に登録してください。	89
ー	この外付け HDD は登録されています。	• すでに登録されている外付け HDD を登録しようとした	―
ー	複数の外付け HDD が接続されています。 1 台のみ本機に接続してください。	• USB ハブなどを使用し複数台の外付け HDD を接続した ➤ 本機に接続できる外付け HDD は 1 台のみです。1 対 1 接続にしてください。	36
ー	外付け HDD が既に接続されています。 後から接続した外付け HDD は使用できません。		
ー	ケーブルの抜き差しなどにより外付け HDD のディスクを確認しています。 完了まで 10 分以上かかる場合があります。	• 外付け HDD の取り外し操作をせずにケーブルなどを抜き差しした ➤ 外付け HDD を本機から取り外すときは、必ず所定の取り外し操作を行ってください。	89
ー	外付け HDD を認識できなくなったため、実行中の動作を全て中断して電源を「切」にします。	• 外付け HDD の取り外し操作をせずにケーブルなどを抜いたため、外付け HDD が認識できなくなった ➤ 外付け HDD を本機から取り外すときは、必ず所定の取り外し操作を行ってください。	89

こんなときには？（接続・設定時）

映像が乱れたり雑音が聞こえる場合は

- 本機とテレビを接続しているコード類をアンテナ線と一緒に束ねないでください。テレビ放送を見るときに画面にノイズが出るなど、電波妨害の原因となることがあります。
- 機器間の相互干渉による映像の乱れや雑音などを避けるため、電源コードや他の接続コード類をアンテナ線からできる限り離してご使用ください。
- アッテネーター（減衰器）設定を確かめてください。(→ **65** ページ)
  - 通常の受信強度の環境で「入」に設定したときは、アンテナ信号レベルが低くなるため、映りが悪くなります。通常は「切」で使用します。
  - アッテネーター（減衰器）設定は、電波の受信強度が強く、映りが悪くなるとき、「入」に設定します。信号レベルを減衰させ放送が映るようにします。

テレビのオートワイド機能が働かないとき

- コンポーネント映像入力端子に接続したときは、テレビのオートワイド機能は働きません。

ビデオデッキを接続していて、テレビの映りが悪いときは

- ビデオデッキなどを中継してアンテナ線を接続すると、テレビの映りが悪くなる場合があります。そのときは、市販のブースターをご使用ください。

ビデオデッキからの映像を正常に録画できないときは

- 市販のビデオソフトなど、コピー防止機能の入ったテープを再生すると、コピー防止機能の働きにより本機では録画（正常な録画）ができません。

本機に接続したビデオデッキの再生映像が見られないときは

- 本機を使用（再生や録画）しているときは、接続したビデオデッキで再生しているビデオの映像が見られません。接続したビデオデッキからの映像を見るときは、本機の録画や再生を停止してからビデオデッキを接続している外部入力に切り換えてご覧ください。

ディスクの再生時に音声が正常に聞こえないときは

- オーディオ機器と接続したときは、「ホーム」－「設定」－「映像・音声調整」－「映像・音声設定」－「音声出力レベル」（→ 2. 操作編 **219** ページ）で設定を「ノーマル」または「切」にすることをおすすめします。「シフト」に設定すると、ディスク再生時に音声が正常に聞こえない場合があります。

初めて電源を入れたが、「初期設定」画面（→ 46 ページ）が表示されないときは

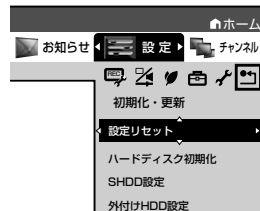
- 接続後、初めて電源を入れたときに「初期設定」画面が表示されない場合は、次を確かめてください。
  1. 本機とテレビの接続ケーブルがはずれていませんか？
  2. 映像・音声ケーブルで接続している場合、本機の出力端子からテレビの入力端子につながっていますか？
  3. テレビの入力切換ボタンで、本機がテレビに接続されている入力が選ばれていますか？
  4. 上記を確認しても初期設定画面が表示されない場合、次の手順でリセットしてください。

① ホーム を押す

②
「設定」を選択 「決定」を押す

③
「初期化・更新」を選択

④
「設定リセット」を選択 「決定」を押す

⑤
「リセットする」を選択 「決定」を押す

自動的に電源が切れます

⑥ 電源ボタンの赤ランプ点灯後、再度電源を入れる
⇒ 初期設定画面表示

用語の解説

アルファベット

3D
人はものを見るときに右目・左目それぞれ、わずかに異なった映像を見ています。これを「視差」と呼び、脳の処理により奥行き感や立体感を認知します。3D映像はこの「視差」を応用し、右目用、左目用の映像を交互に高速表示することにより2つのイメージを立体感のある映像として脳に認識させる技術です。3Dの視聴には、3Dに対応したテレビなどが必要です。

AAC
音声圧縮方式の一つで国際的な標準規格である、Advanced Audio Codingの略です。
地上デジタル/BSデジタル/CSデジタル放送の映像圧縮方式である「MPEG-2」に採用されています。MPEG-1に採用されている音声圧縮方式「MP3」より、1.4倍ほど圧縮効率が高くなっています。

ADSL回線
ブロードバンド回線のひとつで、アナログ固定電話回線の音声通話に使用しない帯域を使った回線です。

ADSLモデム
本機やコンピュータなどをADSL回線に接続する際に、信号を変換するための機器です。公衆電話回線網で使われるADSL信号と、LANで使われるイーサネットの信号の変換をします。
ADSLの規格は事業者ごとに異なるため、事業者を変更した場合や、引っ越しなどで本機をお使いになる地域が変わった場合には、同じADSLモデムがご利用いただけないことがあります。

ARIB（社団法人電波産業会）
電波法で規定される「電波有効利用促進センター」として、総務大臣より指定を受けた機関のことです。

AVCHD
ハイビジョン動画記録フォーマットであり、8cm DVDへの記録をH.264/MPEG-4 AVC方式で行うものです。

B-CAS
デジタル放送は不正コピー等を防ぐためにデータを暗号化しています。番組の著作権保護や有料放送の視聴等に利用されているのがB-CASカードで、暗号化を解除するための鍵データを記録したICカードです。発行しているのが株式会社ビーエス·コンディショナルアクセスシステムズ(B-CAS)です。

BD-LIVE（BDライブ）
インターネットに接続したブルーレイディスクプレーヤーを通じて、特典映像などのさまざまな情報をダウンロードできるサービスです。

CATV
ケーブルテレビ（有線放送）のことです。

CATVパススルー
ケーブルテレビ配信局が地上デジタル放送を、内容はそのままでCATV網に流す放送方式です。この方式では、地上デジタル放送が本来使っているUHF帯のチャンネルとは異なる他のチャンネルに周波数を変換して再送信することがあります。
本機で受信できるのは次の周波数帯です。
UHF帯／VHF帯／ミッドバンド（MID:C13～C22）帯／スーパーハイバンド（SHB：C23～C63）帯

D映像端子
コンポーネントと呼ばれる3本の輝度・色差信号（Y/C_B/C_R およびY/P_B/P_R）のコード接続を、1本のコードで行えるように考案された端子です。D端子は、色差信号の他にも、走査線、アスペクト比、インターレース／プログレッシブの情報を送ることができます。

DLNA
デジタル家電やパソコンなどを相互接続するためのガイドラインです。ネットワーク経由で異なる機器間でのデータのやり取りができ、レコーダーで録画した映像を他の部屋のテレビで見ること等ができます。

DTS
DTS社が開発した、劇場向けデジタル音声システムのことです。音声6chを使って、正確な音場定位とリアルな音響効果が得られます。DTS対応プロセッサーやアンプとの接続で映画館のような音声が楽しめます。

DTS-HD
DTSと比べてより高音質で多チャンネルに対応した、新しい音声圧縮技術です。原音と同じ音質で再生できる「DTS-HD Master Audio」と、より圧縮率の高いDTS-HD High Resolution Audioの二種類があります。HDMIケーブルを使ってDTS-HD対応のAVアンプやサラウンド機器と接続することで、最大7.1chのサラウンド音声が楽しめます。

DVI
Digital Video Interfaceの略で、デジタル方式の映像信号のインターフェースです。液晶モニターやプロジェクターなどに搭載されています。

EPG（電子番組表）
- テレビの画面に表示される番組表のことです。番組表から視聴したい番組や、予約録画したい番組を選べます。
- 番組表データを取得中は、本体表示部に「EPG」と表示されます。

HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection system）
映像再生機器から表示機器にデジタル信号を送受信する経路で、不正コピーを防止する著作権保護技術です。

HDMI
High Definition Multimedia Interfaceの略で、ハイビジョン映像信号、マルチチャンネルオーディオ信号、双方向伝送対応のコントロール信号を1本のコードで接続できるデジタルAVインターフェースです。デジタル信号を圧縮せずに転送するので、高品位な画質・音質をシンプルな接続で楽しむことができます。

LAN
Local Area Network（ローカル・エリア・ネットワーク）の略で、コンピューター・ネットワークの形式のひとつです。
一般家庭や企業のオフィスなど、小さな規模で用いられています。
本機のLAN接続方法はLANケーブルで接続する有線LANと、ワイヤレスで接続する無線LANがあります。無線LAN接続には無線LANに対応したブロードバンドルーターが必要です。

PCM（Pulse Code Modulation）
アナログの音声信号をデジタル信号に変換する方式の1つです。音楽CDはこの方式を利用しています。

RW コンパチブル（RW COMPATIBLE）
VR フォーマットで記録された DVD-RW が再生できる機能を示しています。
この機能がある DVD プレーヤーには、RW COMPATIBLE 表示があります。

SHDD（スロットインハードディスク）
本機で使用できる AQUOS ブルーレイ専用の SHDD（スロットインハードディスク）です。

TSUTAYA TV
インターネットを利用してハイビジョンテレビや、ブルーレイレコーダーなどのデジタル家電に、HD 動画などを配信するサービスです。

Wi-Fi コネクト
本機に搭載したアクセスポイント機能を利用し、無線 LAN の親機となり、ホームネットワークに対応した機器を子機として接続することで、視聴、録画を楽しむことができる機能です。

YouTube
インターネットで動画を共有するサービスの 1 つです。

あ行

アクセスポイント機能（Wi-Fi コネクト）
➞「Wi-Fi コネクト」

アクトビラ
インターネットを利用して、テレビやレコーダーで映画やドラマ等を視聴する、動画配信サービスです。本機では「アクトビラ ビデオ」と「アクトビラ ビデオ・フル」を楽しむことができます。

アンテナ電源設定
BS・110 度 CS デジタル放送用アンテナに本機からアンテナ電源を供給するかしないかを設定します。

インターネット
本機のインターネット機能は、アクトビラの動画配信サービス「アクトビラ ビデオ」、「アクトビラ ビデオ・フル」と TSUTAYA TV、YouTube を楽しむための機能です。

インターネットサービスプロバイダ
ご家庭のパソコンなどをインターネットに接続するためのサービスを提供している事業者のことです。プロバイダと呼ばれたり、ISP と表記されることもあります。

音声出力レベル
BD ビデオや DVD ビデオディスクの再生で、ドルビーデジタル音声の平均音声を上げるかどうかを設定する機能です。

か行

ケーブルテレビ（CATV）
契約者と放送局をケーブルで直接結んで番組を提供する有線放送です。

さ行

スカパー！HD
通信衛星を利用した衛星放送（CS デジタル放送）サービスです。スカパー！HD 対応チューナー、スカパー！光 HD 対応チューナーと本機を LAN ケーブルで接続することで、スカパー！HD をハイビジョン録画することができます。

スキップ
選局をしたときに放送のないチャンネルをとばして選局できる機能です。

スプリッター
ADSL 回線でインターネットに接続する際に、インターネット用のデータ信号と電話用の音声信号を分離する機器です。

双方向番組
地上デジタル放送でのサービスで放送局との双方向通信を行い、テレビ上でのショッピングや視聴者が参加できるクイズなどの番組です。

外付け HDD
本機後面の外付け HDD 用端子に USB 接続して使用できるハードディスクです。

た行

地デジ難視対策放送
電波状況が悪く、地上デジタル放送が受信できない地域への受信対策として、衛星を利用した再送信サービスです。一般の地域ではご利用できないサービス放送です。

デジタル放送
デジタル放送は、ハイビジョン放送（1080i）と標準放送（480i）の 2 つの放送があります。
- HD 放送……ハイビジョン放送のことです。
- SD 放送……標準スタンダード放送のことです。

電子番組表（EPG）
- テレビの画面に表示される番組表のことです。番組表から視聴したい番組や、予約録画したい番組を選べます。
- 番組表データを取得中は、本体表示部に「EPG」と表示されます。

ドルビーデジタル（5.1ch）
ドルビー社が開発した立体音響効果のことをいいます。ドルビーデジタル（5.1ch）対応プロセッサーやアンプとの接続で、映画館のようなディスクの再生音声が楽しめます。

ドルビーデジタルプラス
ドルビーデジタルと比べてより高音質で多チャンネルに対応した、新しい音声圧縮技術です。HDMI ケーブルを使ってドルビーデジタルプラス対応の AV アンプやサラウンド機器と接続することで、最大 7.1ch のサラウンド音声が楽しめます。

ドルビー TrueHD
ドルビーデジタルプラスと比べてより高音質で多チャンネルに対応した、新しい音声圧縮技術です。原音と同じ音質で音声を再生できます。HDMI ケーブルを使ってドルビー TrueHD 対応の AV アンプやサラウンド機器と接続することで、最大 7.1ch のサラウンド音声が楽しめます。

は行

ハブ
複数の機器を LAN に接続するための集線機器です。
LAN などのネットワークのケーブルを分けたり、中継したりする機器です。

ビットストリーム
圧縮されたデジタル信号のことです。このデジタル信号をそのまま出力することをビットストリーム出力といいます。ビットストリーム出力した音声信号を再生するためには、ドルビー TrueHD や DTS-HD などに対応したオーディオ機器と HDMI ケーブルを使って接続することが必要です。

ファミリンク機能
ファミリンク機能とは、HDMI CEC（**C**onsumer **E**lectronics **C**ontrol）を使用し、HDMI で規格化されているテレビやレコーダー、AV アンプを制御するためのコントロール機能です。テレビのリモコンでレコーダーを再生したり、録画、予約録画などが行えます。

プログレッシブ（順次走査）方式
映像の 1 フレーム（コマ）を 2 つのフィールド画像で半分ずつ表示するインターレース方式に対し、1 フレームを 1 つの画像で表示する方法です。従来のインターレース方式が 1 秒を 30 フレーム（60 フィールド）で構成するのに対し、初めから 1 秒を 60 フレームで構成することで高品質な画像を再現できます。

ブロードバンドルーター
広帯域のデータ信号を他のネットワークに接続するための中継機器です。

プロバイダ
一般にはインターネットサービスプロバイダ（ISP、インターネット接続業者）のことをいいます。電話回線などを使って顧客のコンピューターをインターネットに接続するほか、メール利用などのサービスを行うことがあります。

ホームネットワーク
それぞれの機器からインターネットに接続できるようにするために「LAN」で各機器をネットワーク接続することです。本機で録画した映像を他の部屋のテレビで視聴することや、スカパー！HD 対応チューナー、DLNA 対応の CATV デジタルセットトップボックスから本機で録画することができます。

リモコン番号
本機を操作するためのリモコンの信号の種類です。リモコン番号は、「リモコン番号 1」「リモコン番号 2」「リモコン番号 3」の３種類があります。

さくいん

英数字

あ行

か行

さ行

た行

は行

ま行

や行

ら行

シャープはエコポジティブ。

この製品は、こんなところがエコロジークラス。

省エネ 低消費電力／省スペース

エコモード搭載により、待機時の省電力化を実現しました。

グリーン材料 すべての基板に無鉛ハンダを使用

使用している基板すべてに鉛を含まないハンダを採用しています。
環境に配慮したグリーン材料設計です。

上手に使って、もっともっとエコロジークラス。

◎自動的に電源を切る設定を!

① 電源が入ったままの状態で、約３時間何も操作されないと自動的に電源をオフする機能を採用しています。
② 予約録画中に追いかけ再生や別タイトルの再生を行った場合、操作後に電源ボタンを1回押してください。
予約録画実行後に自動的に電源を切ることができますので、効率的な省エネになります。

MY家電登録のご案内
詳しくはホームページで →

http://iclub.sharp.co.jp/m/

SHARP i CLUB は、お客様がご愛用のシャープ製品について、便利な使い方や、製品のサポート･サービス、キャンペーンなど、一人ひとりに合ったサービスをご利用いただける会員様向けサイトです。ぜひ登録ください。

お問い合わせ先

お問合わせの前にもう一度別冊の取扱説明書 2. 操作編 の「故障かな？と思ったら」(239ページ)をご確認ください。

パソコン

メールでのお問い合わせなど
【シャープサポートページ】

シャープ　お問い合わせ　検索

http://www.sharp.co.jp/support/

お電話

使用方法,修理のご相談や修理品引き取りサービスのご相談など
【お客様相談センター】

携帯･PHS OK **0120 - 001 - 251**

※詳しくは、取扱説明書 2. 操作編 **272**ページをご覧ください

受付時間 ●月曜～土曜:**9:00～20:00** ●日曜･祝日:**9:00～17:00**（年末年始を除く）

●電話番号をお確かめのうえ、お間違いのないようにおかけください。
●電話番号・受付時間などについては、変更になることがあります。（2012.4）

シャープ株式会社

本　　　社　〒545-8522 大阪市阿倍野区長池町22番22号
AVシステム事業本部　〒329-2193 栃木県矢板市早川町174番地

Printed in China
ORA9063-A

TINSJA566WJQZ
12P04-CH-NM